

令和6年度
第2回葛飾区区民モニターアンケート
調査報告書

- －「子どもの権利について」－
- －「緊急時の医療について」－
- －「葛飾区郷土と天文の博物館の利用について」－

令和6年9月



目次

I 調査概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査のテーマ	1
3. 調査の設計	1
4. 調査機関	1
5. 報告書の表記について	1
II 回答者の属性	2
III 調査結果の詳細	6
1. 子どもの権利について	6
(1) 葛飾区子どもの権利条例の認知度	6
(2) 葛飾区子どもの権利条例をどこで知ったか	8
(3) 葛飾区子どもの権利条例についてどの程度知っているか	10
(4) 普段、子どもの権利を尊重しているか	12
(5) 子どもの権利に関わることで関心があるもの	14
(6) 子どもの権利侵害に関する相談先として知っているもの	16
(7) 子ども自身が相談する場合、どの手段が一番相談しやすいか	18
(8) 乳幼児親子が安心して過ごせる居場所や遊び場が十分確保されているか	20
(9) 小学生が安心して過ごせる居場所や遊び場が十分確保されているか	22
(10) 中高生が安心して過ごせる居場所や遊び場が十分確保されているか	24
(11) 家庭や地域で子どもと関わるときに、子どもの話を聴くことができるか	26
(12) 家庭や地域で子どもと関わるときに、子どもの話を聴くことができない理由	28
(13) 子どもの権利を守るために特に必要だと思う取組	30
(14) 子どもの権利に関する認知度を上げるために効果的だと思うもの	32
2. 緊急時の医療について	34
(15) 「緊急医療救護所」の認知度	34
(16) あなたが行くべき緊急医療救護所を知っているか	36
(17) 行くべき緊急医療救護所を確認したいと思うか	38
(18) トリアージの認知度	41
(19) 災害時の医療体制についての講習会の参加有無	43
(20) AED（自動体外式除細動器）の認知度	45
(21) AEDの使い方は知っているか	47
(22) AEDの設置場所の認知度	49

(23) AED講習会を実施した場合の参加の有無	51
(24) 緊急医療救護所やAEDを知ってもらうためのPR方法	53
3. 葛飾区郷土と天文の博物館の利用について	55
(25) 郷土と天文の博物館の来館の有無	55
(26) 郷土と天文の博物館の来館回数	57
(27) 郷土と天文の博物館の来館目的	59
(28) 郷土と天文の博物館に来館したことがない理由	61
(29) 博物館がイベントや講座を実施していることの認知度	63
(30) 博物館でのボランティア活動の認知度	65
(31) 博物館のホームページから得たことがある情報は何か	67
(32-1) 「博物館」のイメージについて	69
(32-2) 「プラネタリウム」のイメージについて	71
(33-1) 「博物館」の事業内容に期待することについて	73
(33-2) 「プラネタリウム」の事業内容に期待することについて	76
《調査全般を通じて》	79

I 調査概要

1. 調査の目的

区が実施している施策や区が発信している情報等について、無作為に選定した方から公募により決定した「区民モニター」から、適時かつ具体的なご意見を収集することにより、区政への活用を図るもの。

2. 調査のテーマ

- (1) 子供の権利について
- (2) 緊急時の医療について
- (3) 葛飾区郷土と天文の博物館の利用について

3. 調査の設計

- (1) 調査対象 無作為で選定した18歳以上の区民4,000人から公募により決定した区民モニター500名
- (2) 調査方法 インターネットでの回答
- (3) 調査期間 令和6年7月10日(水)～7月31日(水)
- (4) 有効回収数 433名

4. 調査機関

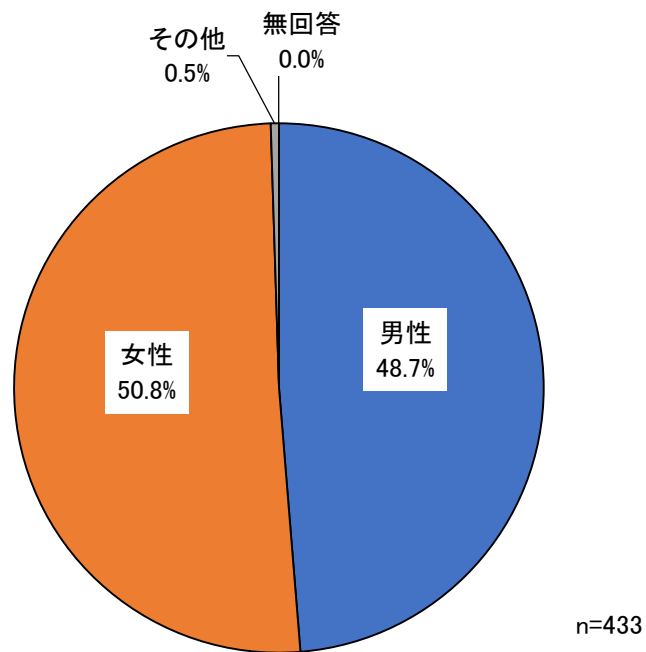
株式会社都市計画21

5. 報告書の表記について

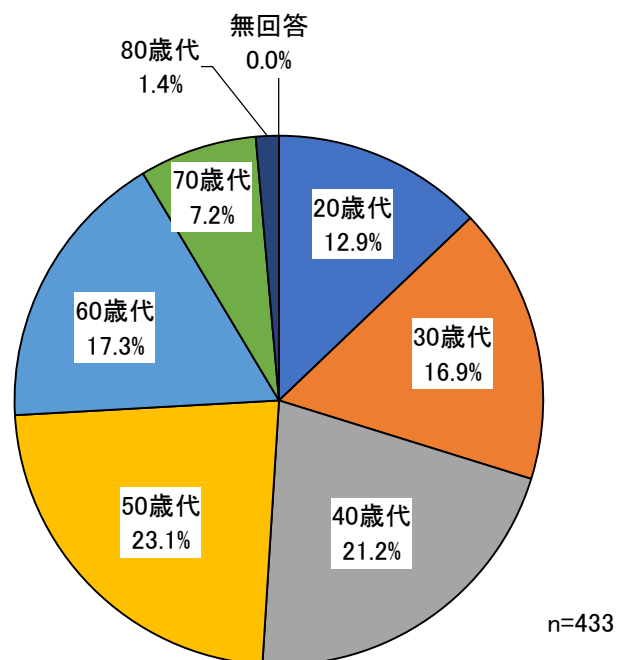
- (1) 比率は全て百分率で表記し、小数点以下第2位を四捨五入して算出している。そのため、四捨五入によって生じる誤差により、百分率の合計が100%にならない場合がある。
- (2) “n”は各設問の回答数を示している。比率はnを母数として、算出している。
- (3) 複数回答の設問では、1人が複数の回答を選択可能なため、各選択肢における回答数の合計が100%を超過している。
- (4) 年齢層・年代別の20歳代には、18歳・19歳を含んでいる。
- (5) 年齢層・年代別の80歳代には、90歳以上を含んでいる。

II 回答者の属性

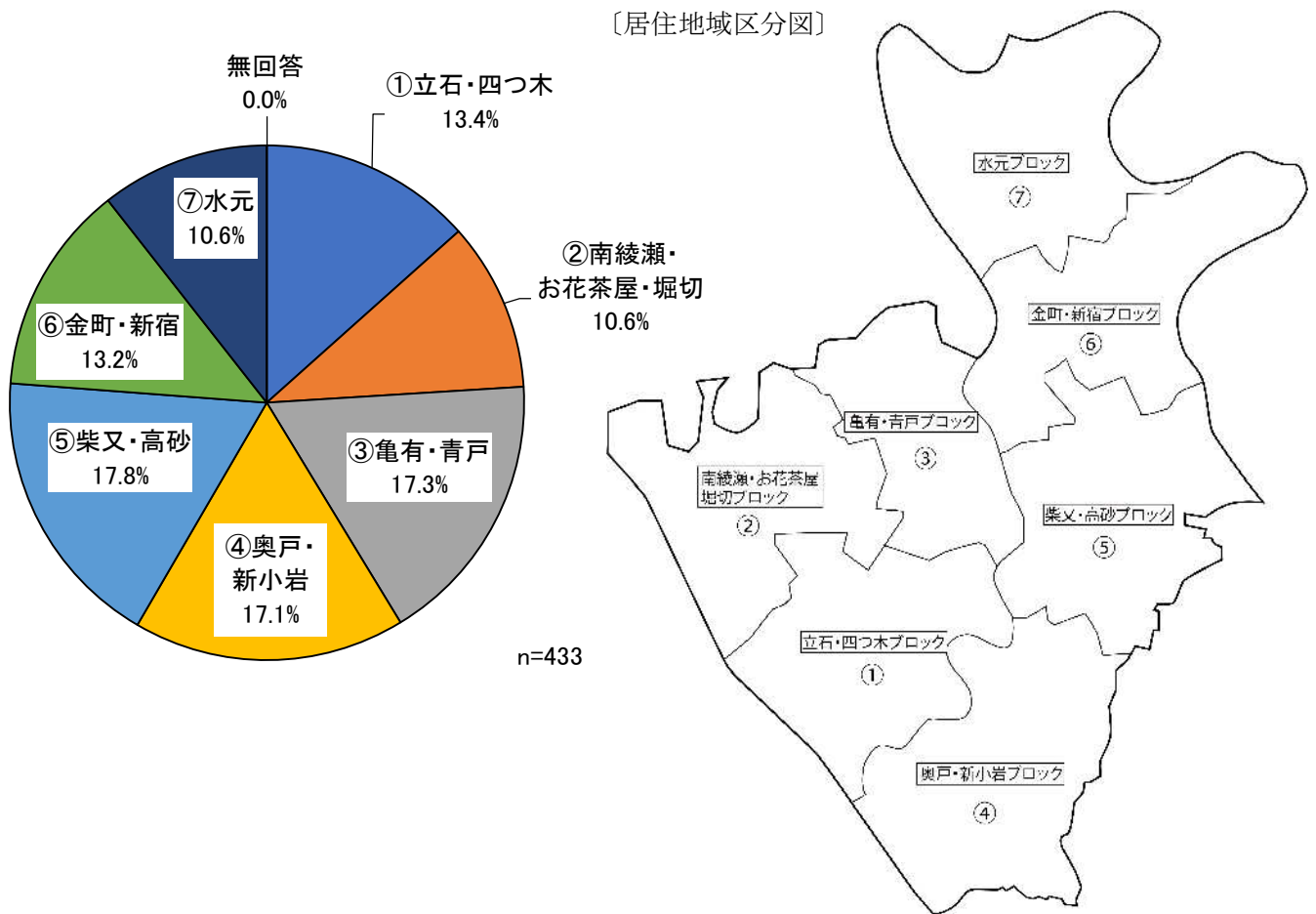
(1) 性別



(2) 年齢層



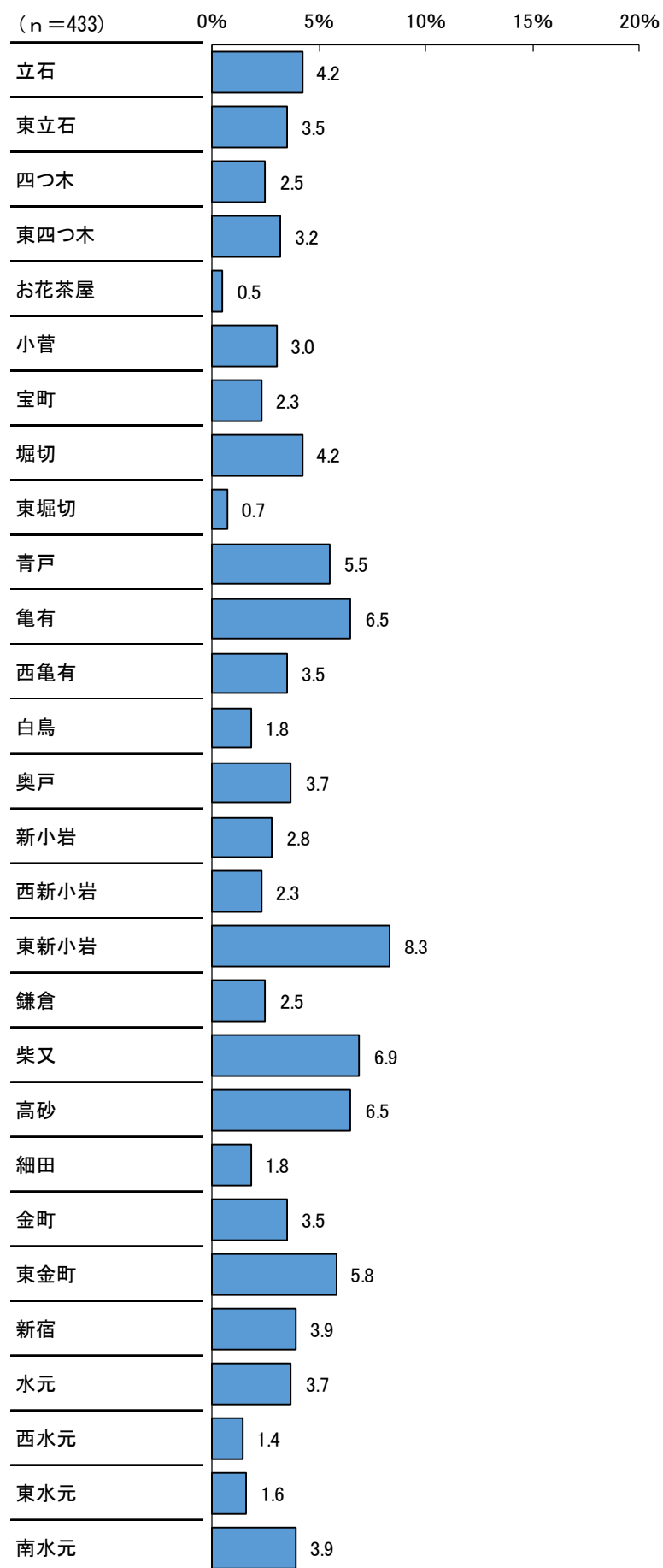
(3) 居住地域 (7区分)



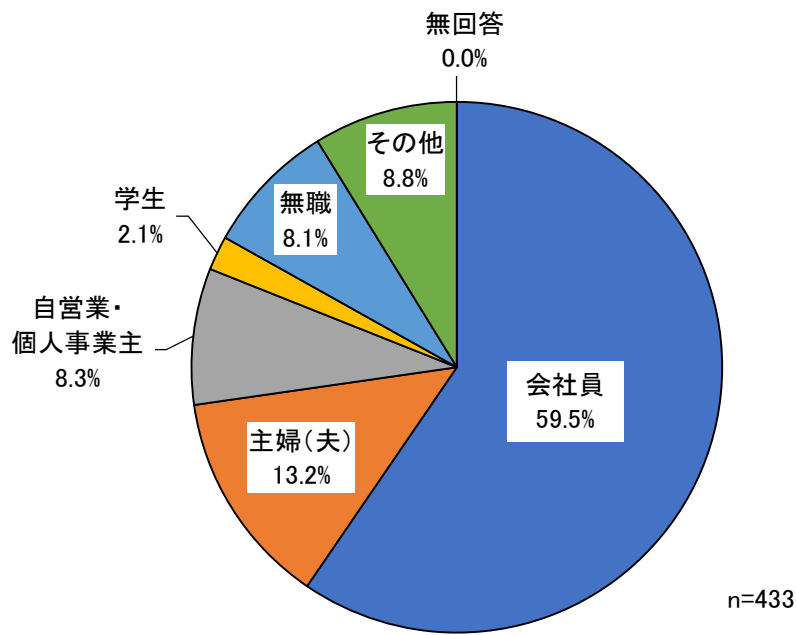
〔居住地域区分表〕

	ブロック名	町名
1	立石・四つ木ブロック	立石・東立石・四つ木・東四つ木
2	南綾瀬・お花茶屋・堀切ブロック	お花茶屋・小菅・宝町・堀切・東堀切
3	亀有・青戸ブロック	青戸・亀有・西亀有・白鳥
4	奥戸・新小岩ブロック	奥戸・新小岩・西新小岩・東新小岩
5	柴又・高砂ブロック	鎌倉・柴又・高砂・細田
6	金町・新宿ブロック	金町・東金町・新宿
7	水元ブロック	水元・西水元・東水元・南水元

(4) 居住地域 (28区分)

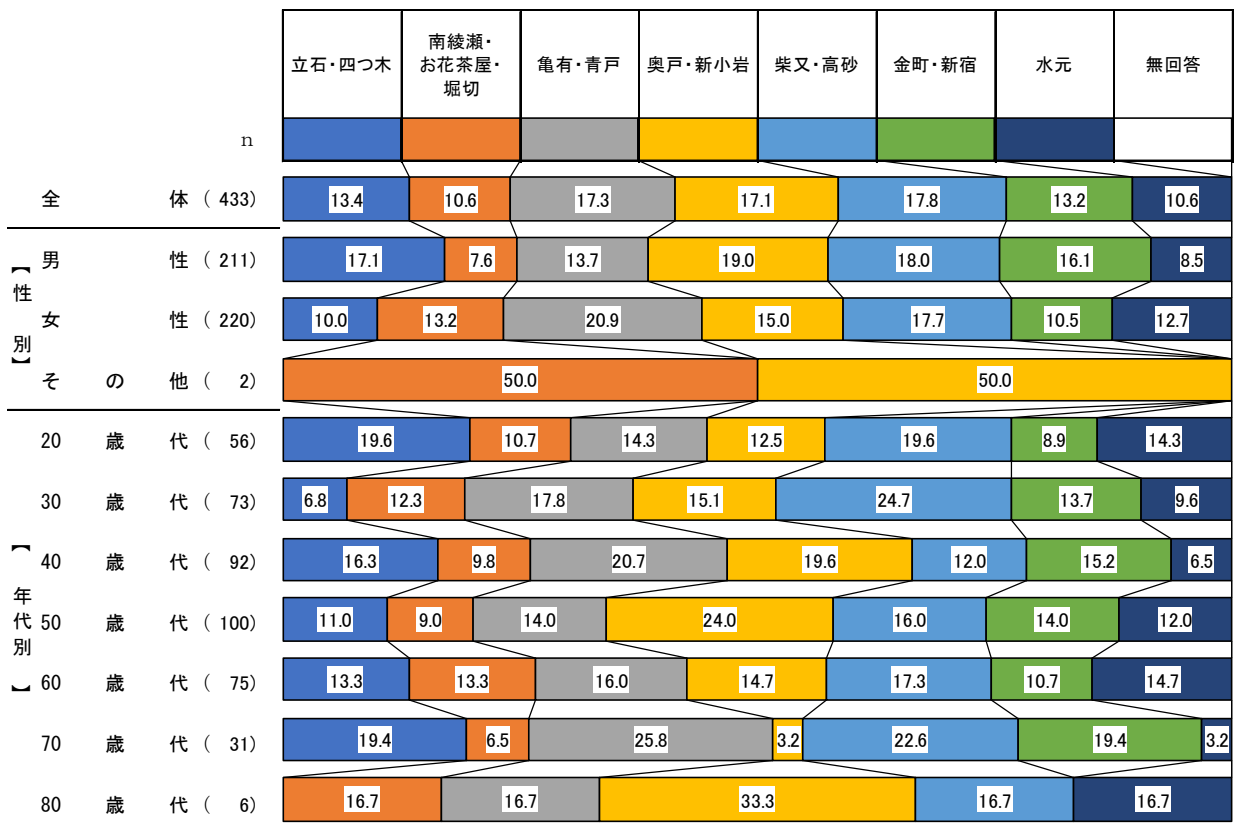


(5) 職業



(6) 居住地域別 (7区分) × 性別・年代別

(%)



Ⅲ 調査結果の詳細

1. 子どもの権利について

葛飾区では、令和5年10月に「葛飾区子どもの権利条例」を制定しました。

今後、子どもの権利の保障や子どもの意見表明等について普及啓発を進めていくにあたり、区民モニターの皆様の皆様のご意見をお伺いいたします。

(1) 葛飾区子どもの権利条例の認知度

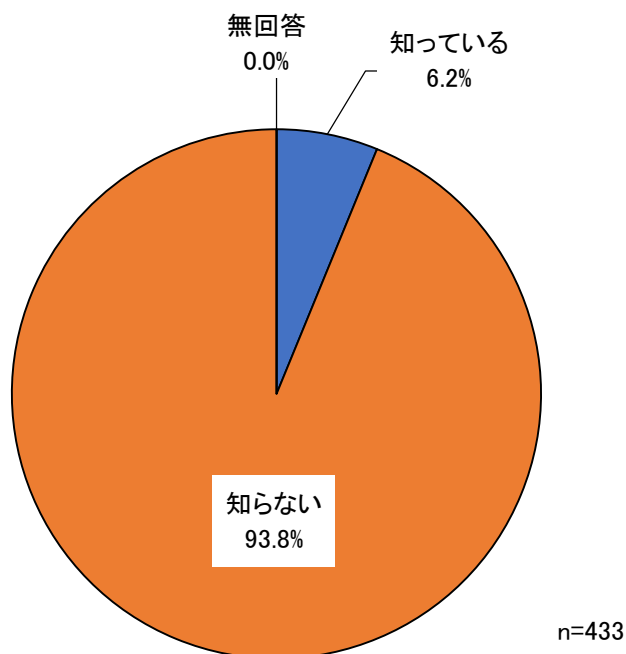
問1 令和5年10月1日に施行された「葛飾区子どもの権利条例」を知っていますか。

(1つ選択)

葛飾区子どもの権利条例の認知度については、「知っている」が6.2%、「知らない」が93.8%となっている。

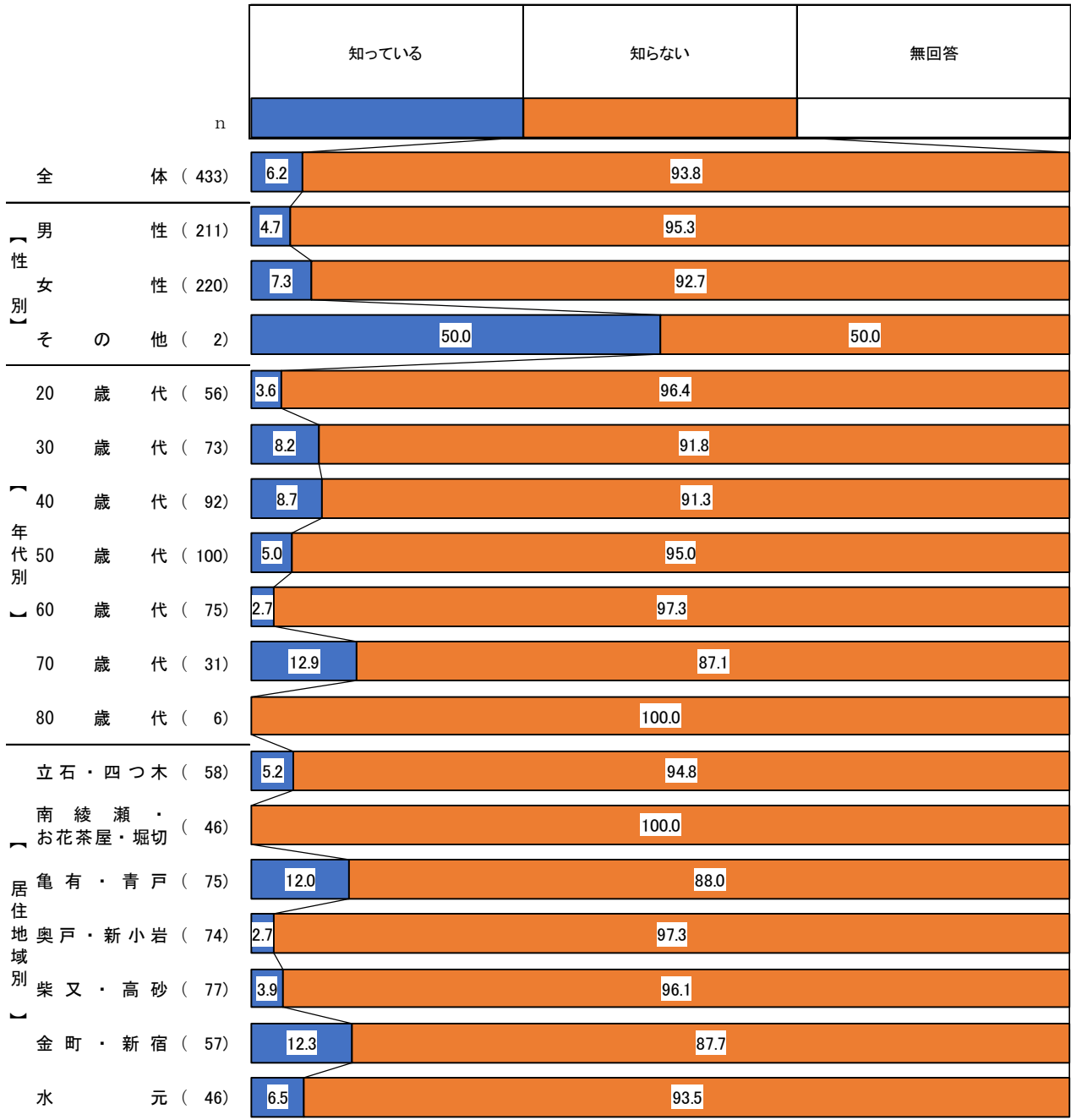
年代別でみると、「知らない」は、全ての年代で8割以上と高くなっている。一方、「知っている」は、70歳代を除く全ての年代で1割未満となっている。

図表－1 葛飾区子どもの権利条例の認知度（全体）



図表－２ 葛飾区子どもの権利条例の認知度
 (全体・性別・年代別・居住地域別)

(%)



(2) 葛飾区子どもの権利条例をどこで知ったか

問2 問1で選択肢1「知っている」と答えた方に伺います。

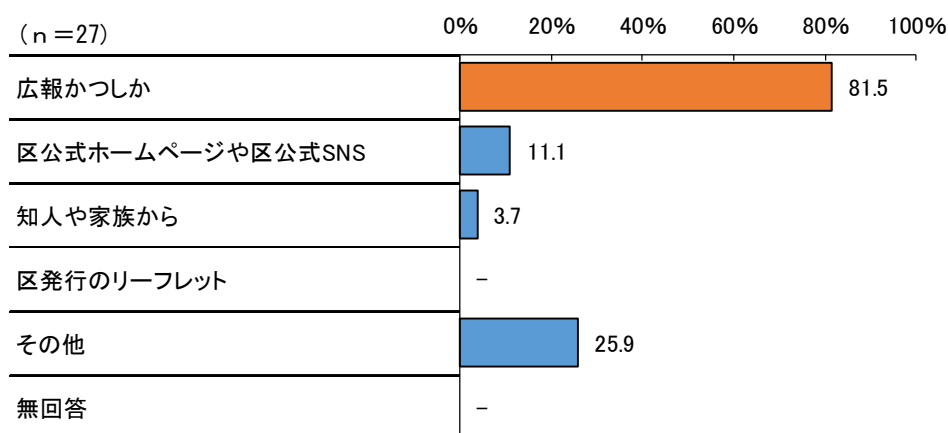
葛飾区子どもの権利条例についてどこで知りましたか。(あてはまるものを全て選択)

葛飾区子どもの権利条例をどこで知ったかについては、「広報かつしか」が81.5%で最も高く、次いで「区公式ホームページや区公式SNS」が11.1%となっている。

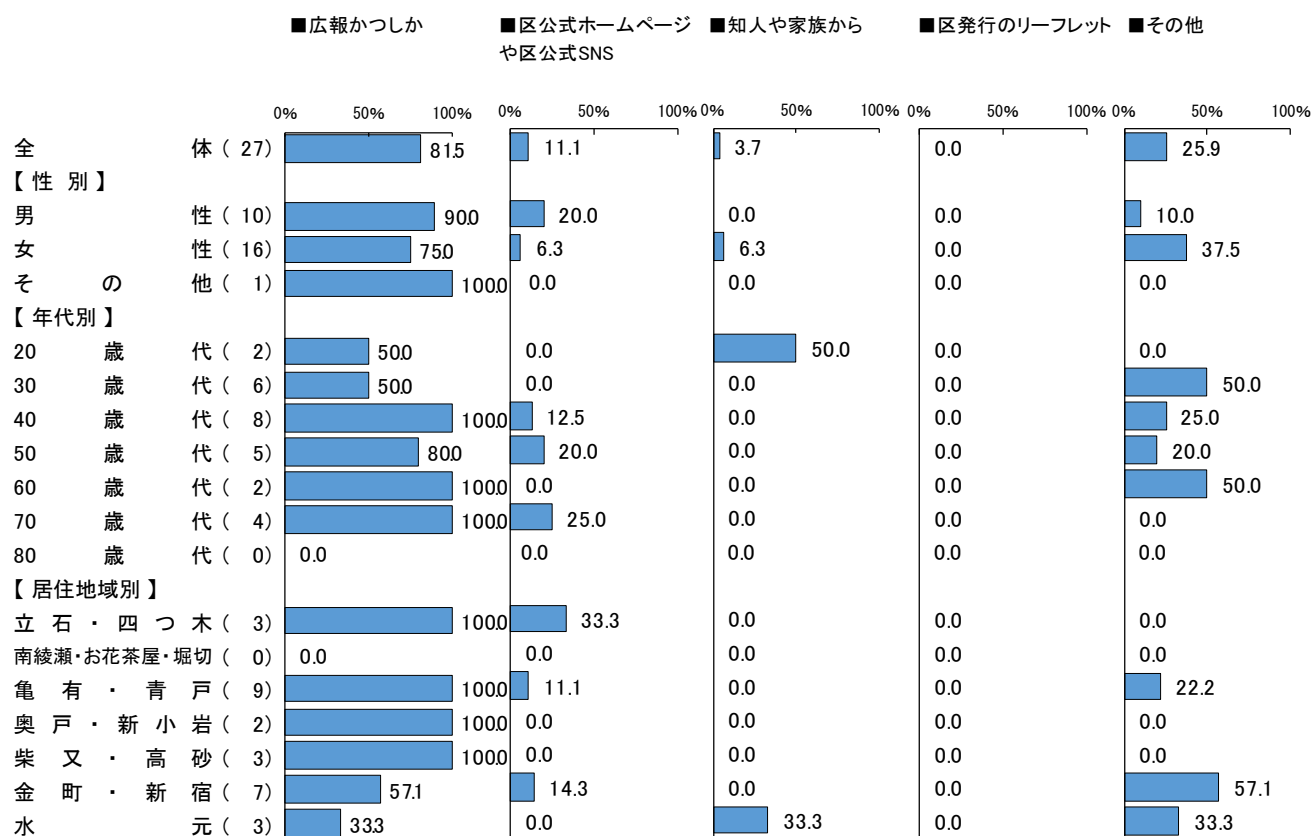
年代別にみると、「広報かつしか」は、40歳代から70歳代で8割以上となっている。また、「知人や家族」は、20歳代で5割となっている。

「その他」の内容としては、「子供の通っている小学校」、「通っていた保育園に書いてあった」、「民生委員」などがある。

図表-3 葛飾区子どもの権利条例をどこで知ったか (全体)



図表－４ 葛飾区子どもの権利条例をどこで知ったか
(全体・性別・年代別・居住地域別)



(3) 葛飾区子どもの権利条例についてどの程度知っているか

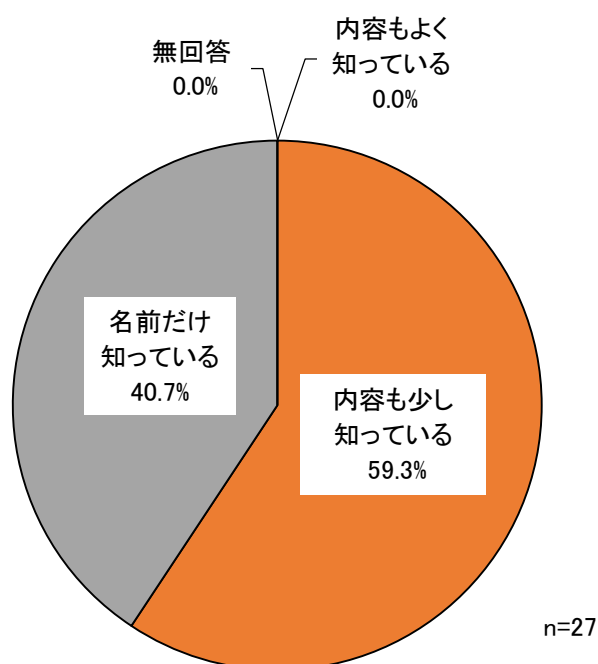
問3 問1で選択肢1「知っている」と答えた方に伺います。

子どもの権利条例についてどの程度知っていますか。(1つ選択)

葛飾区子どもの権利条例についてどの程度知っているかについては、「内容も少し知っている」が59.3%で最も高く、次いで「名前だけ知っている」が40.7%となっている。一方、「内容もよく知っている」は、0.0%となっている。

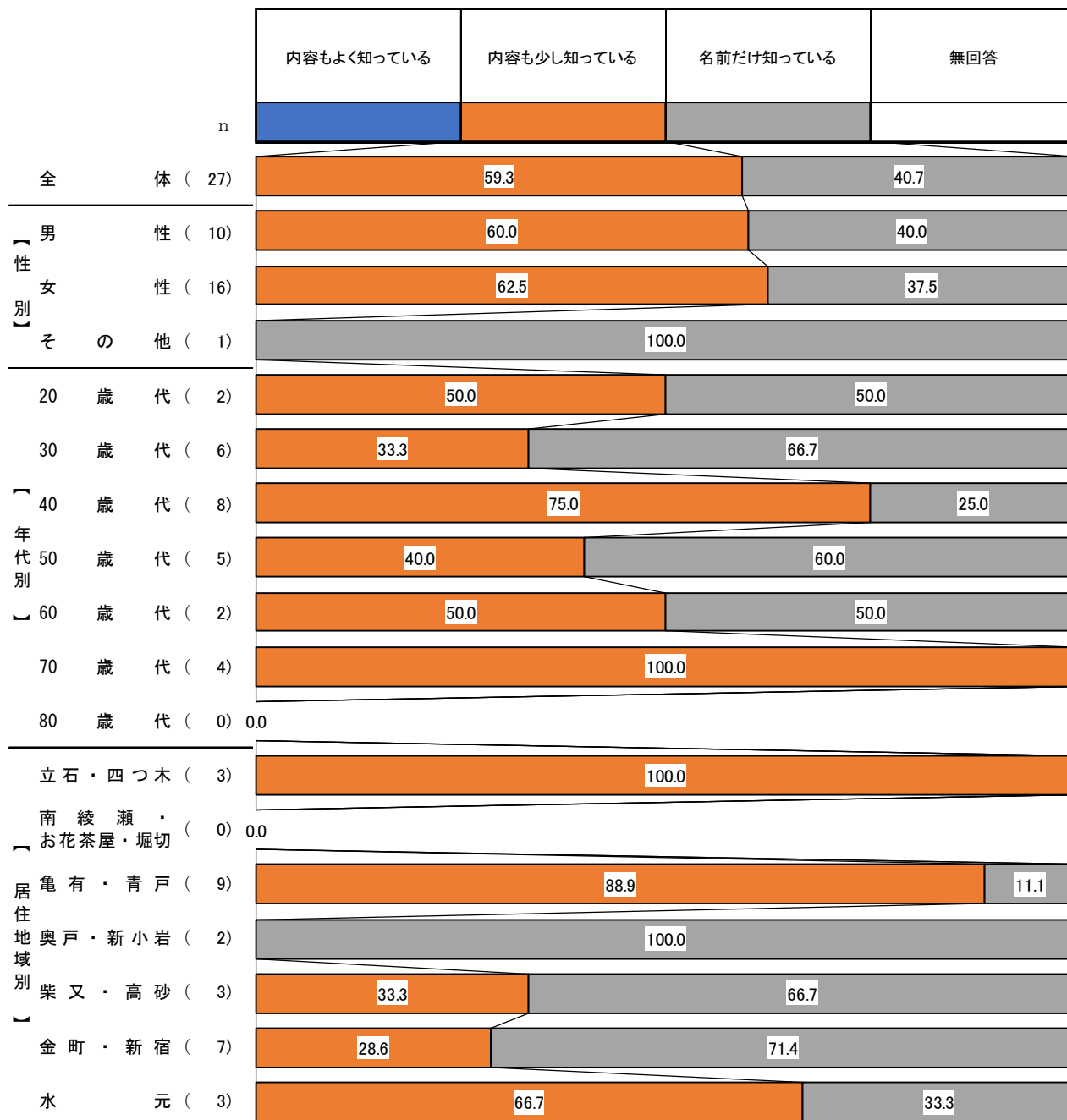
年代別にみると、「内容も少し知っている」は、40歳代と70歳代で7割以上となっている。「名前だけ知っている」は、30歳代と50歳代で6割以上となっている。

図表-5 葛飾区子どもの権利条例についてどの程度知っているか (全体)



図表－6 葛飾区子どもの権利条例についてどの程度知っているか
 (全体・性別・年代別・居住地域別)

(%)



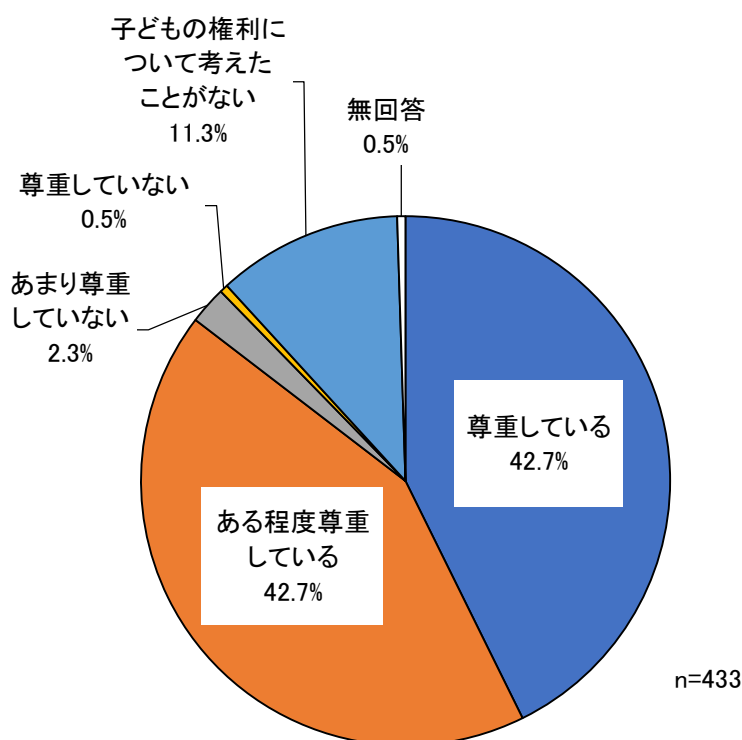
(4) 普段、子どもの権利を尊重しているか

問4 普段、子どもの権利を尊重していますか。(1つ選択)

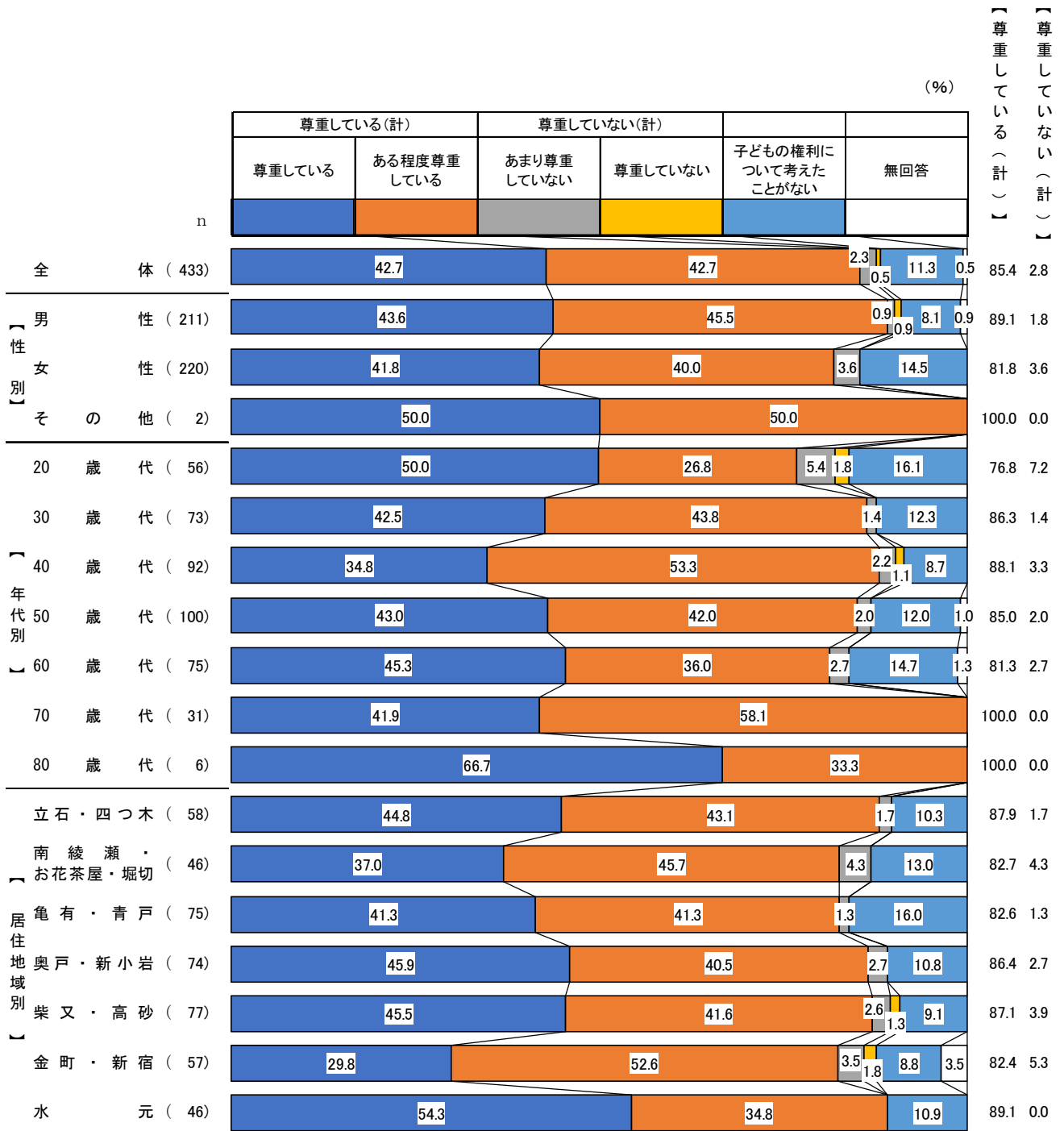
普段、子どもの権利を尊重しているかについては、「尊重している」と「ある程度尊重している」を合わせた【尊重している(計)】は、85.4%となっている。一方、「あまり尊重していない」と「尊重していない」を合わせた【尊重していない(計)】は、2.8%となっている。

年代別で見ると、【尊重している(計)】は、全ての年代で7割以上となっており、一方、【尊重していない(計)】は、全ての年代で1割未満となっている。

図表一七 普段、子どもの権利を尊重しているか(全体)



図表－８ 普段、子どもの権利を尊重しているか
 (全体・性別・年代別・居住地域別)



(5) 子どもの権利に関わることで関心があるもの

問5 子どもの権利に関わることで関心があるものはどれですか。

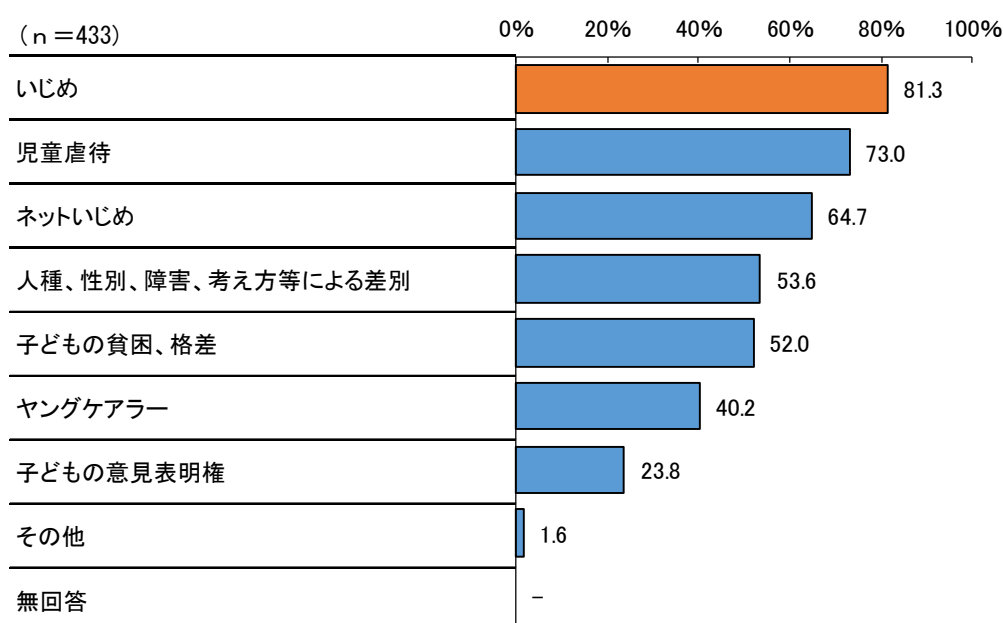
(あてはまるものを全て選択)

子どもの権利に関わることで関心があるものについては、「いじめ」が81.3%で最も高く、次いで「児童虐待」が73.0%、「ネットいじめ」が64.7%となっている。

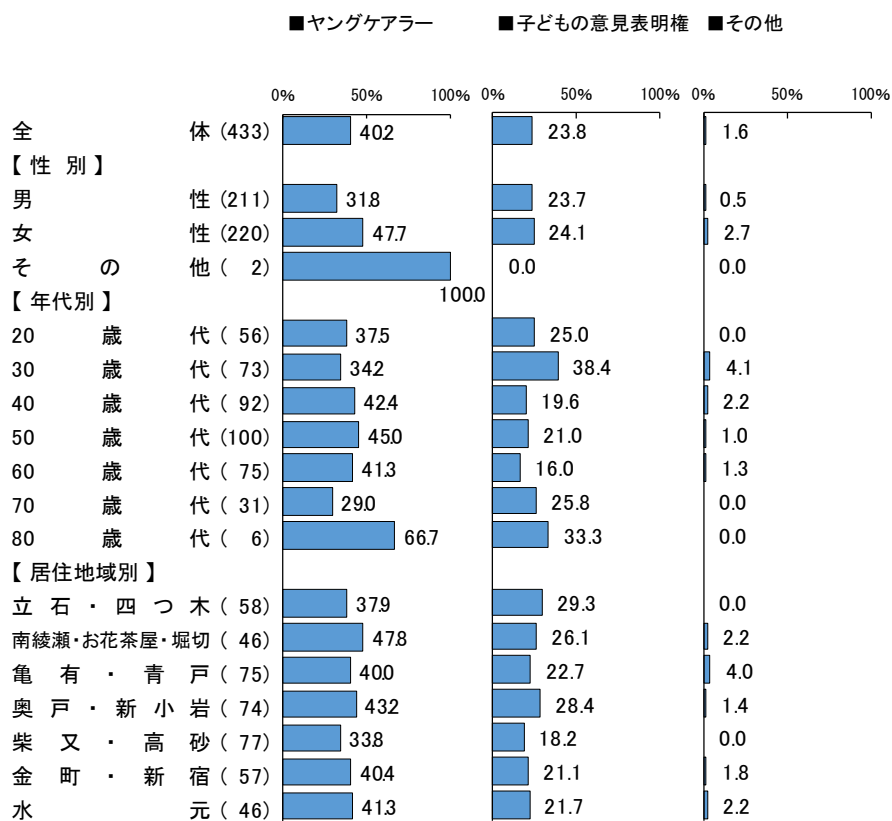
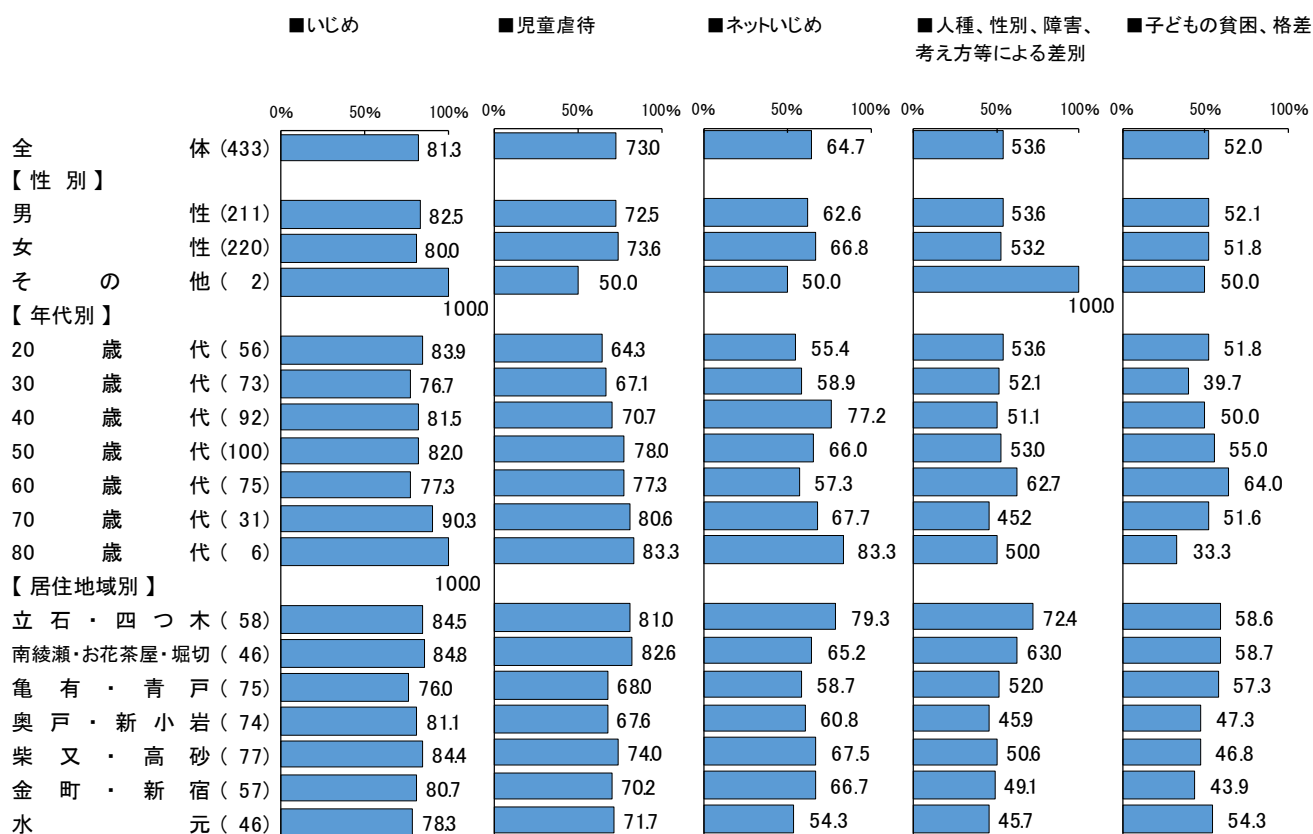
年代別にみると、「いじめ」は、全ての年代で7割以上となっている。また、「ヤングケアラー」は、80歳代で6割以上と高くなっている。

「その他」の内容としては、「教育虐待」、「スポーツでみられる指導者の向き合いかた」、「親に巻き込まれない、子どもが生きる権利」、「子供高齢者障害者などすべての人の人権教育」などがある。

図表-9 子どもの権利に関わることで関心があるもの（全体）



図表-10 子どもの権利に関わることで関心があるもの
(全体・性別・年代別・居住地域別)



(6) 子どもの権利侵害に関する相談先として知っているもの

問6 子どもの権利侵害に関する相談先として知っているものはありますか。

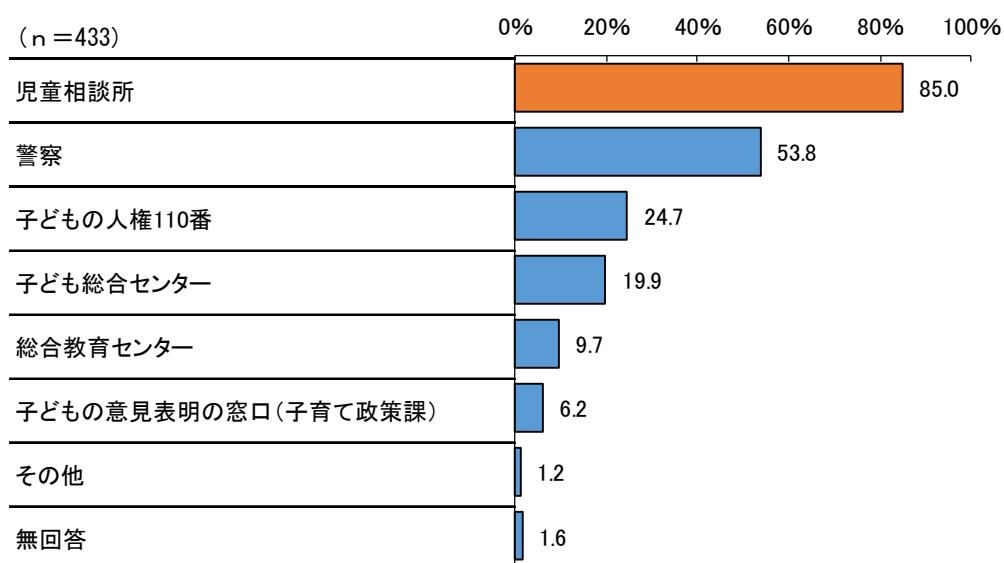
(あてはまるものを全て選択)

子どもの権利侵害に関する相談先として知っているものについては、「児童相談所」が85.0%で最も高く、次いで「警察」が53.8%、「子どもの人権110番」が24.7%となっている。

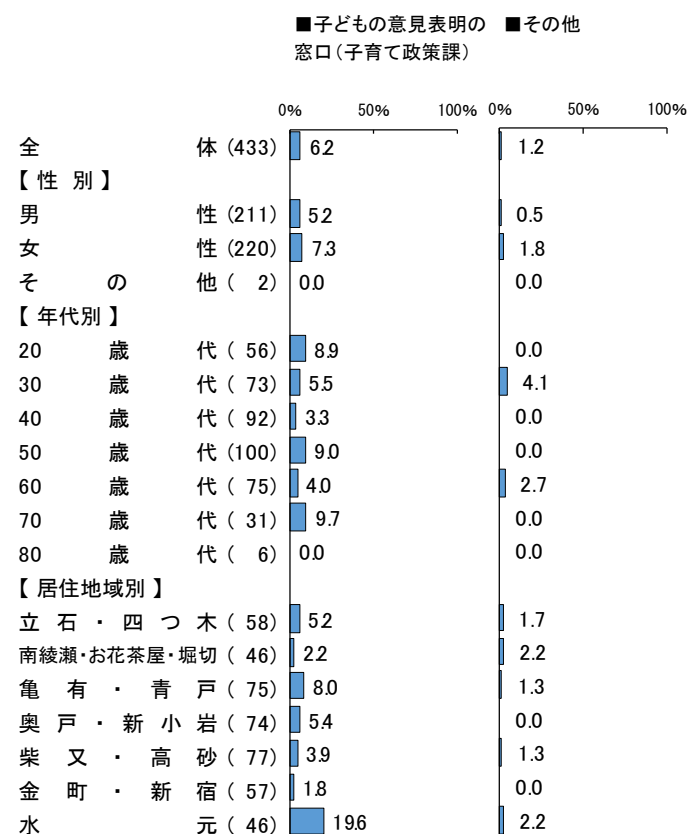
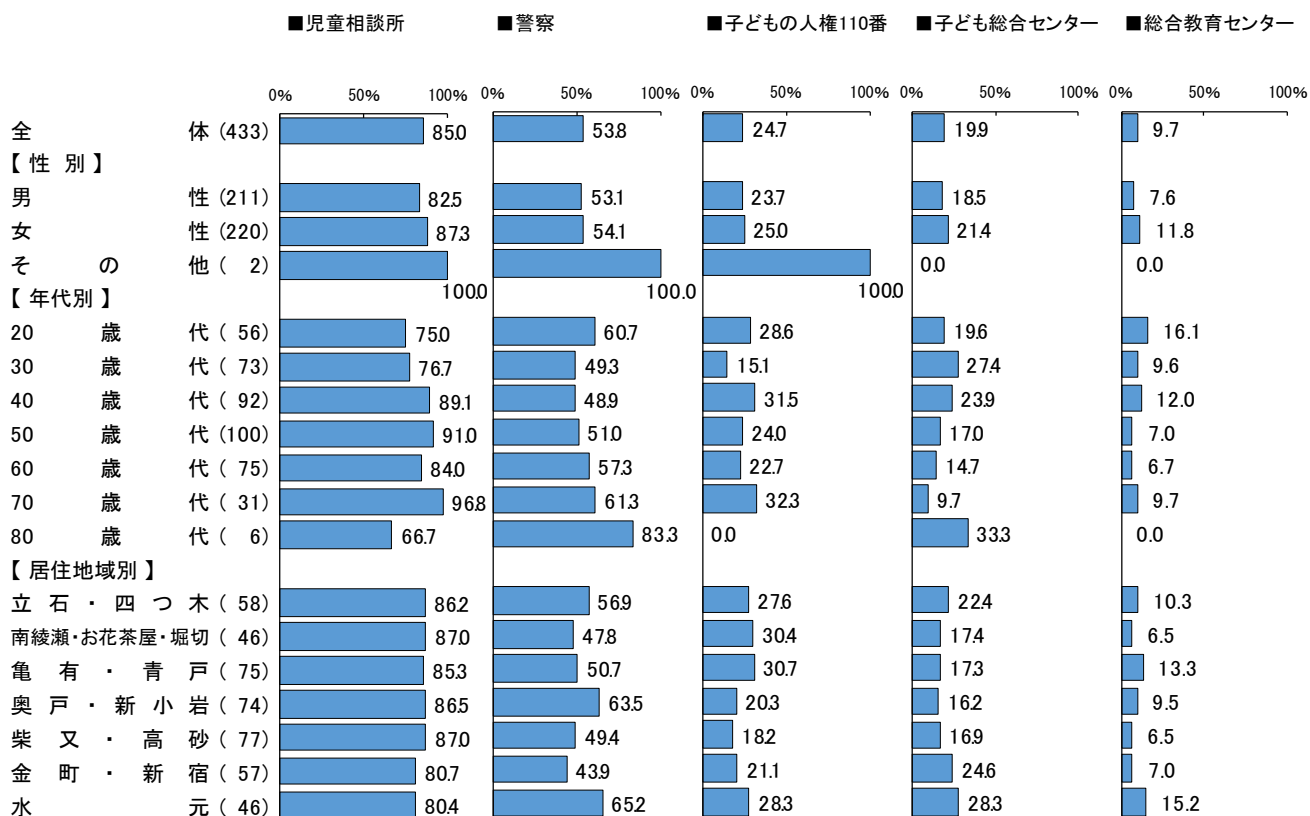
年代別にみると、「児童相談所」は、80歳代を除く全ての年代で7割以上となっている。また、「子どもの意見表明の窓口（子育て政策課）」は、全ての年代で1割未満となっている。

「その他」の内容としては、「スクールカウンセラー」、「小学校にある相談室」、などがある。

図表-11 子どもの権利侵害に関する相談先として知っているもの（全体）



図表-12 子どもの権利侵害に関する相談先として知っているもの
(全体・性別・年代別・居住地域別)



(7) 子ども自身が相談する場合、どの手段が一番相談しやすいか

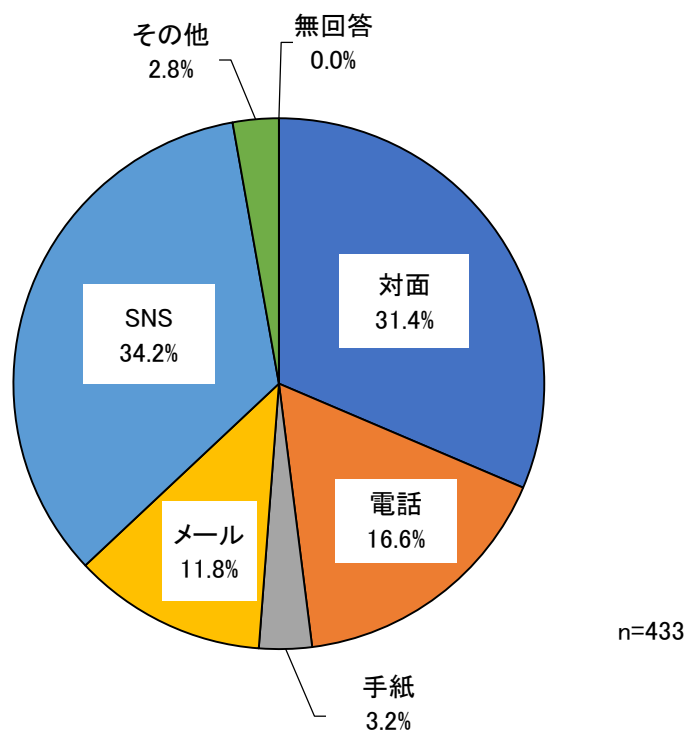
問7 子ども自身が相談する場合、どの手段が一番相談しやすいと思いますか。(1つ選択)

子ども自身が相談する場合、どの手段が一番相談しやすいかについては、「SNS」が34.2%で最も高く、次いで「対面」が31.4%、「電話」が16.6%となっている。

年代別でみると、「SNS」は、70歳代以上を除く全ての年代で3割以上となっている。また、「対面」は、70歳代で6割近くとなっている。

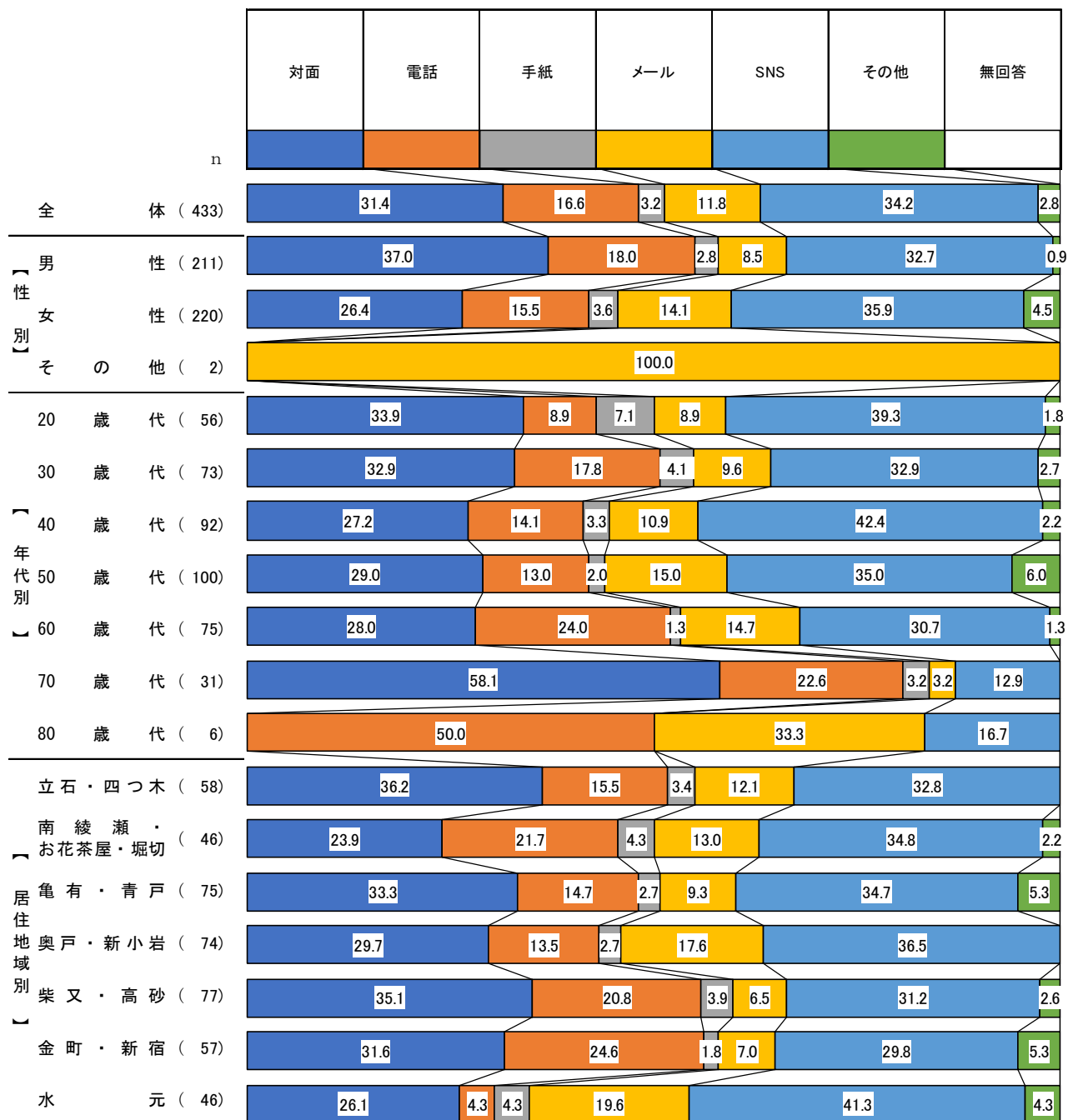
「その他」の内容としては、「個人に合わせた対応」、「電話やメールができない環境にいる子ども身構えずに相談できる方法」、「親や学校の先生」、「チャットやLINEのようなもの」、「フリーダイヤルであれば電話(通話料がかかると敬遠されると思う)」、「小学生以下→対面、中学生以上→SNS」などがある。

図表-13 子ども自身が相談する場合、どの手段が一番相談しやすいか(全体)



図表-14 子ども自身が相談する場合、どの手段が一番相談しやすいか
(全体・性別・年代別・居住地域別)

(%)



(8) 乳幼児親子が安心して過ごせる居場所や遊び場が十分確保されているか

問8 葛飾区には乳幼児親子が安心して過ごせる居場所や遊び場が十分確保されていると思いますか。(1つ選択)

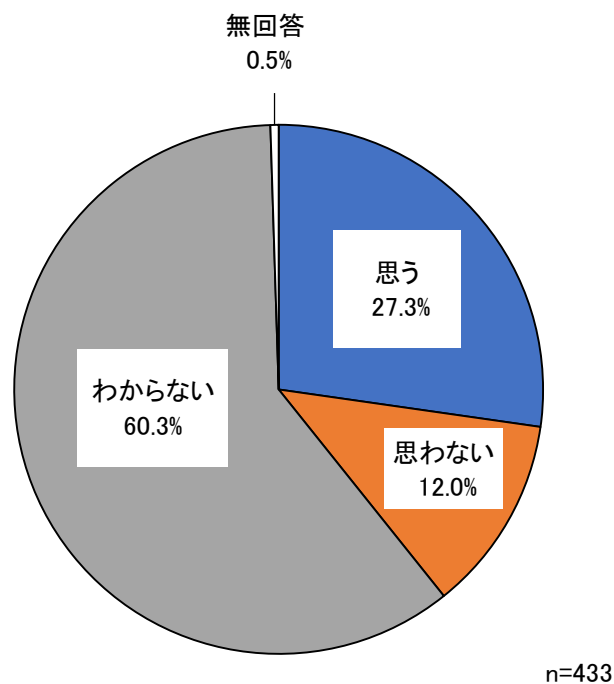
葛飾区には乳幼児親子が安心して過ごせる居場所や遊び場が十分確保されているかについては、「わからない」が60.3%で最も高く、次いで「思う」が27.3%、「思わない」が12.0%となっている。

年代別でみると、「わからない」が全ての年代で4割以上となっている。一方、「思う」が30歳代で4割以上と高くなっている。

「思う」の内容としては、「児童館や子育て支援センターなどが充実しているから」、「公園が多いから」、「図書館が多いから」などがある。

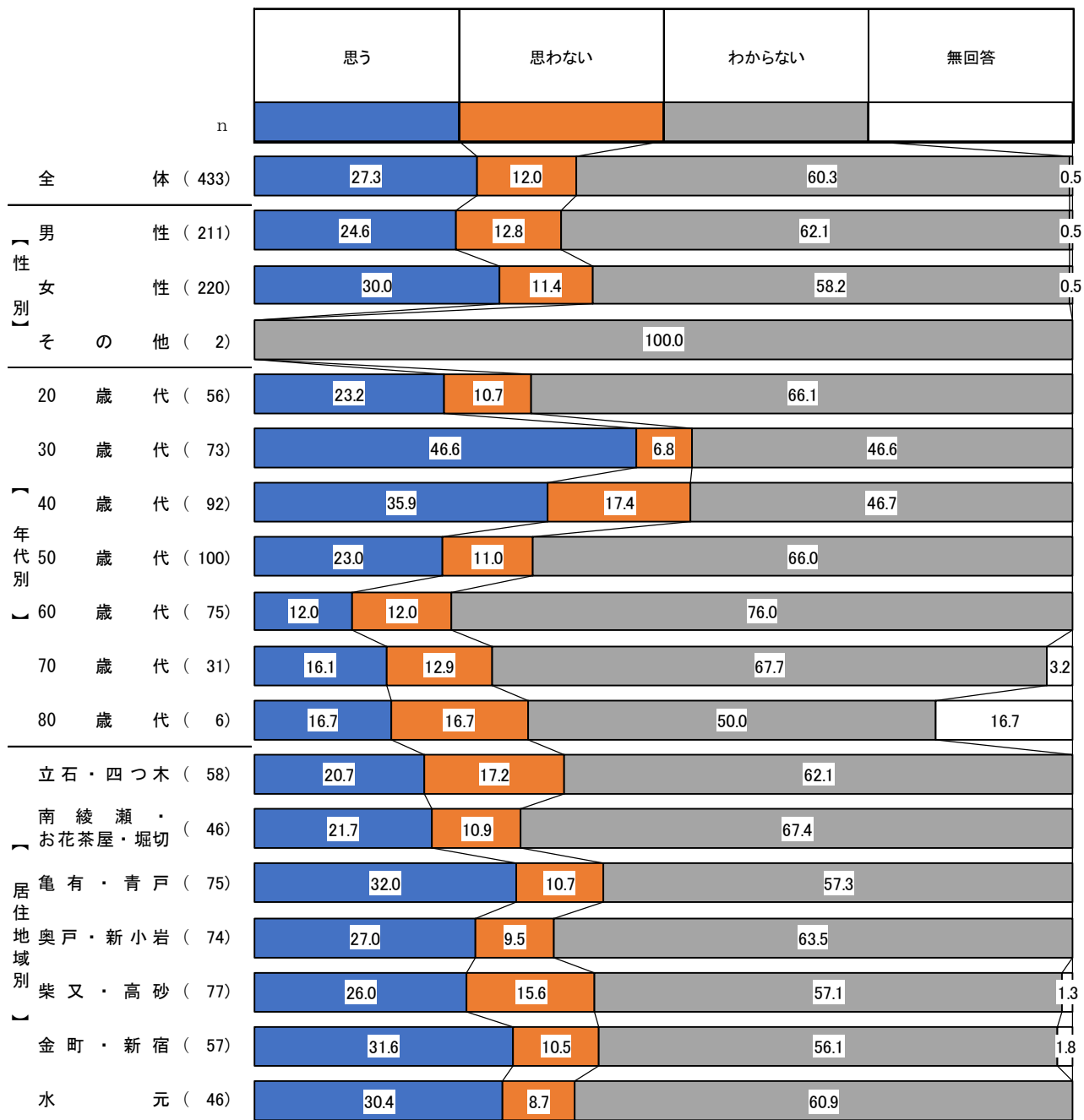
「思わない」の内容としては、「公園が少なく、遊び場が少ない」、「児童館を利用した事があるが、常連グループに占拠されていて入りにくい」、「古い公園ばかりで遊具が少なく、衛生面も不安」、「地区センター、児童館が少ない」、「公園はポイ捨てや喫煙者飲酒者が気になることがあったり、ボール禁止のルールを守らない小学生が多いから」などがある。

図表-15 乳幼児親子が安心して過ごせる居場所や遊び場が十分確保されているか (全体)



図表-16 乳幼児親子が安心して過ごせる居場所や遊び場が十分確保されているか
(全体・性別・年代別・居住地域別)

(%)



(9) 小学生が安心して過ごせる居場所や遊び場が十分確保されているか

問9 葛飾区には小学生が安心して過ごせる居場所や遊び場が十分確保されていると思いますか。(1つ選択)

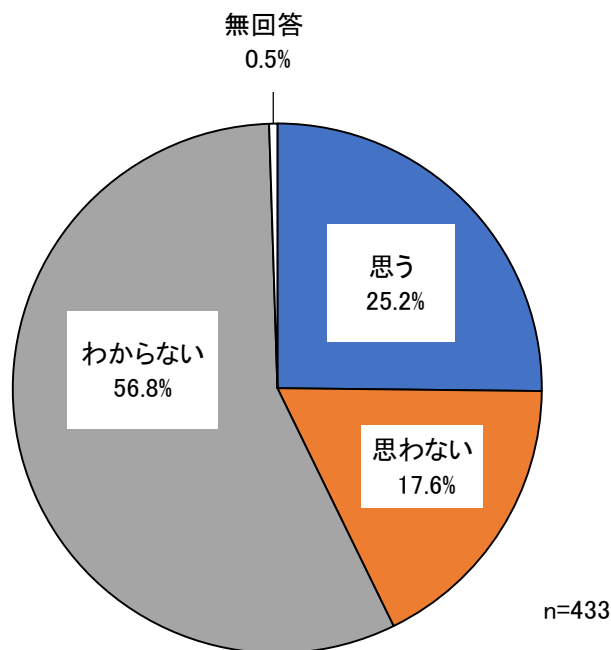
小学生が安心して過ごせる居場所や遊び場が十分確保されているかについては、「わからない」が56.8%で最も高く、次いで「思う」が25.2%、「思わない」が17.6%となっている。

年代別でみると、「わからない」が全ての年代で4割以上となっている。一方、「思う」が30歳代以下と80歳代で3割以上となっている。

「思う」の内容としては、「公園や児童館が多いから」、「放課後に学内の施設を利用できたり、学校でワクチャレをやっており、学童に行けなかった子のために預かりも行っている」、「学童保育、子ども食堂があるから」などがある。

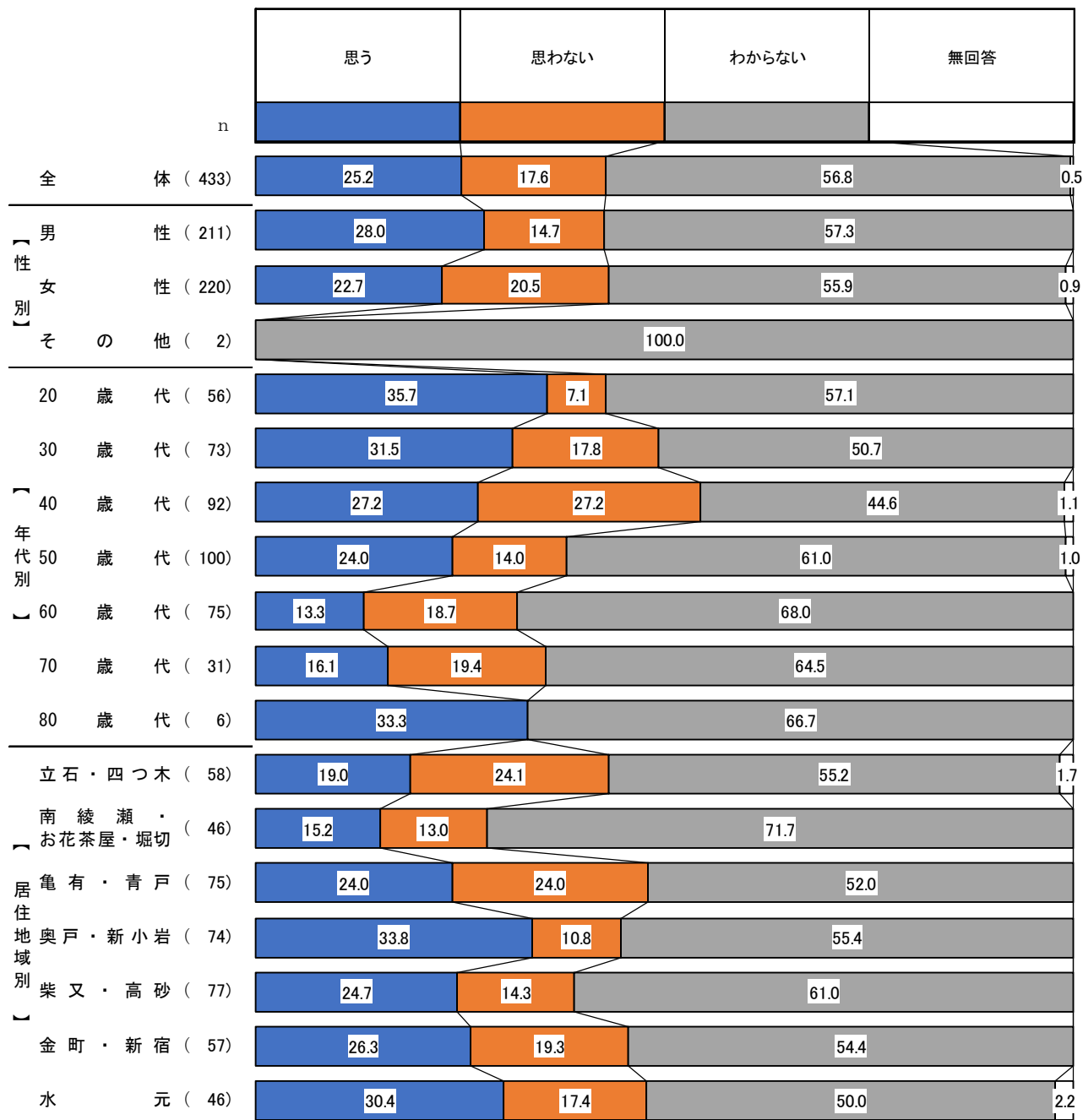
「思わない」の内容としては、「ボール遊びが限られ、公園以外の遊び場がない」、「公園が狭く、数が少ない、ボール遊びが出来る公園が無い」、「学童保育の定員オーバーで、希望しても入れない状況だから」、「地区センター、児童館が少ない」、「公園における高齢者からの理不尽なクレームが多い」、「暑い夏など外で遊べない分、室内で駆け回れるような居場所がもっと増えるといいと思う」などがある。

図表-17 小学生が安心して過ごせる居場所や遊び場が十分確保されているか（全体）



図表-18 小学生が安心して過ごせる居場所や遊び場が十分確保されているか
(全体・性別・年代別・居住地域別)

(%)



(10) 中高生が安心して過ごせる居場所や遊び場が十分確保されているか

問 10 葛飾区には中高生が安心して過ごせる居場所や遊び場が十分確保されていると思いますか。(1つ選択)

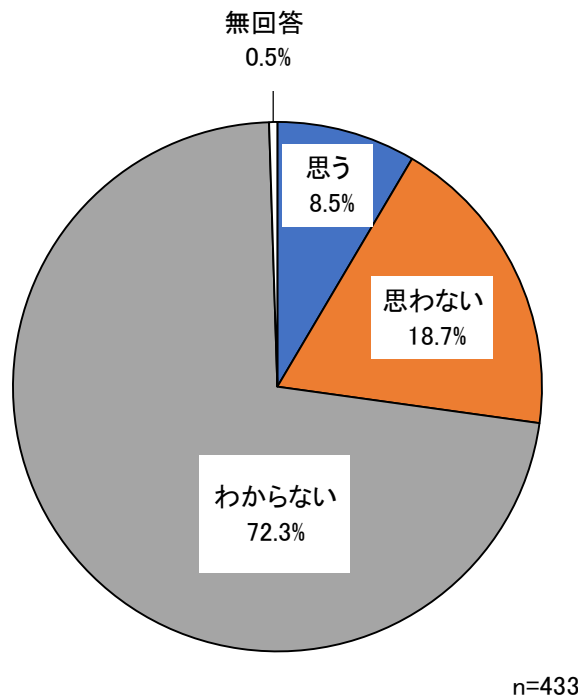
中高生が安心して過ごせる居場所や遊び場が十分確保されているかについては、「わからない」が72.3%で最も高く、次いで「思わない」が18.7%、「思う」が8.5%となっている。

年代別でみると、「わからない」が全ての年代で6割以上となっている。一方、「思う」が20歳代と80歳代を除く全ての年代で1割未満となっている。

「思う」の内容としては、「公園や図書館が各所にあるから」、「体育館や運動場がある」、「映画、カラオケ、ショッピングモール等遊べる場所はたくさんあるから」、「スポーツセンターが数か所ある」などがある。

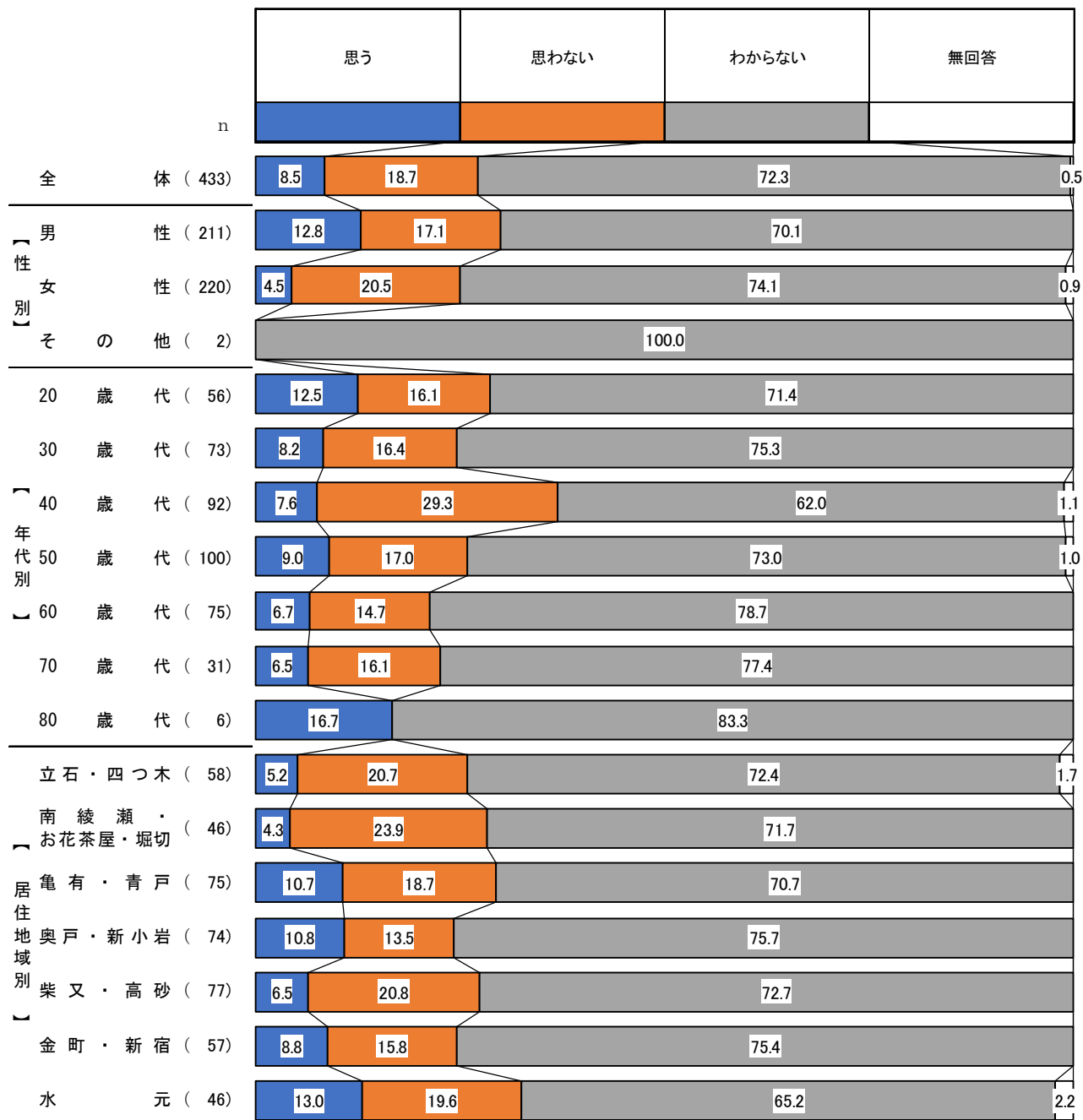
「思わない」の内容としては、「図書館以外にも静かに勉強できる場所をもっと提供して欲しい」、「コンビニやファミレス、ショッピングセンターのフードコートに用もないのに集まっている」、「中学生が遊ぶには公園はとても狭い」、「地区センター、児童館が少ない」、「談話や自習できる場所が少ない。図書館の自習室以外にも中高生が気楽に通えるフリースペース・自習室があったらいいと思う」などがある。

図表-19 中高生が安心して過ごせる居場所や遊び場が十分確保されているか（全体）



図表-20 中高生が安心して過ごせる居場所や遊び場が十分確保されているか
(全体・性別・年代別・居住地域別)

(%)



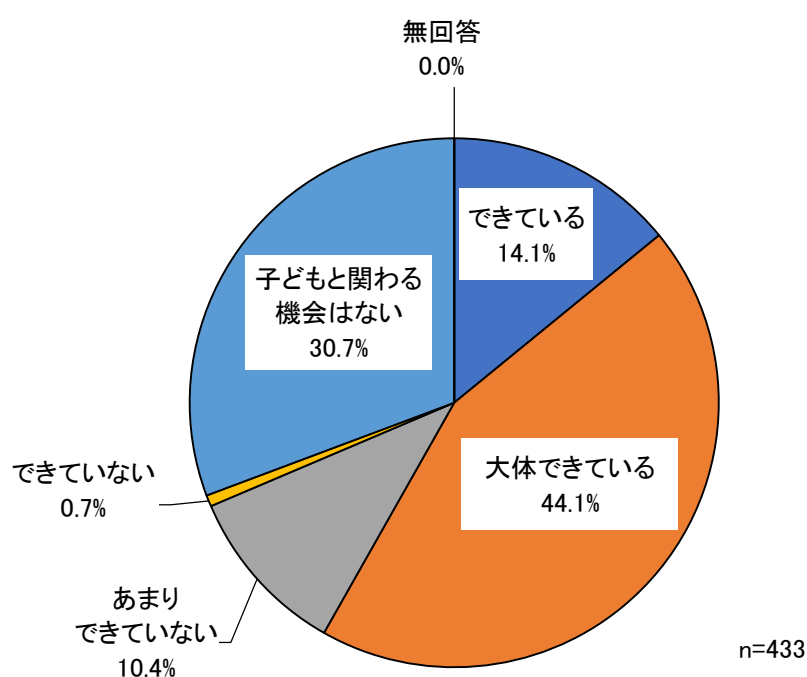
(11) 家庭や地域で子どもと関わるときに、子どもの話を聴くことができるか

問 11 あなたは家庭や地域で子どもと関わるときに、子どもの話を聴くこと（気持ちを受け止めること）ができていますか。（1つ選択）

家庭や地域で子どもと関わるときに、子どもの話を聴くこと（気持ちを受け止めること）ができるかについては、「できている」と「大体できている」を合わせた【できている（計）】は、58.2%となっている。一方、「あまりできていない」と「できていない」を合わせた【できていない（計）】は、11.1%となっている。

年代別でみると、【できている（計）】は、全ての年代で4割以上となっており、一方、【できていない（計）】は、全ての年代で2割未満となっている。

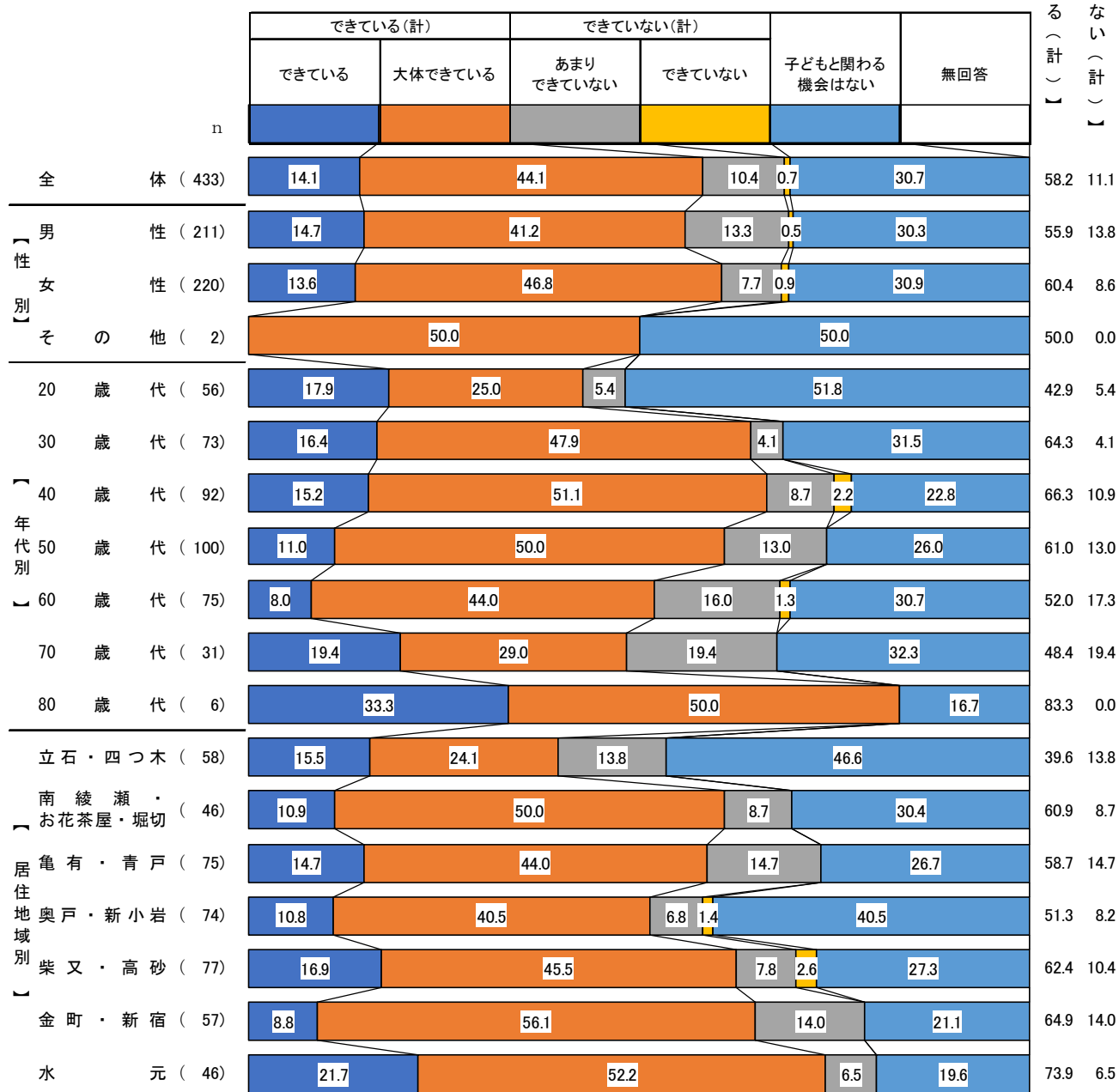
図表-21 家庭や地域で子どもと関わるときに、子どもの話を聴くことができるか（全体）



図表-22 家庭や地域で子どもと関わるときに、子どもの話を聴くことができるか
(全体・性別・年代別・居住地域別)

(%)

【できている(計)】
【できていない(計)】



(12) 家庭や地域で子どもと関わるときに、子どもの話を聴くことができない理由

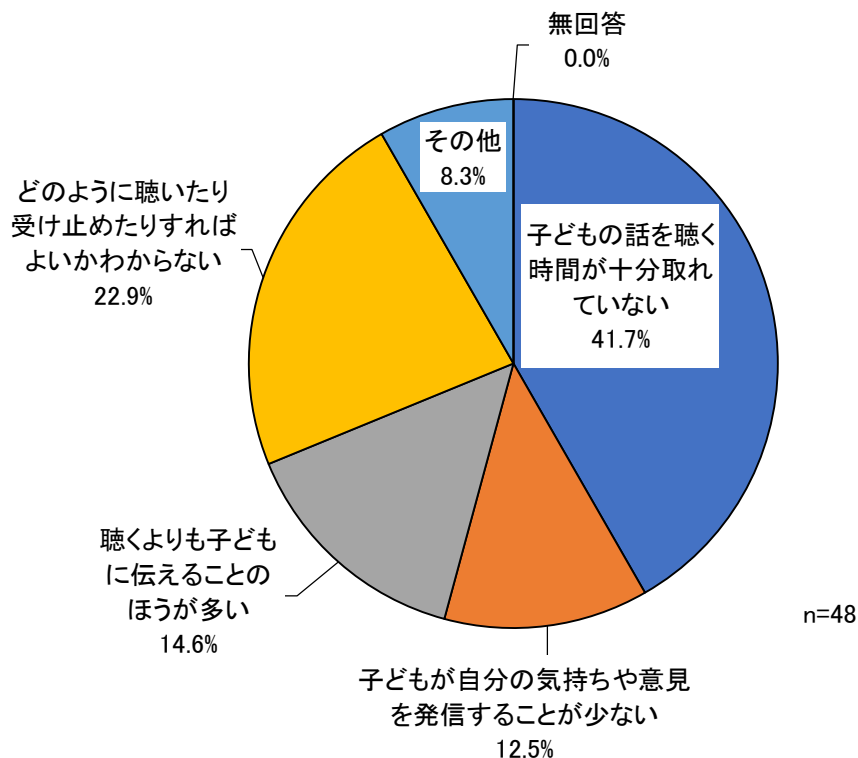
問 12 問 11 で選択肢 3 「あまりできていない」・ 4 「できていない」と答えた方に伺います。その理由は何ですか。(1つ選択)

家庭や地域で子どもと関わるときに、子どもの話を聴くことができない理由については、「子どもの話を聴く時間が十分取れていない」が 41.7%で最も高く、次いで「どのように聴いたり受け止めたりすればよいかわからない」が 22.9%、「聴くよりも子どもに伝えることのほうが多い」が 14.6%となっている。

年代別でみると、「子どもの話を聴く時間が十分取れていない」は、40 歳代以下で 6 割以上と高くなっている。また、30 歳代では「子どもが自分の気持ちや意見を発信することが少ない」、「聴くよりも子どもに伝えることのほうが多い」、「どのように聴いたり受け止めたりすればよいかわからない」がいずれも 0.0%となっている

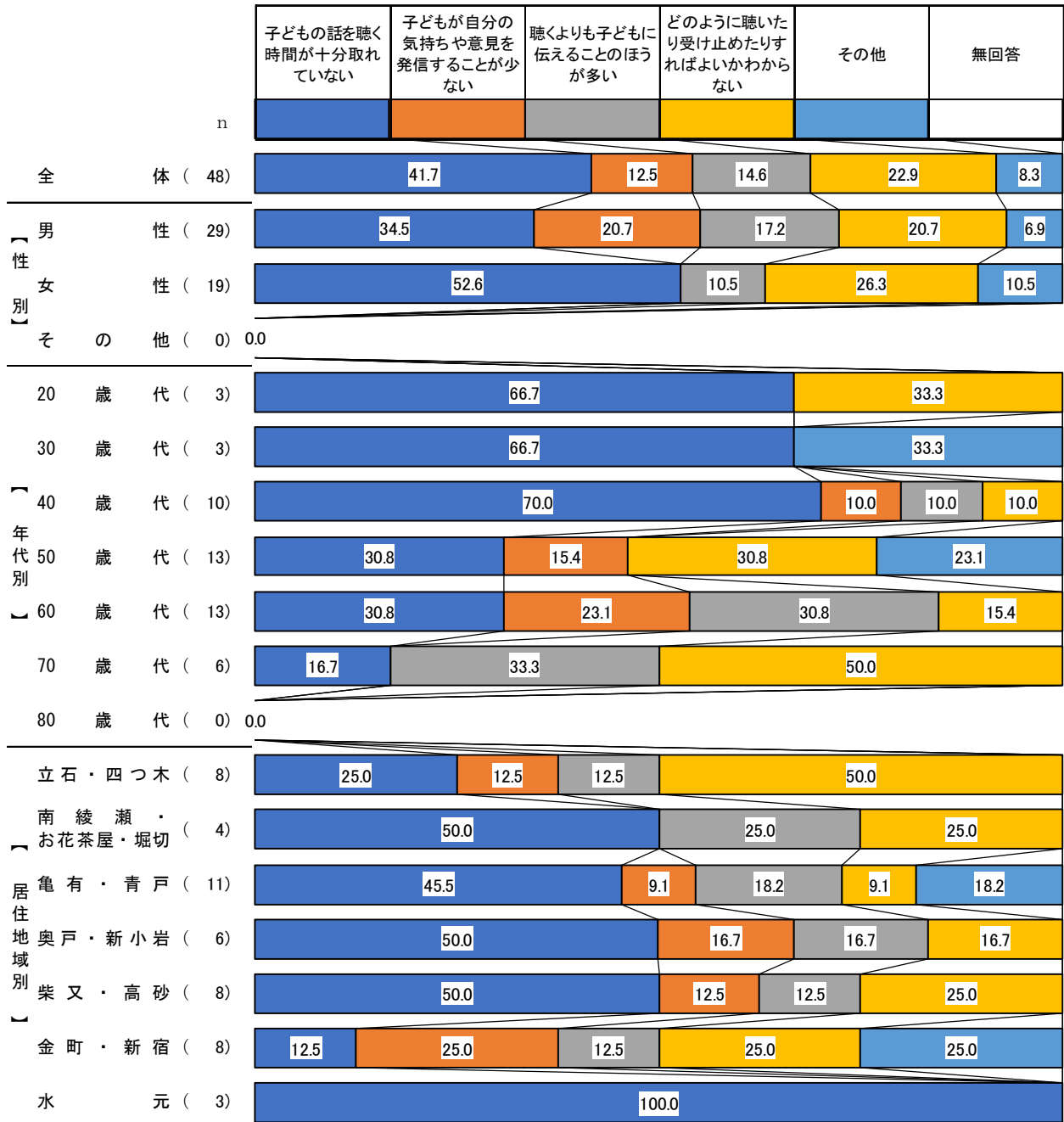
「その他」の内容としては、「子供が周りにいない」、「子どもと接する機会が少ない」、「聴く事自体がこちらに犯罪を疑われてしまう可能性があるから」などがある。

図表-23 家庭や地域で子どもと関わるときに、子どもの話を聴くことができない理由 (全体)



図表-24 家庭や地域で子どもと関わるときに、子どもの話を聴くことができない理由
(全体・性別・年代別・居住地域別)

(%)



(13) 子どもの権利を守るために特に必要だと思う取組

問 13 子どもの権利を守るために特に必要だと思う取組はどれですか。

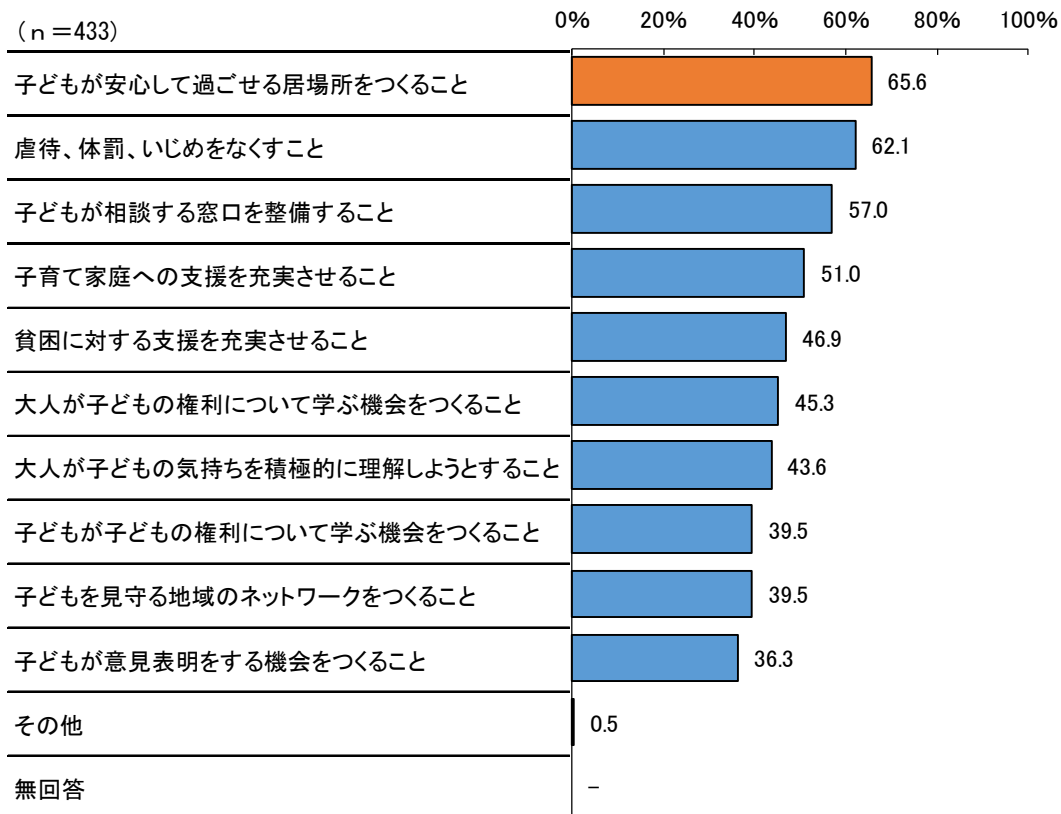
(あてはまるものを全て選択)

子どもの権利を守るために特に必要だと思う取組については、「子どもが安心して過ごせる居場所をつくること」が 65.6%で最も高く、次いで「虐待、体罰、いじめをなくすこと」が 62.1%、「子どもが相談する窓口を整備すること」が 57.0%となっている。

年代別にみると、「子どもが安心して過ごせる居場所をつくること」は、40 歳代で7割以上と高くなっている。また、「子育て家庭への支援を充実させること」は、20 歳代で7割以上と高くなっている。

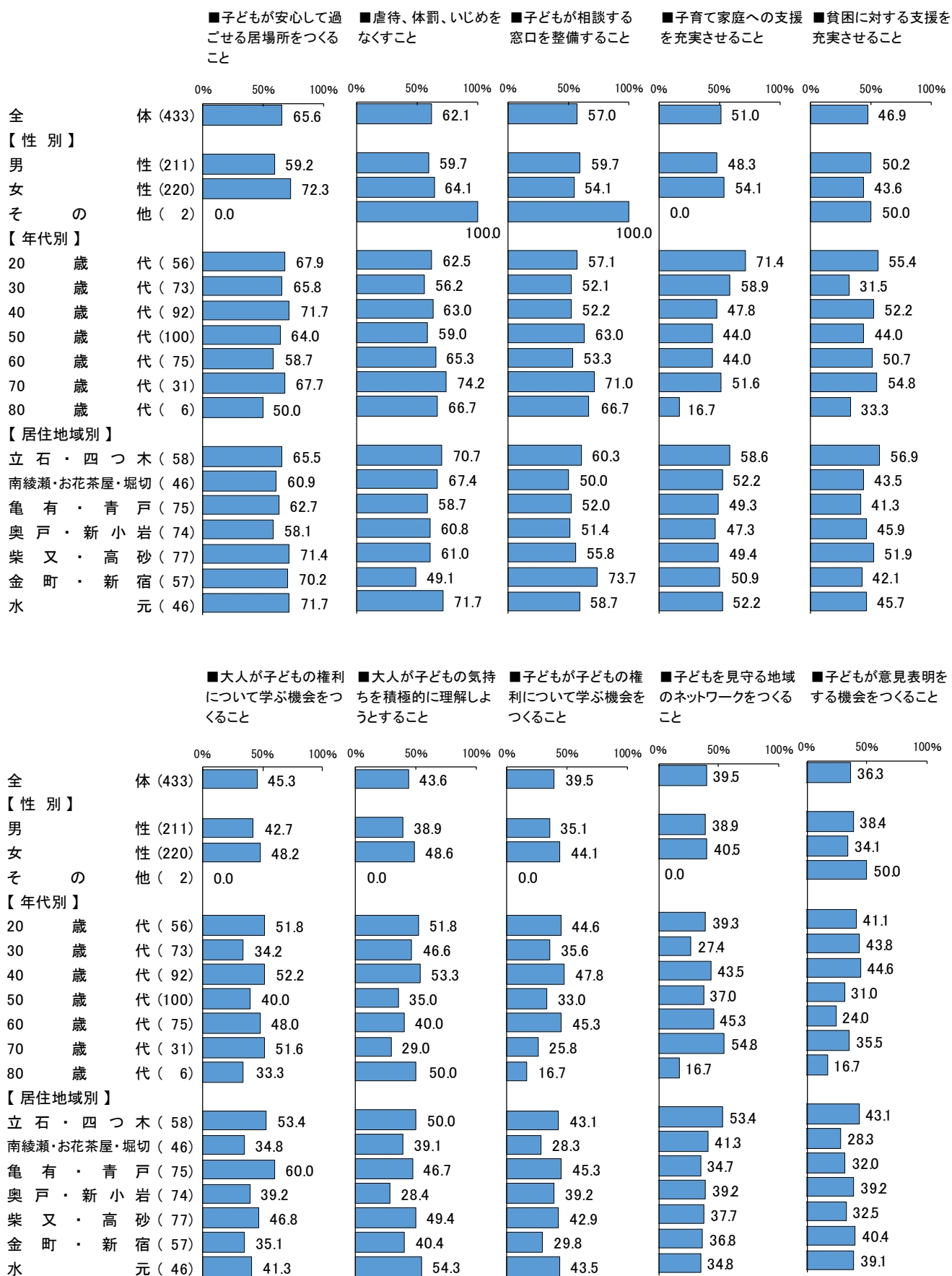
「その他」の内容としては、「子育て家庭への支援だけではなく、区民全員が平等に支援されることが大事だと思う。自分が幸せなら周りにも優しくできるから」、「貧困に対する支援を充実させる事は大事ではあるが、その支援が大人や親が搾取してしまっって子供にいかないようでは意味がない」がある。

図表-25 子どもの権利を守るために特に必要だと思う取組（全体）



図表-26 子どもの権利を守るために特に必要だと思う取組

(全体・性別・年代別・居住地域別—上位10項目)



(14) 子どもの権利に関する認知度を上げるために効果的だと思うもの

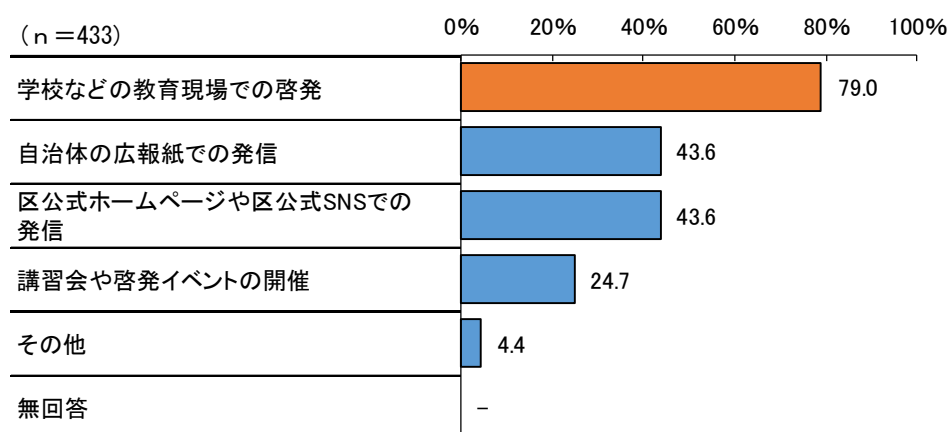
問 14 今後、子どもの権利に関する認知度を上げるためにどのような広報が効果的だと思いますか。(あてはまるものを全て選択)

子どもの権利に関する認知度を上げるために効果的だと思うものについては、「学校などの教育現場での啓発」が79.0%で最も高く、次いで「自治体の広報紙での発信」と「区公式ホームページや区公式SNSでの発信」がいずれも43.6%となっている。

年代別にみると、「学校などの教育現場での啓発」は、80歳代を除く全ての年代で7割以上となっている。また、「自治体の広報紙での発信」は、80歳代で100.0%となっている。

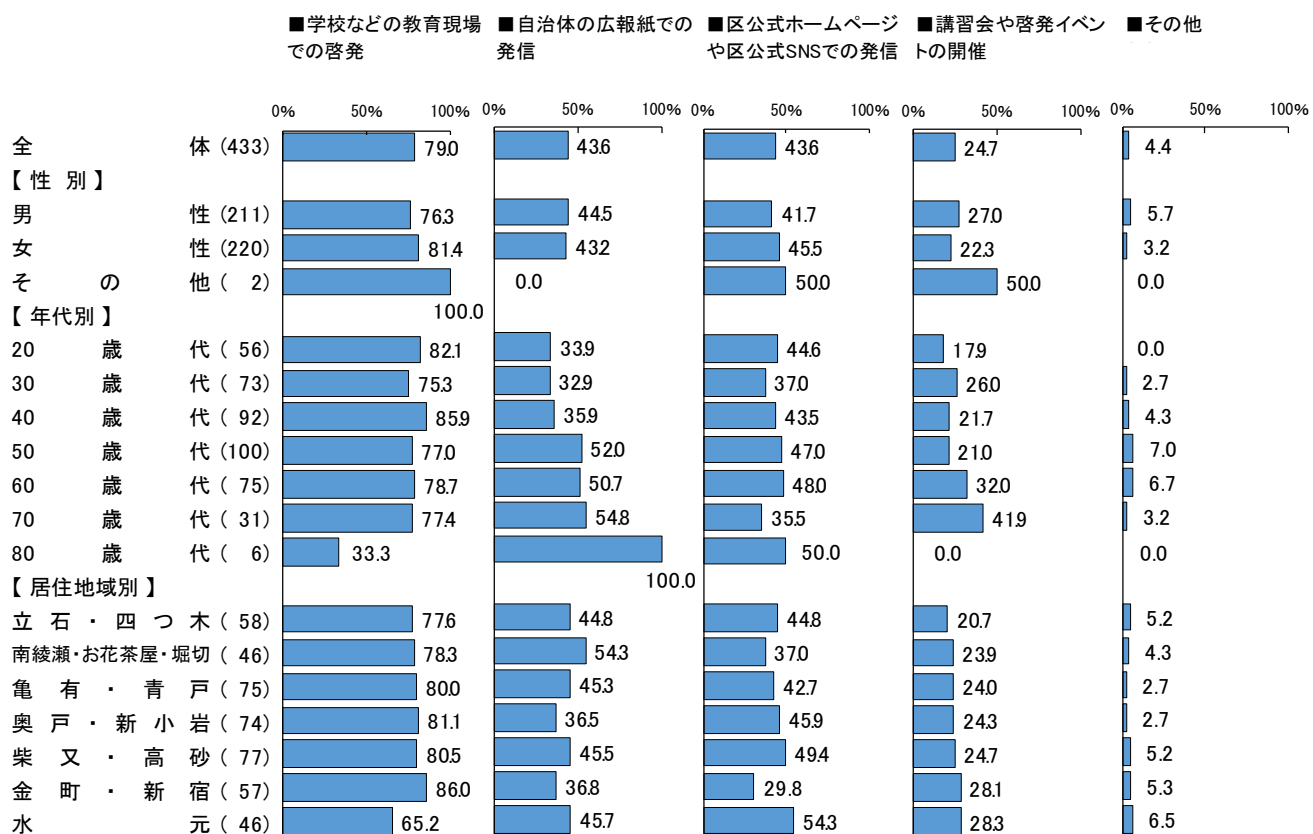
「その他」の内容としては、「SNSでの広告発信」、「電車の中吊り広告」、「町会等の対面の広報」、「重要事項を明記したメール」、「行政や病院などの待合所で啓蒙画像を流す」などがある。

図表-27 子どもの権利に関する認知度を上げるために効果的だと思うもの（全体）



図表-28 子どもの権利に関する認知度を上げるために効果的だと思うもの

(全体・性別・年代別・居住地域別)



2. 緊急時の医療について

近年、大規模災害が発生すると予測されており、葛飾区では、大規模災害時の緊急医療救護所などの体制強化を進めています。区民の皆様が災害医療についてどの程度ご存じなのかをお聞きし、医療体制の強化、改善策の検討をするため、区民モニターの皆様のご意見を伺います。

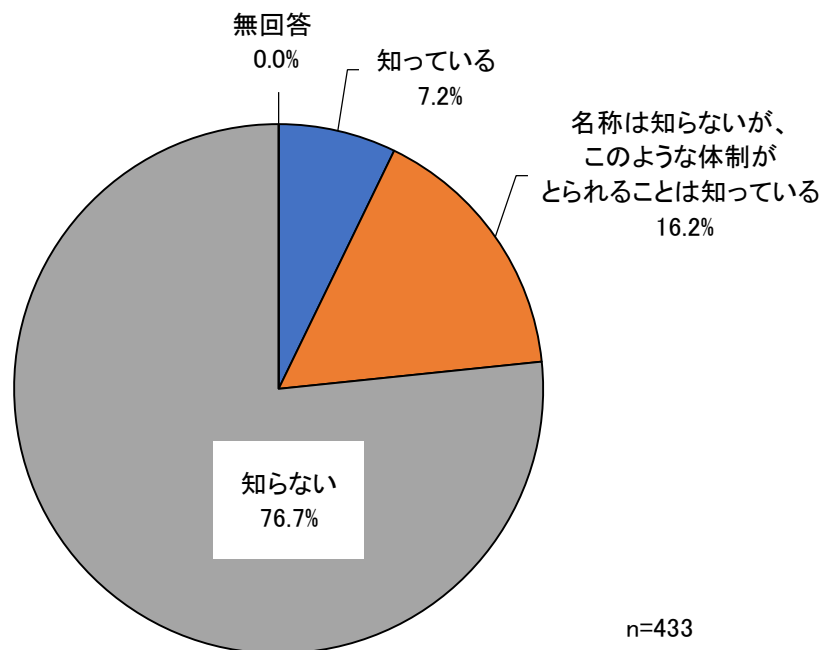
(15) 「緊急医療救護所」の認知度

問 15 大規模災害（地震）が発生すると、多くの傷病者が発生することが想定されます。多くの傷病者に対応するため、お近くの診療所（クリニック等）は葛飾区災害医療救護計画により閉鎖される一方で、区内に「緊急医療救護所」が設置されます。このことを知っていますか。（1つ選択）

「緊急医療救護所」の認知度については、「知らない」が76.7%で最も高く、次いで「名称は知らないが、このような体制がとられることは知っている」が16.2%、「知っている」が7.2%となっている。

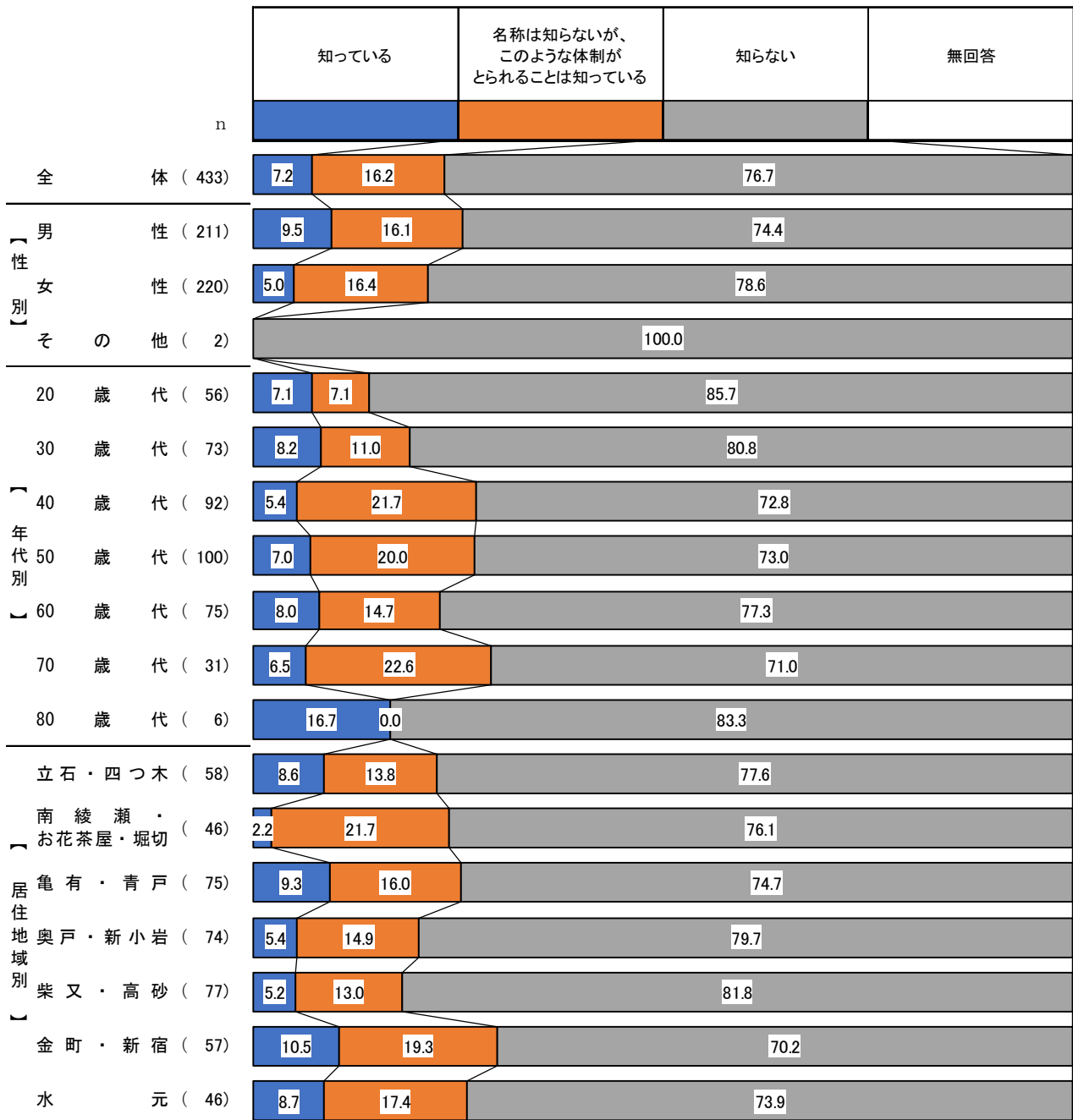
年代別にみると、「知らない」は、全ての年代で7割以上となっている。また、「知っている」は、80歳代を除く全ての年代で1割未満となっている。

図表-29 「緊急医療救護所」の認知度（全体）



図表-30 「緊急医療救護所」の認知度
(全体・性別・年代別・居住地域別)

(%)



(16) あなたが行くべき緊急医療救護所を知っているか

問 16 緊急医療救護所は区内 12 カ所の病院前に設置されます。

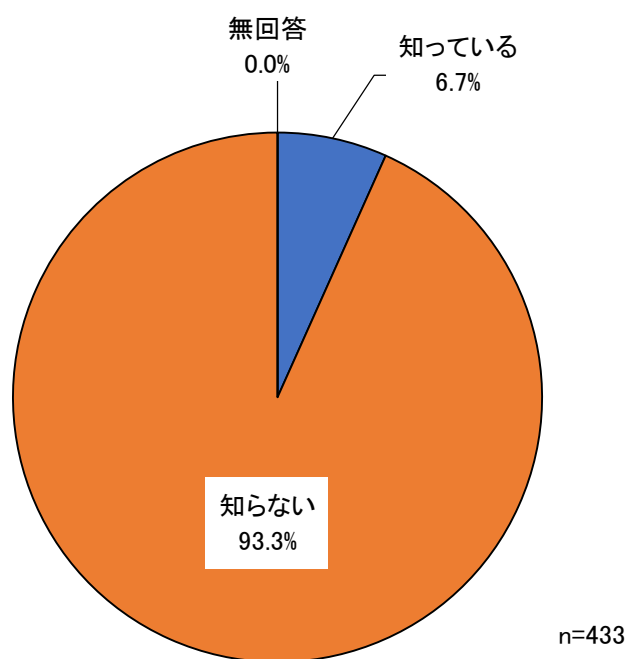
大規模災害時に医療が必要な場合に、あなたが行くべき緊急医療救護所を知っていますか。

(1つ選択)

あなたが行くべき緊急医療救護所を知っているかについては、「知らない」が 93.3%となっている。一方、「知っている」は、6.7%となっている。

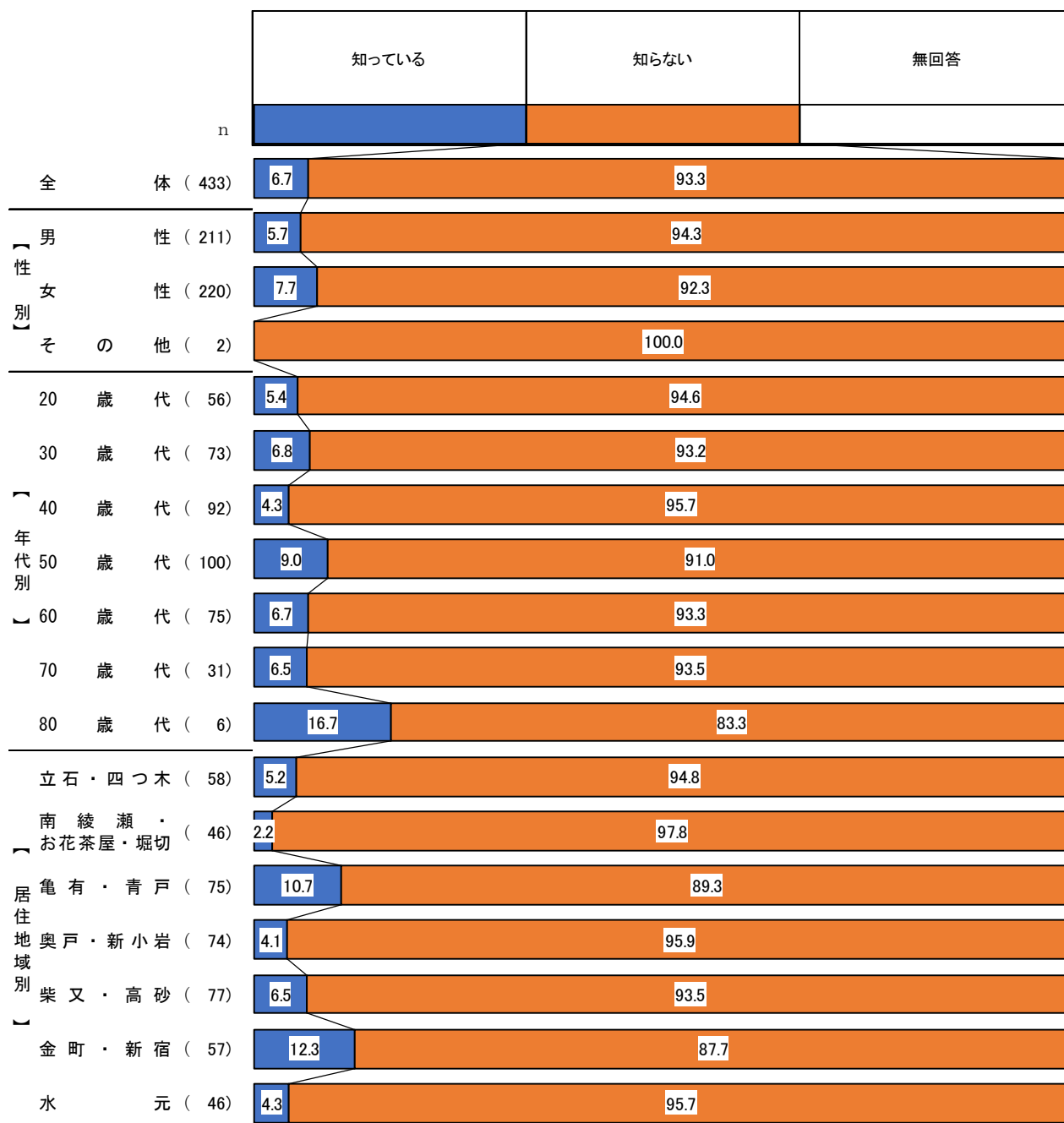
年代別にみると、「知らない」は、全ての年代で8割以上となっている。また、「知っている」は、80歳代を除く全ての年代で1割未満となっている。

図表-31 あなたが行くべき緊急医療救護所を知っているか（全体）



図表-32 あなたが行くべき緊急医療救護所を知っているか
 (全体・性別・年代別・居住地域別)

(%)



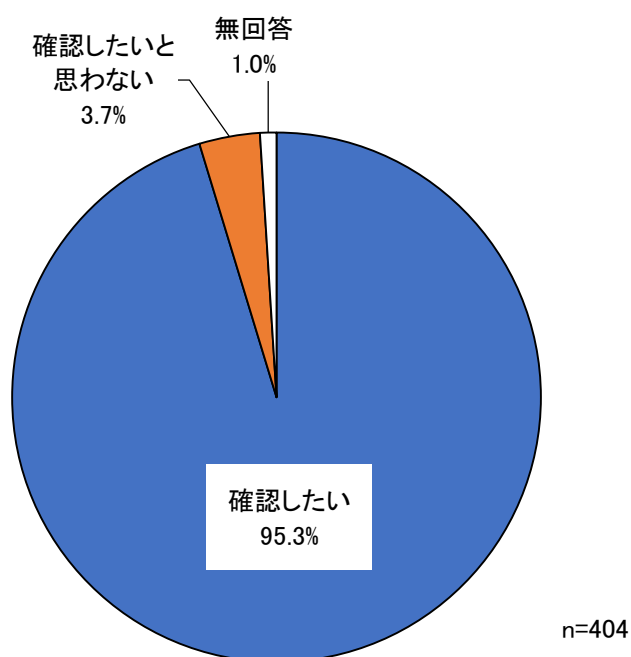
(17) 行くべき緊急医療救護所を確認したいと思うか

問17 問16で「2 知らない」と答えた方に伺います。行くべき緊急医療救護所を確認したいと思いますか。(1つ選択)

行くべき緊急医療救護所を確認したいと思うかについては、「確認したい」が95.3%となっている。一方、「確認したいと思わない」は、3.7%となっている。

年代別にみると、「確認したい」は、全ての年代で9割以上となっている。また、「確認したいと思わない」は、全ての年代で1割未満となっている。

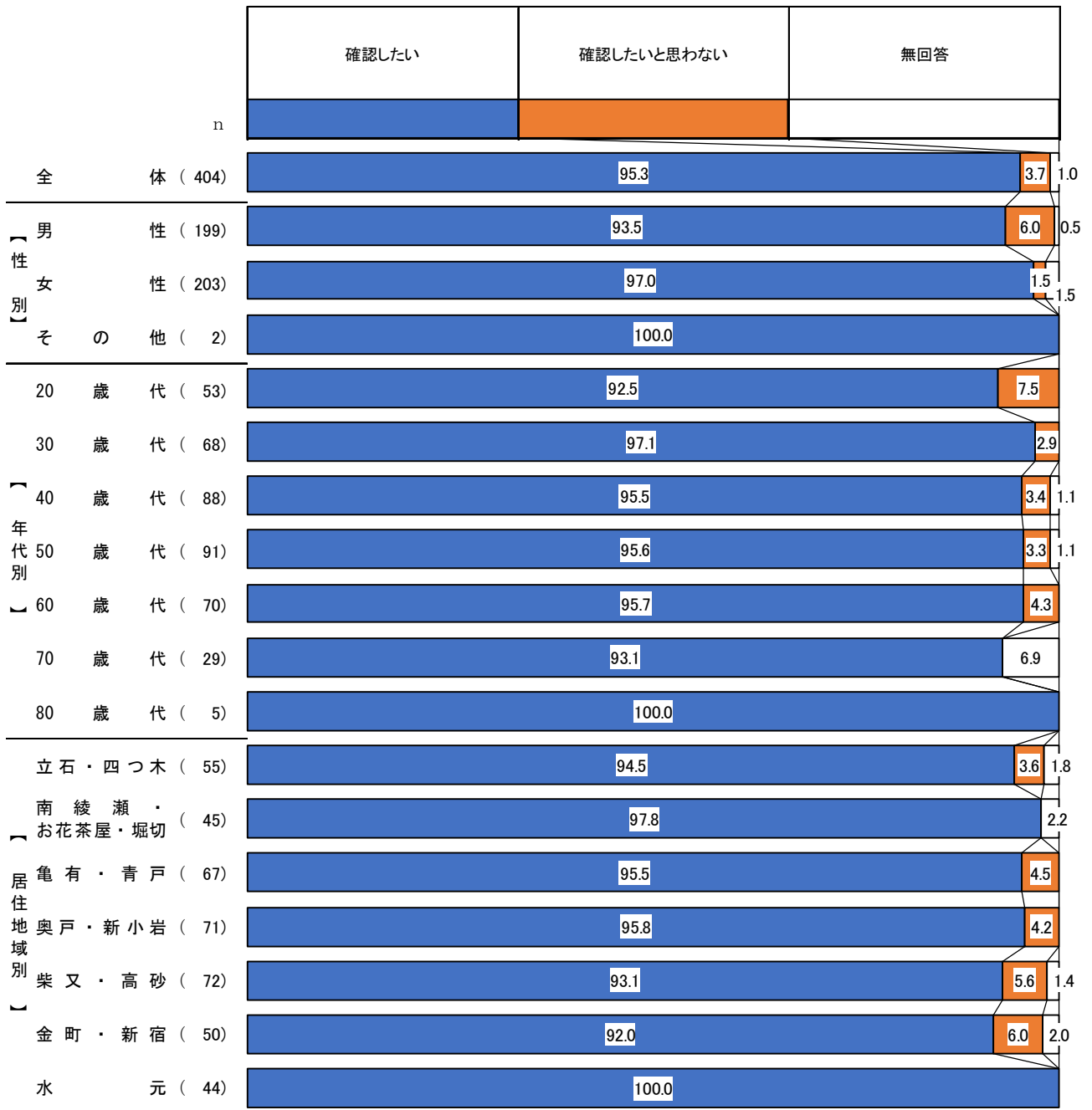
図表-33 行くべき緊急医療救護所を確認したいと思うか（全体）



図表-34 行くべき緊急医療救護所を確認したいと思うか

(全体・性別・年代別・居住地域別)

(%)



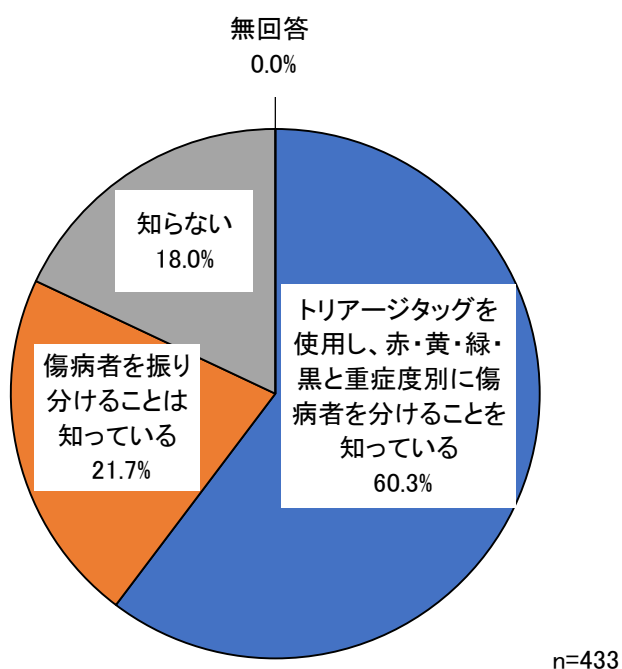
(18) トリアージの認知度

問 18 緊急医療救護所では、傷病者の「トリアージ」を実施し、応急処置や、中症者や重症者などの搬送、また医薬品が必要な方への対応をします。
あなたはトリアージを知っていますか。(1つ選択)

トリアージの認知度については、「トリアージタグを使用し、赤・黄・緑・黒と重症度別に傷病者を分けることを知っている」が60.3%で最も高く、次いで「傷病者を振り分けることは知っている」が21.7%、「知らない」が18.0%となっている。

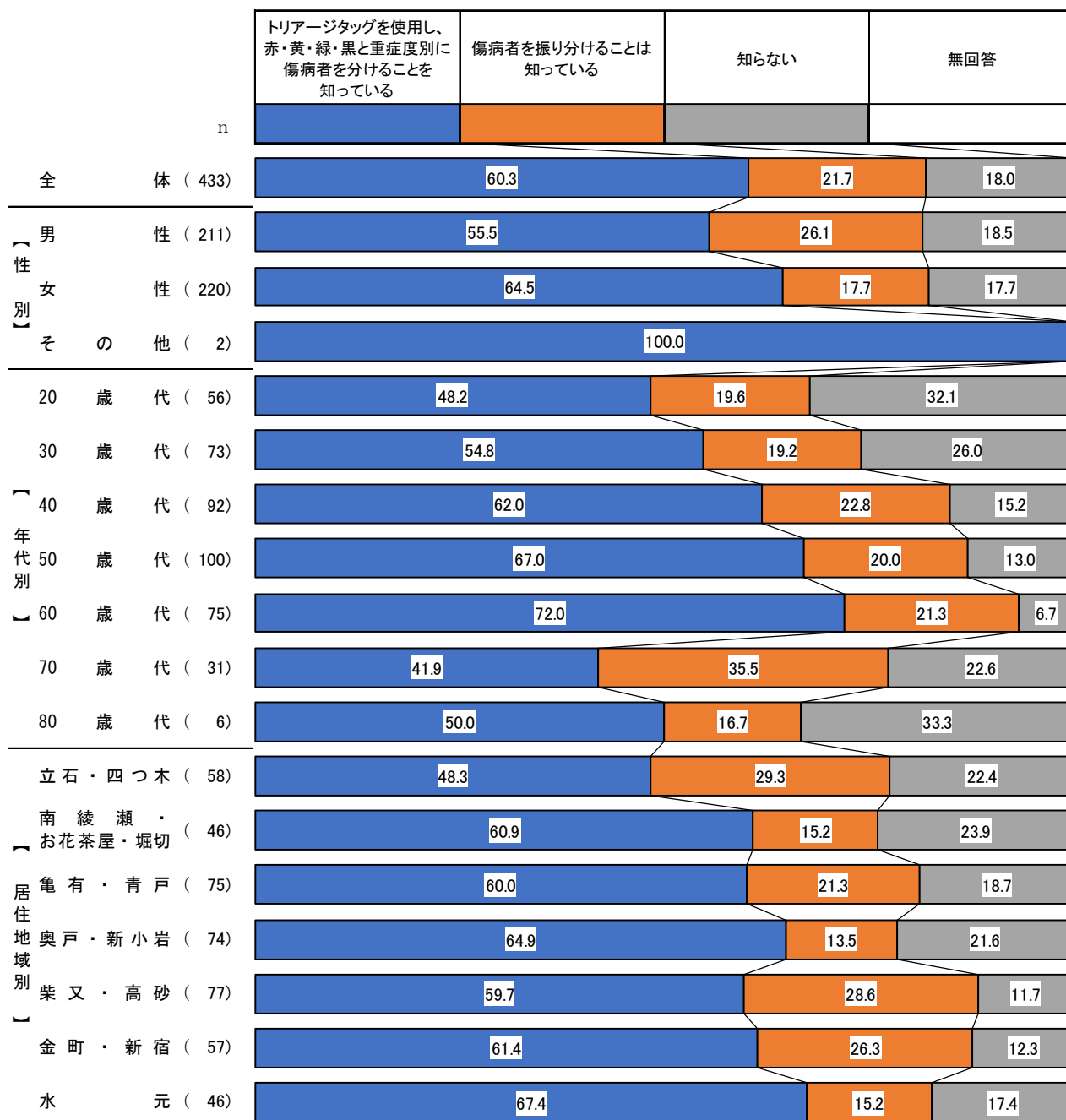
年代別でみると、「トリアージタグを使用し、赤・黄・緑・黒と重症度別に傷病者を分けることを知っている」は、全ての年代で4割以上となっている。また、「知らない」は、60歳代で1割未満と最も低くなっている。

図表-35 トリアージの認知度 (全体)



図表-36 トリアージの認知度
(全体・性別・年代別・居住地域別)

(%)



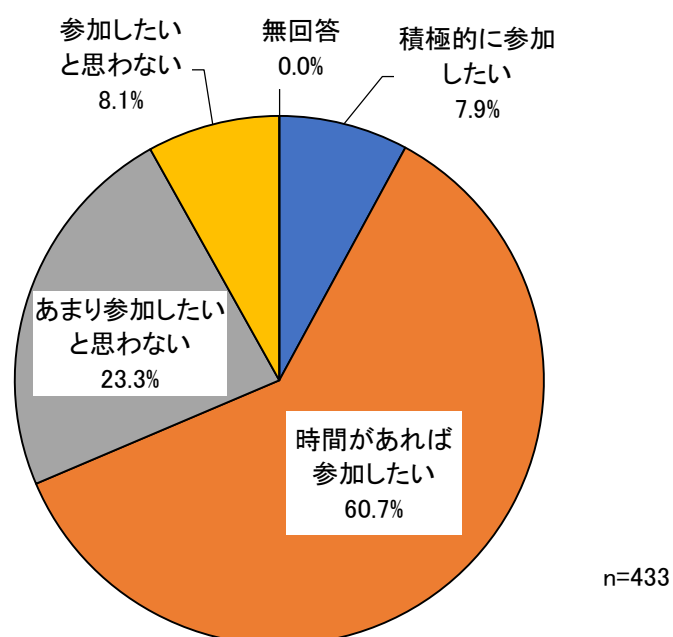
(19) 災害時の医療体制についての講習会の参加有無

問 19 緊急医療救護所など災害時の医療体制について講習会を実施した場合、参加したいと思いませんか。(1つ選択)

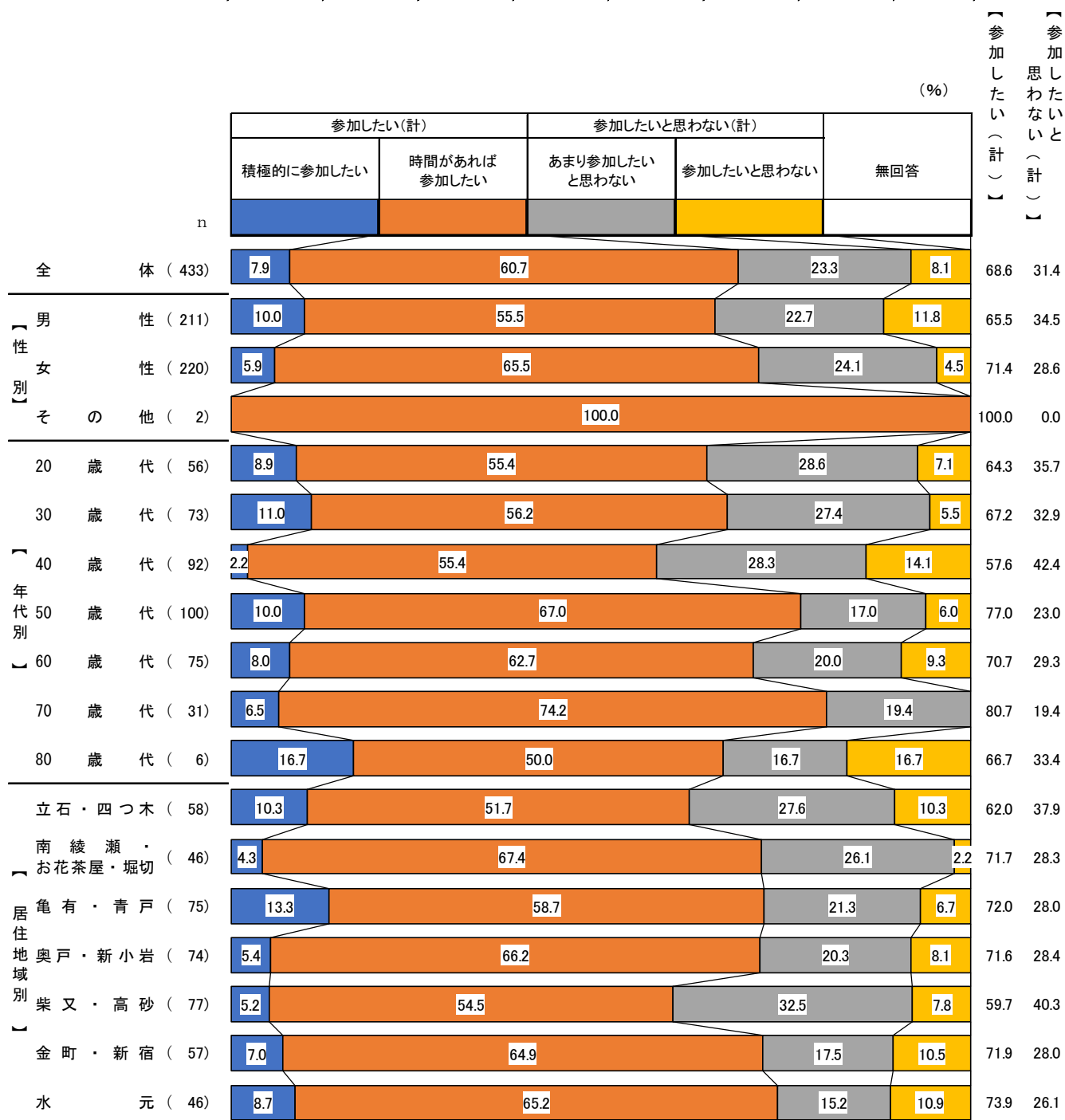
災害時の医療体制についての講習会の参加有無については、「積極的に参加したい」と「時間があれば参加したい」を合わせた【参加したい(計)】は、68.6%となっている。一方、「あまり参加したいと思わない」と「参加したいと思わない」を合わせた【参加したいと思わない(計)】は、31.4%となっている。

年代別でみると、【参加したい(計)】は、40歳代を除く全ての年代で6割以上となっており、一方、【参加したいと思わない(計)】は、40歳代で4割以上と高くなっている。

図表-37 災害時の医療体制についての講習会の参加有無(全体)



図表-38 災害時の医療体制についての講習会の参加有無
(全体・性別・年代別・居住地域別)



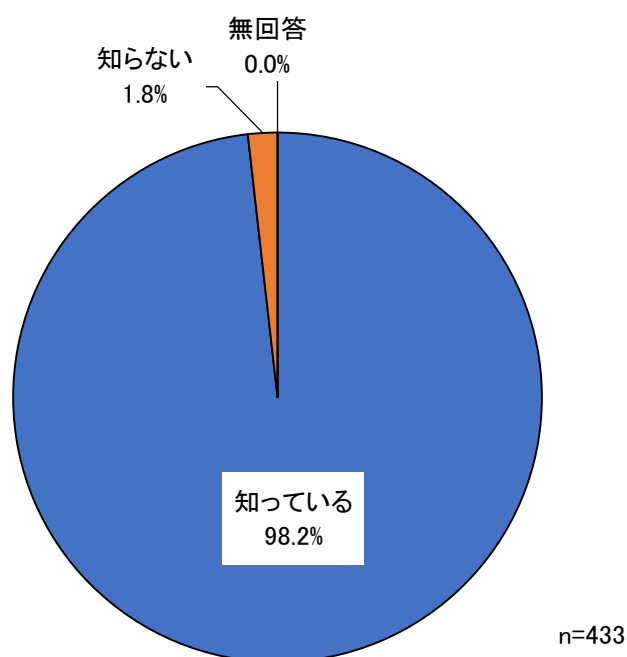
(20) AED（自動体外式除細動器）の認知度

問 20 AED（自動体外式除細動器）を知っていますか。（1つ選択）

AED（自動体外式除細動器）の認知度については、「知っている」が98.2%となっている。一方、「知らない」は、1.8%となっている。

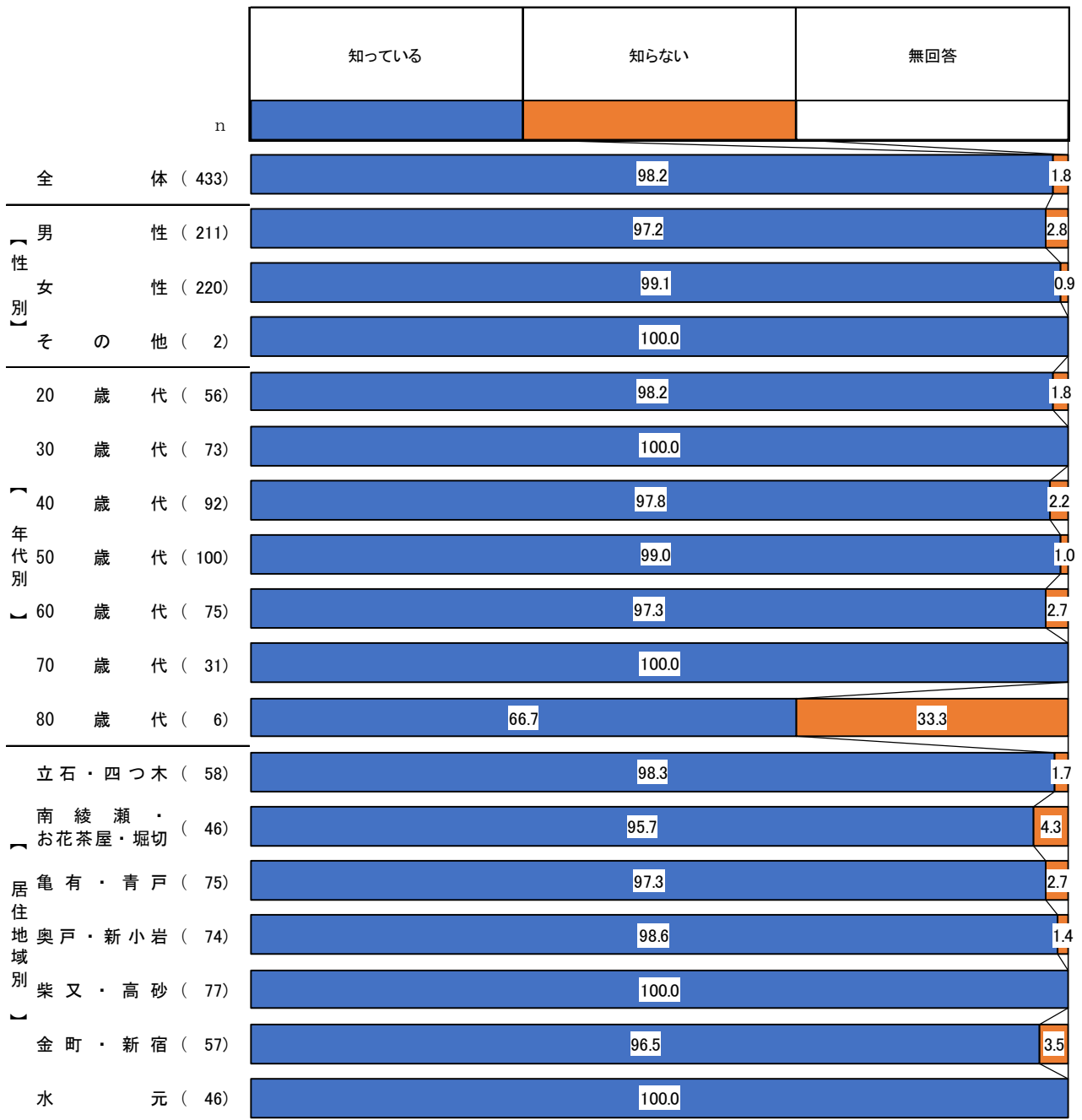
年代別にみると、「知っている」は、80歳代を除く全ての年代で9割以上となっている。また、「知らない」は、80歳代を除く全ての年代で1割未満となっている。

図表-39 AED（自動体外式除細動器）の認知度（全体）



図表-40 AED（自動体外式除細動器）の認知度
（全体・性別・年代別・居住地域別）

(%)

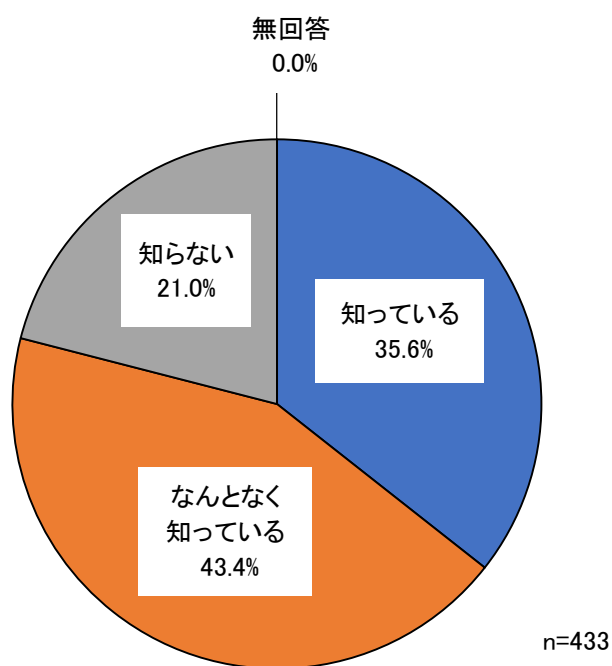


(21) AEDの使い方は知っているか

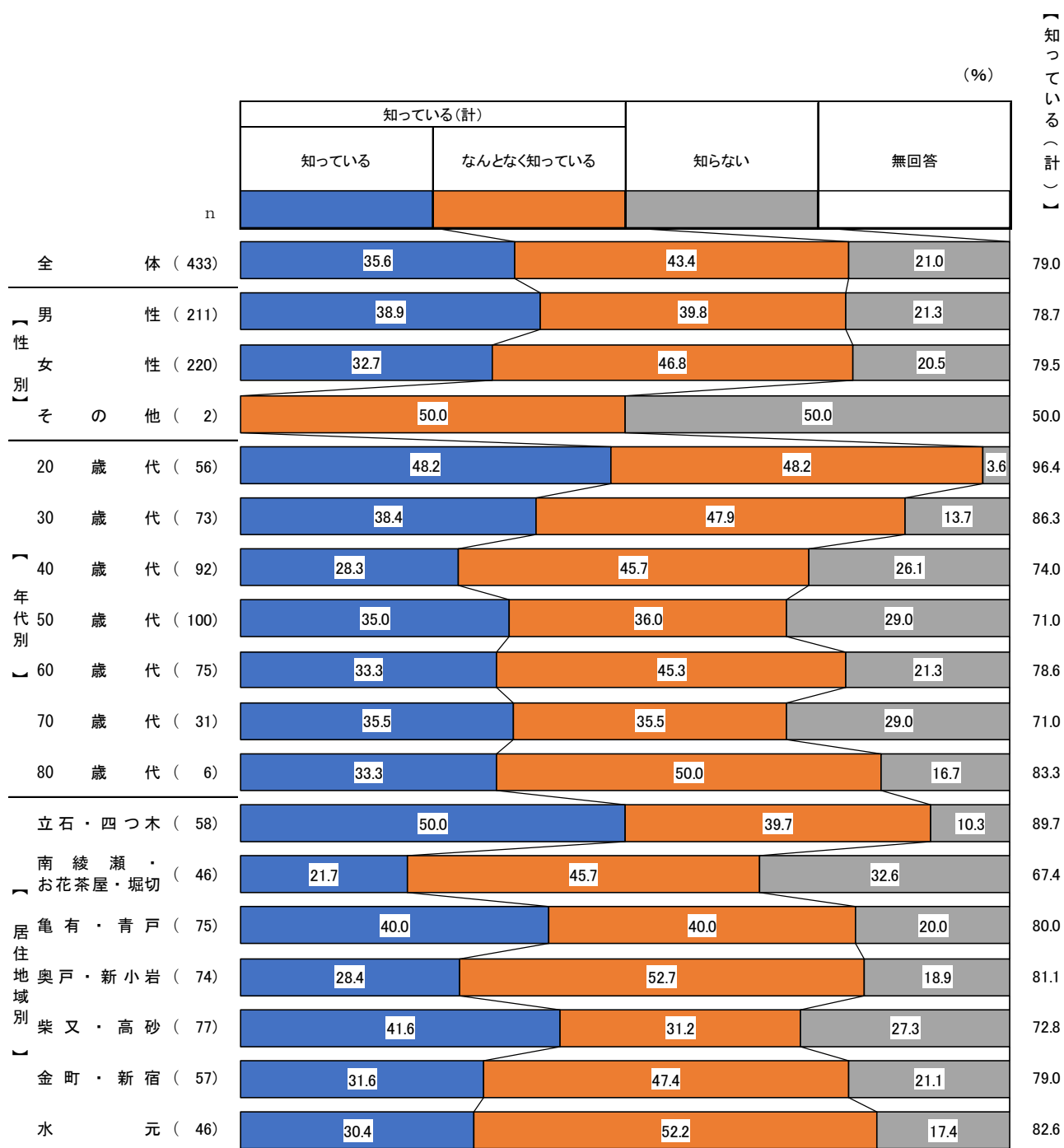
問 21 AEDの使い方は知っていますか。(1つ選択)

AEDの使い方は知っているかについては、「知っている」と「なんとなく知っている」を合わせた【知っている(計)】は、79.0%となっている。一方、「知らない」は、21.0%となっている。
年代別で見ると、【知っている(計)】は、全ての年代で7割以上となっており、一方、「知らない」は、40歳代から70歳代で2割以上となっている。

図表-41 AEDの使い方は知っているか(全体)



図表-42 AEDの使い方は知っているか
(全体・性別・年代別・居住地域別)



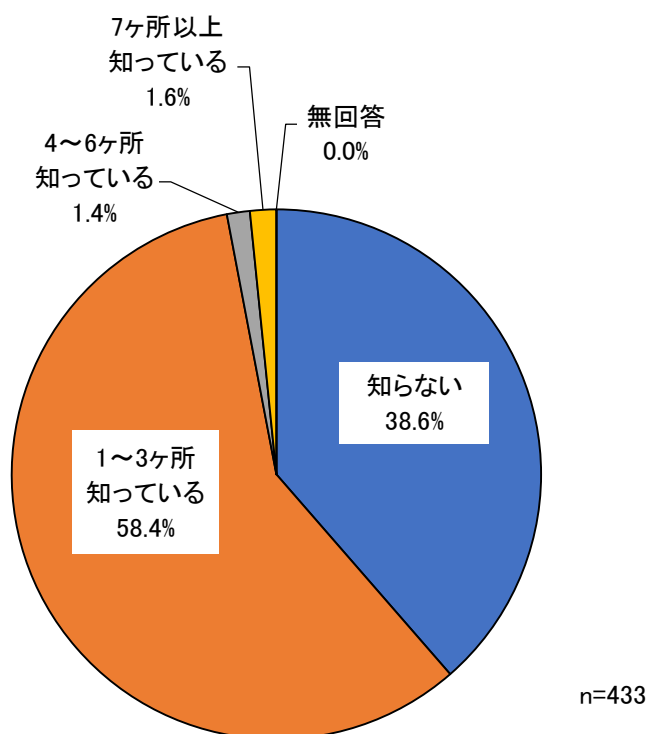
(22) AED の設置場所の認知度

問 22 自宅や職場などの近くで AED の設置場所は知っていますか。(1つ選択)

AED の設置場所の認知度については、「1～3ヶ所知っている」が 58.4%で最も高く、次いで「知らない」が 38.6%となっている。

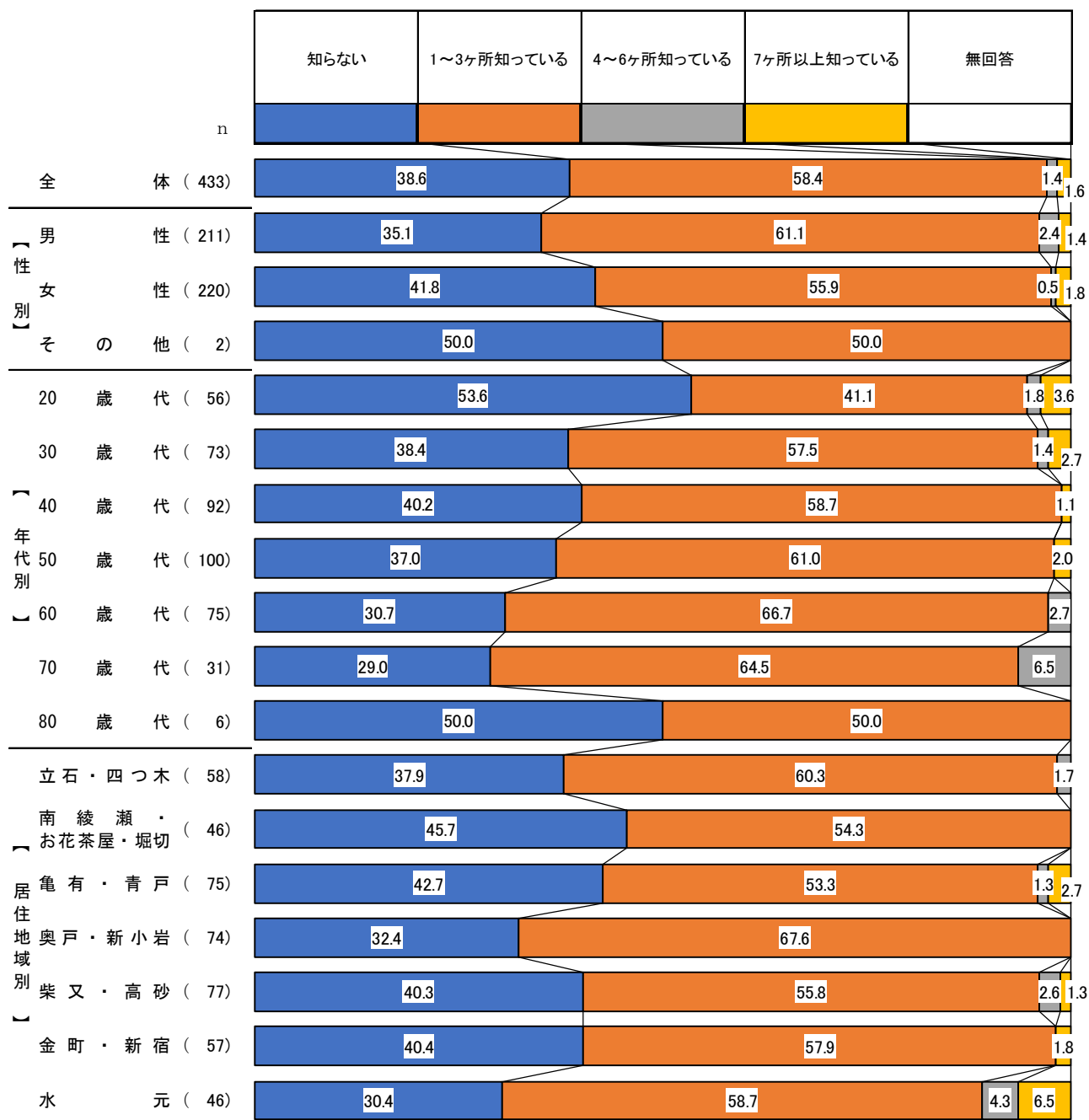
年代別にみると、「1～3ヶ所知っている」は、20歳代を除く全ての年代で5割以上となっている。一方、「知らない」は、20歳代と80歳代で5割以上と高くなっている。

図表-43 AED の設置場所の認知度 (全体)



図表-44 AEDの設置場所の認知度
(全体・性別・年代別・居住地域別)

(%)



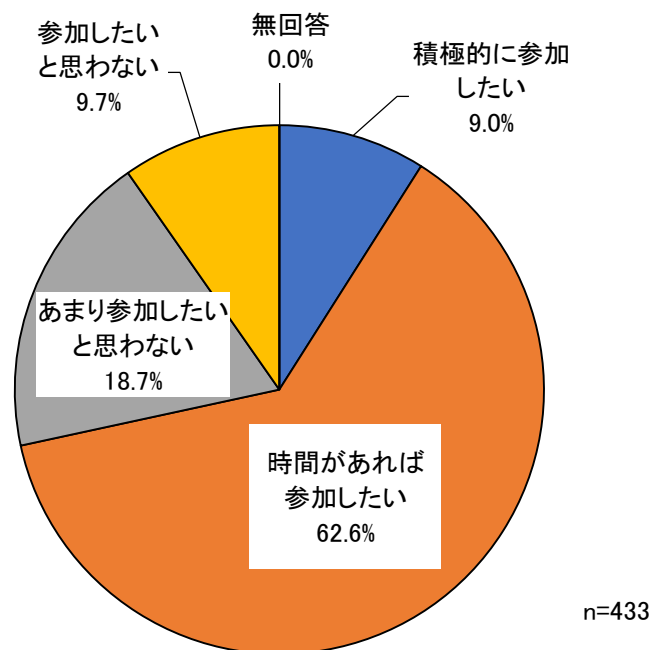
(23) AED 講習会を実施した場合の参加の有無

問 23 AED 講習会を実施した場合、参加したいと思いますか。(1つ選択)

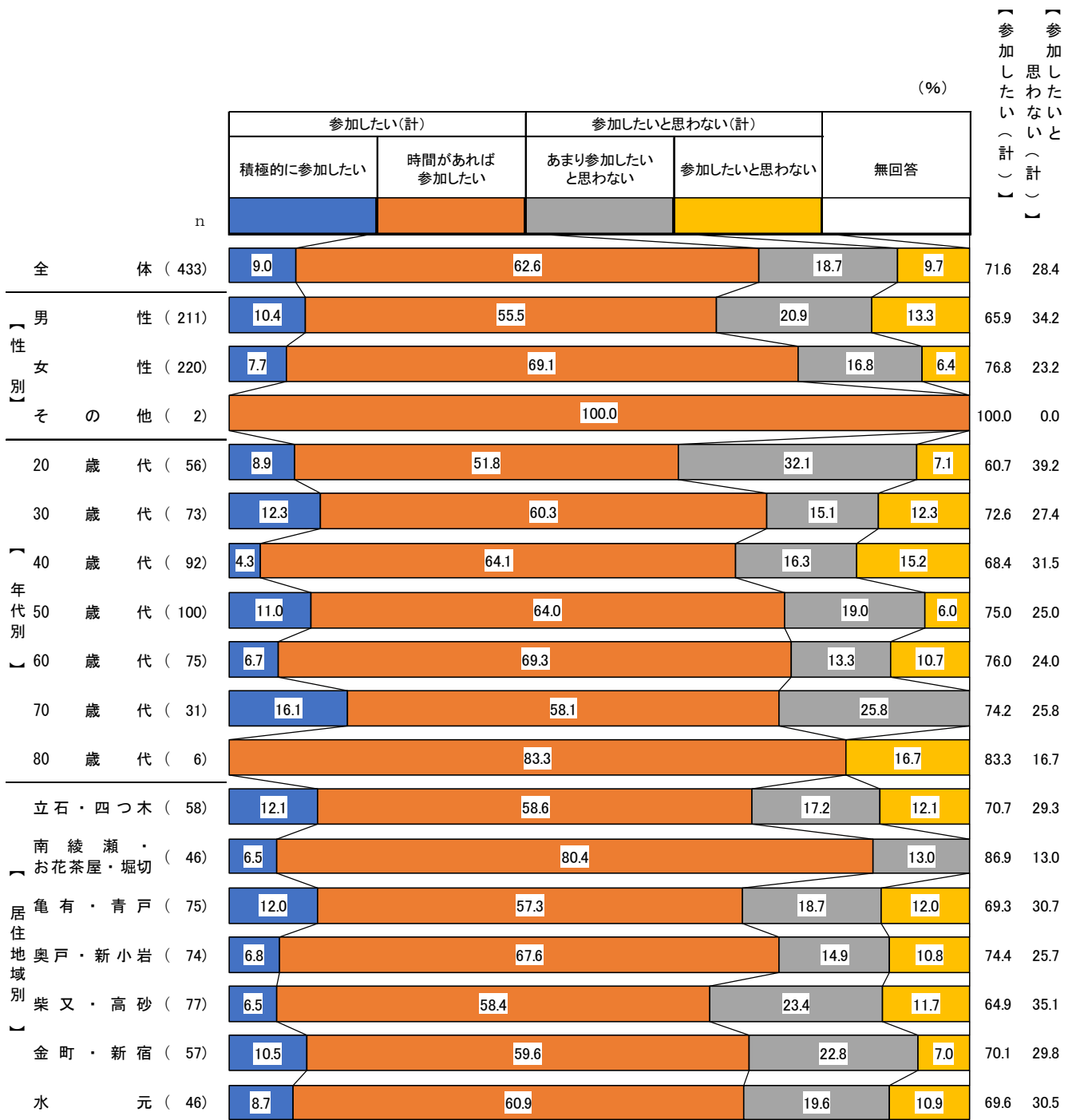
AED 講習会を実施した場合の参加の有無については、「積極的に参加したい」と「時間があれば参加したい」を合わせた【参加したい(計)】は、71.6%となっている。一方、「あまり参加したいと思わない」と「参加したいと思わない」を合わせた【参加したいと思わない(計)】は、28.4%となっている。

年代別でみると、【参加したい(計)】は、全ての年代で6割以上となっており、一方、【参加したいと思わない(計)】は、20歳代と40歳代で3割以上と高くなっている。

図表-45 AED 講習会を実施した場合の参加の有無(全体)



図表-46 AED講習会を実施した場合の参加の有無
(全体・性別・年代別・居住地域別)



(24) 緊急医療救護所や AED を知ってもらうための PR 方法

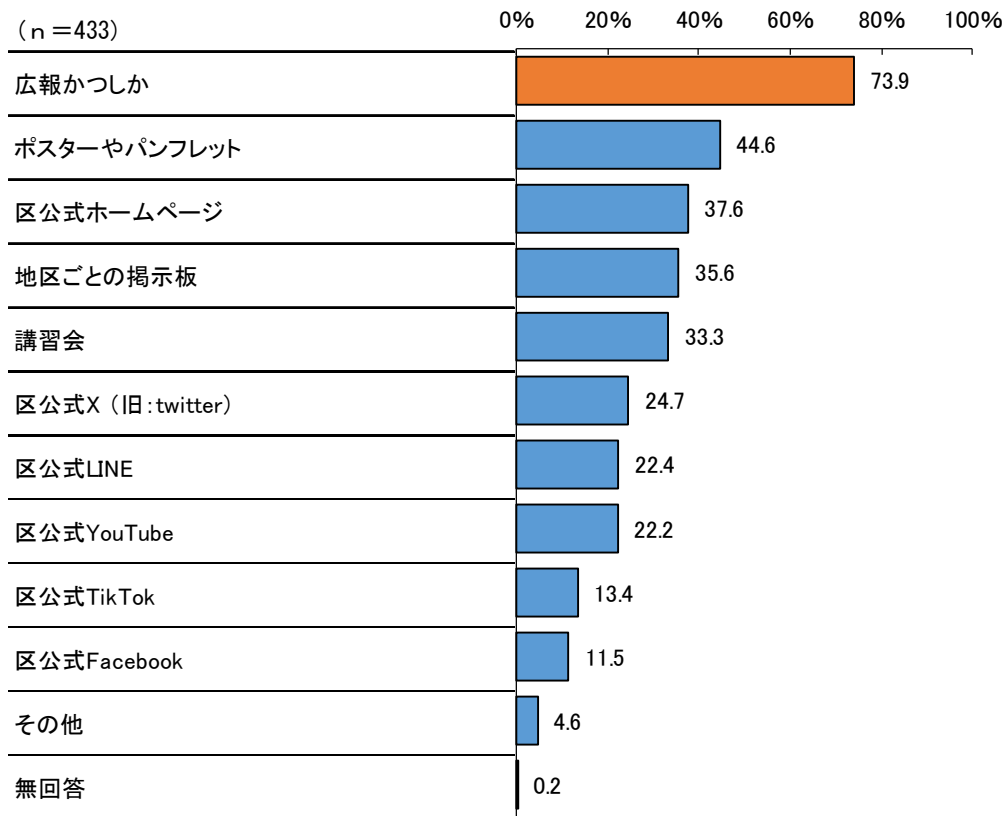
問 24 緊急医療救護所や AED を知ってもらうためには、区としてどのような方法で PR を行っていくことが効果的だと思いますか。(あてはまるものすべてを選択)

緊急医療救護所や AED を知ってもらうための PR 方法については、「広報かつしか」が 73.9%で最も高く、次いで「ポスターやパンフレット」が 44.6%、「区公式ホームページ」が 37.6%となっている。

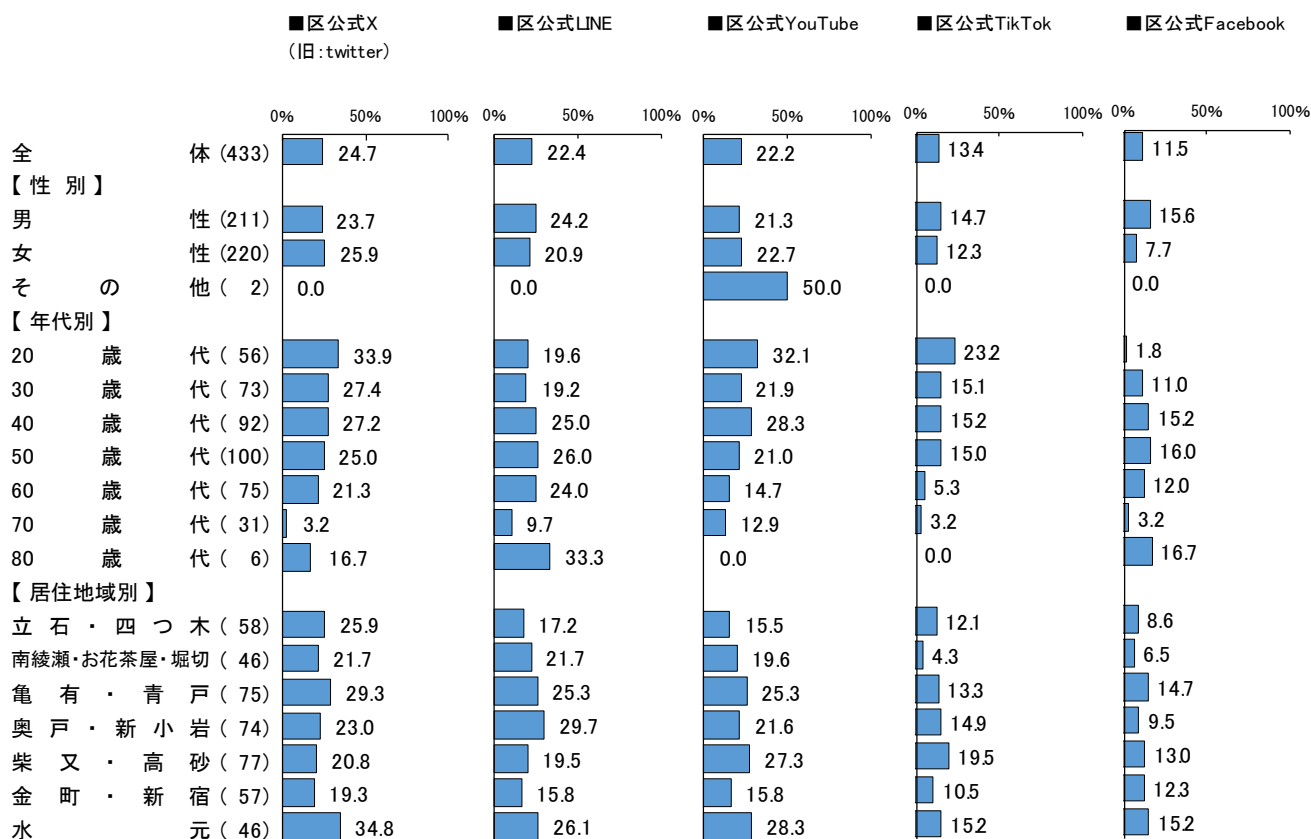
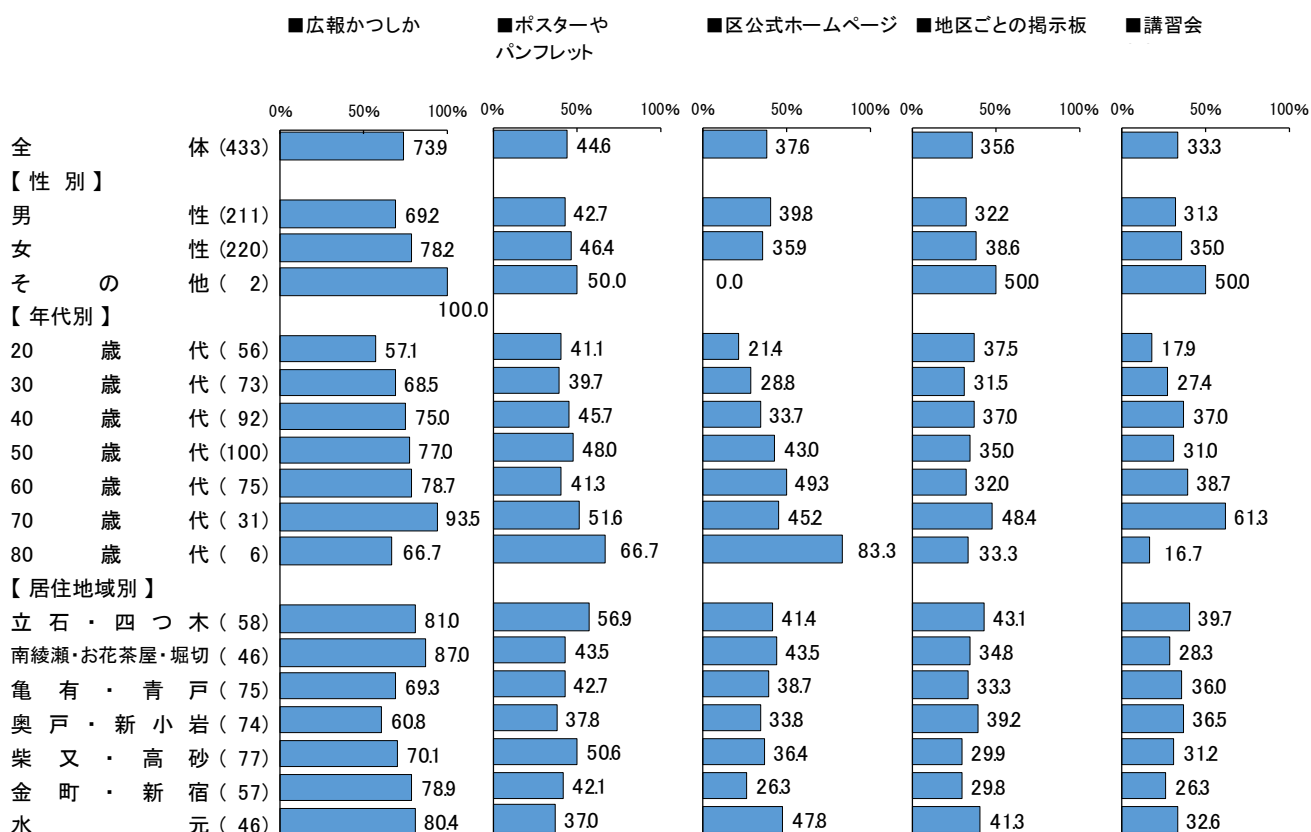
年代別にみると、「広報かつしか」は、全ての年代で 5 割以上となっている。また、「講習会」は、70 歳代で 6 割以上と高くなっている。

「その他」の内容としては、「町会等の対面広報」、「免許更新時」、「AED は避難訓練とか一緒に、実施訓練必須」、「学校や企業への出前授業」、「学校の授業に組み込む」などがある。

図表-47 緊急医療救護所や AED を知ってもらうための PR 方法（全体）



図表-48 緊急医療救護所やAEDを知ってもらうためのPR方法
(全体・性別・年代別・居住地域別—上位10項目)



3. 葛飾区郷土と天文の博物館の利用について

葛飾区郷土と天文の博物館は、「郷土かつしかの歴史や文化をたどる郷土分野」と「星の世界を探る天文分野」が一つになった博物館です。展示、プラネタリウム、イベントや講座を実施しています。また、博物館公式ホームページでは、様々な情報を発信しています。

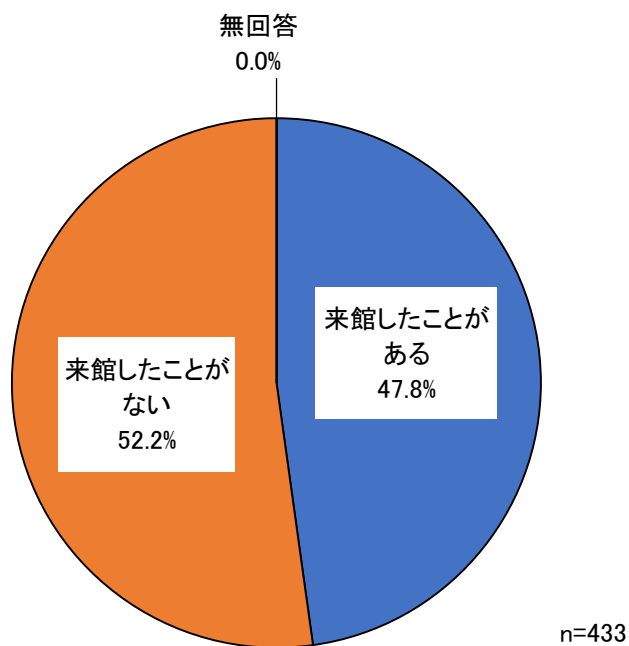
(25) 郷土と天文の博物館の来館の有無

問 25 郷土と天文の博物館に来館したことはありますか。(1つ選択)

郷土と天文の博物館の来館の有無については、「来館したことがある」は、47.8%となっている。一方、「来館したことがない」が52.2%となっている。

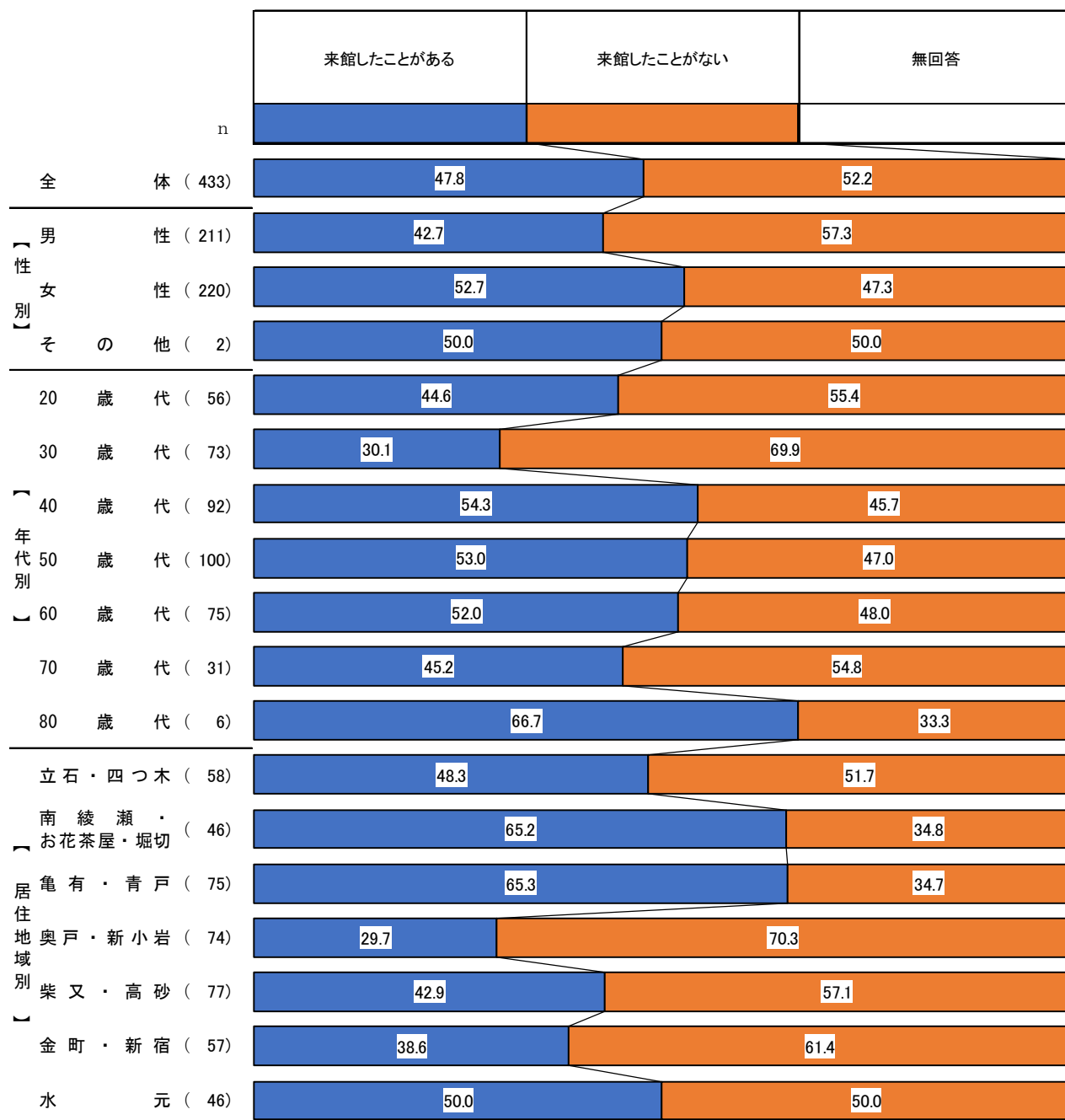
年代別でみると、「来館したことがある」は、80歳代で6割以上と高くなっている。一方、「来館したことがない」が30歳代で約7割となっている。

図表-49 郷土と天文の博物館の来館の有無（全体）



図表-50 郷土と天文の博物館の来館の有無
(全体・性別・年代別・居住地域別)

(%)



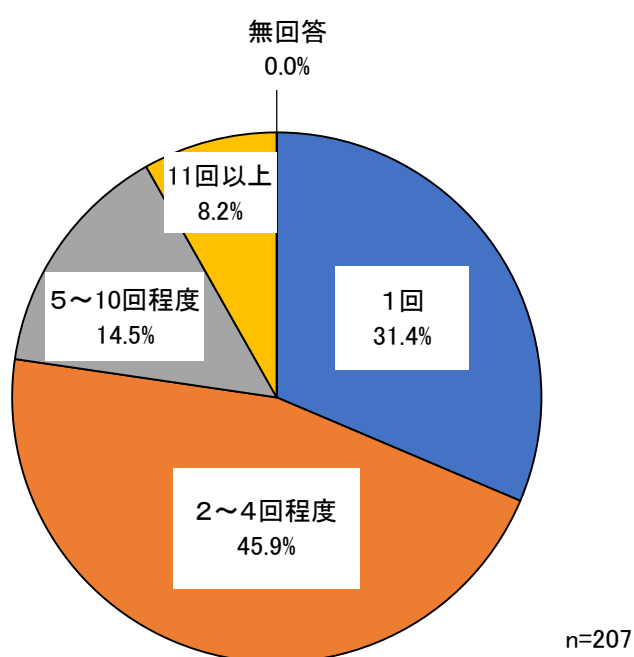
(26) 郷土と天文の博物館の来館回数

問 26 問 25 で選択肢 1 「来館したことがある」と答えた方にお伺いします。
これまでに何回程度来館されましたか。(1つ選択)

郷土と天文の博物館の来館回数については、「2～4回程度」が45.9%で最も高く、次いで「1回」が31.4%、「5～10回程度」が14.5%となっている。

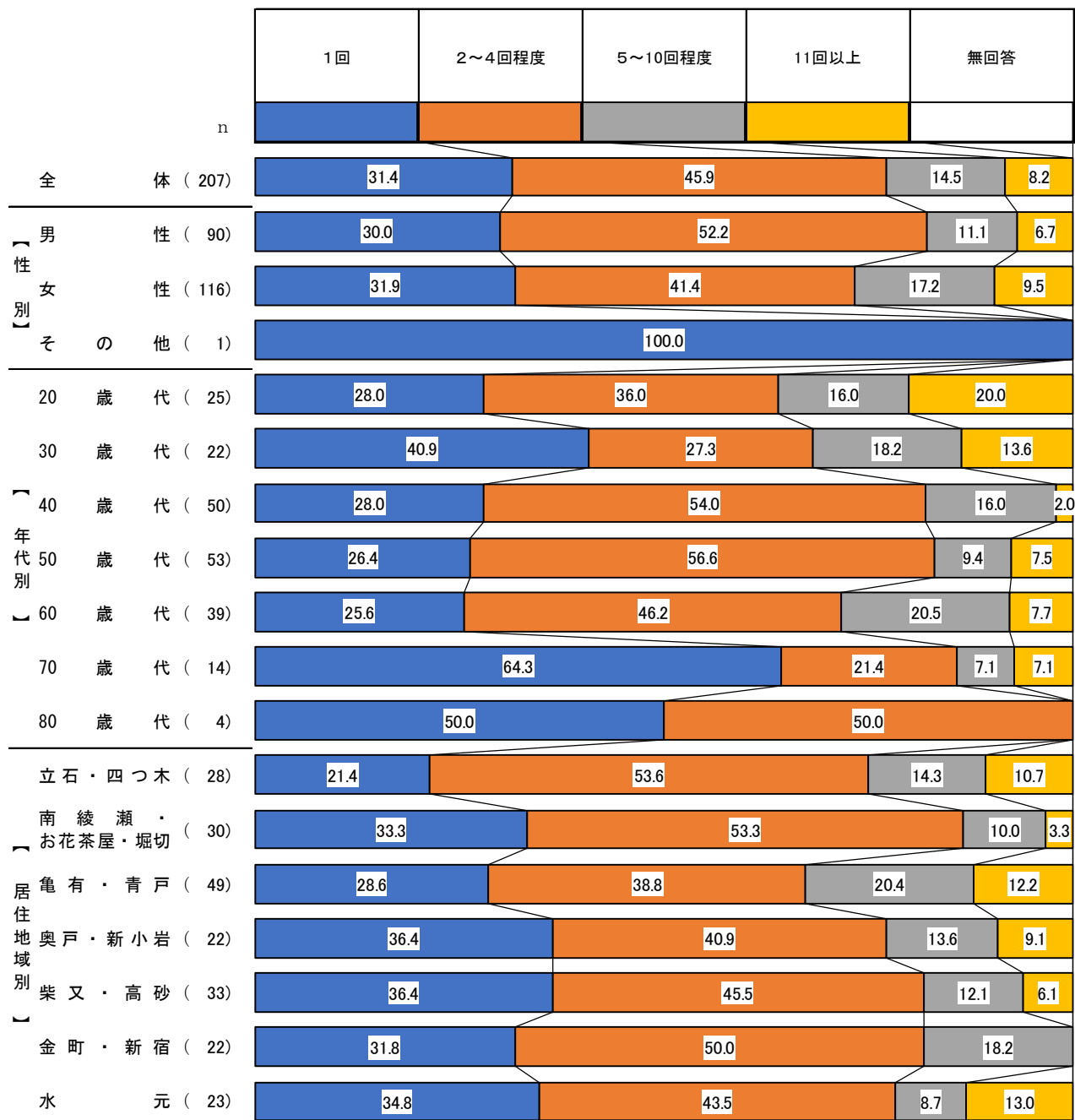
年代別でみると、「2～4回程度」は、40歳代と50歳代で5割以上となっている。また、「1回」は、70歳代で6割以上と高くなっている。

図表-51 郷土と天文の博物館の来館回数（全体）



図表-52 郷土と天文の博物館の来館回数
(全体・性別・年代別・居住地域別)

(%)



(27) 郷土と天文の博物館の来館目的

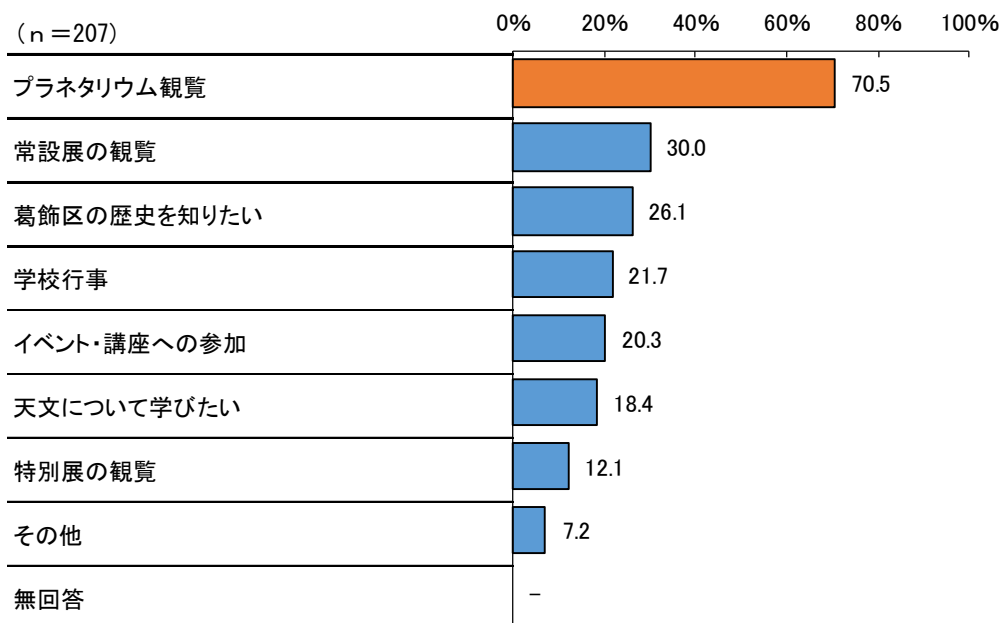
問 27 問 25 で選択肢 1 「来館したことがある」と答えた方にお伺いします。
来館された目的は何ですか。(あてはまるものすべてを選択)

郷土と天文の博物館の来館目的については、「プラネタリウム観覧」が 70.5%で最も高く、次いで「常設展の観覧」が 30.0%、「葛飾区の歴史を知りたい」が 26.1%となっている。

年代別でみると、「プラネタリウム観覧」は、20 歳代を除く全ての年代で 5 割以上となっている。また、「葛飾区の歴史を知りたい」は、80 歳代で 7 割以上と高く、年代が高くなるにつれて割合が高くなっている。

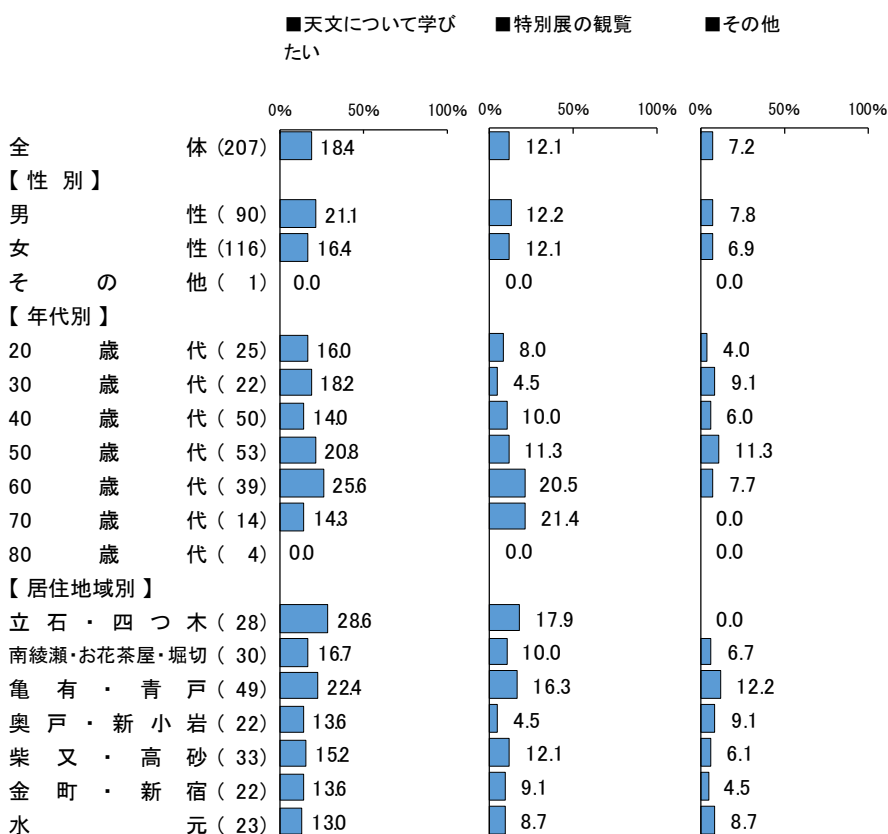
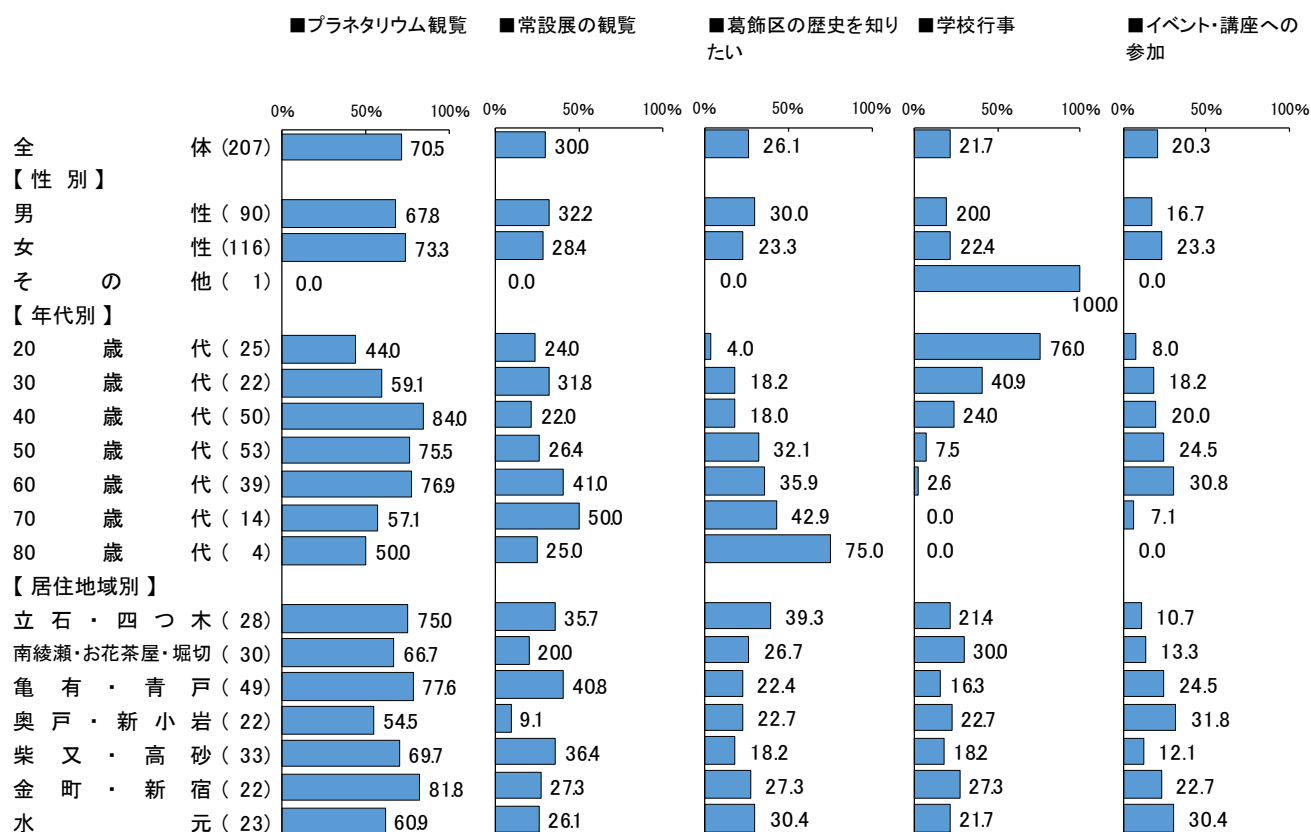
「その他」の内容としては、「子どもと遊びに」、「散歩途中の休憩」、「涼みに」、「職場の引率」などがある。

図表－53 郷土と天文の博物館の来館目的（全体）



図表-54 郷土と天文の博物館の来館目的

(全体・性別・年代別・居住地域別)



(28) 郷土と天文の博物館に来館したことがない理由

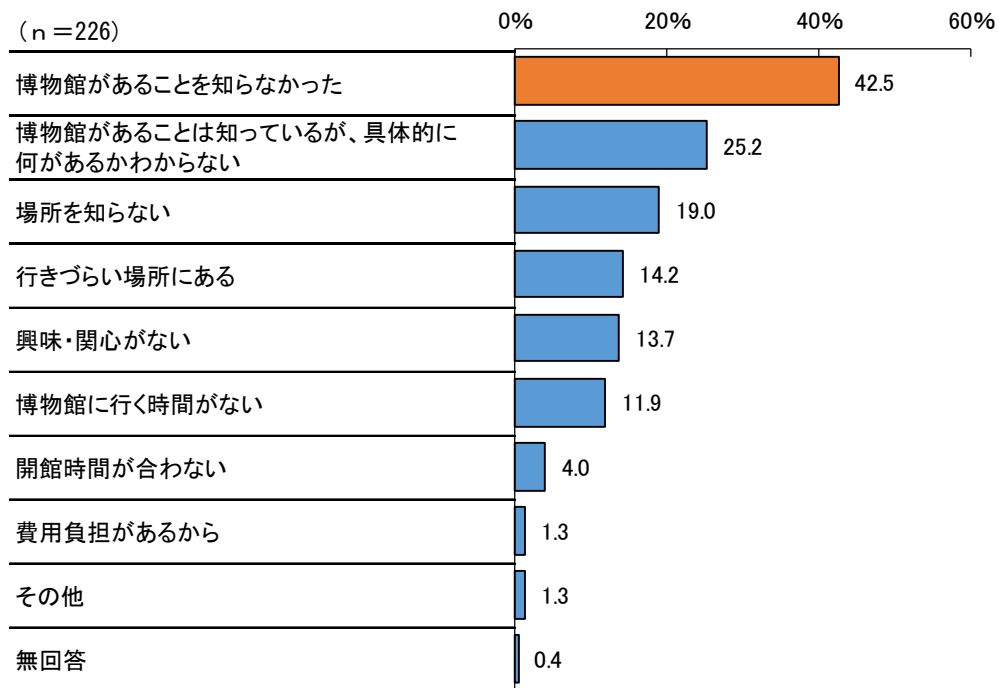
問 28 問 26 で選択肢 2 「来館したことがない」と答えた方にお伺いします。
博物館に来館したことがない理由は何ですか。(あてはまるものすべてを選択)

郷土と天文の博物館に来館したことがない理由については、「博物館があることを知らなかった」が 42.5% で最も高く、次いで「博物館があることは知っているが、具体的に何があるかわからない」が 25.2%、「場所を知らない」が 19.0% となっている。

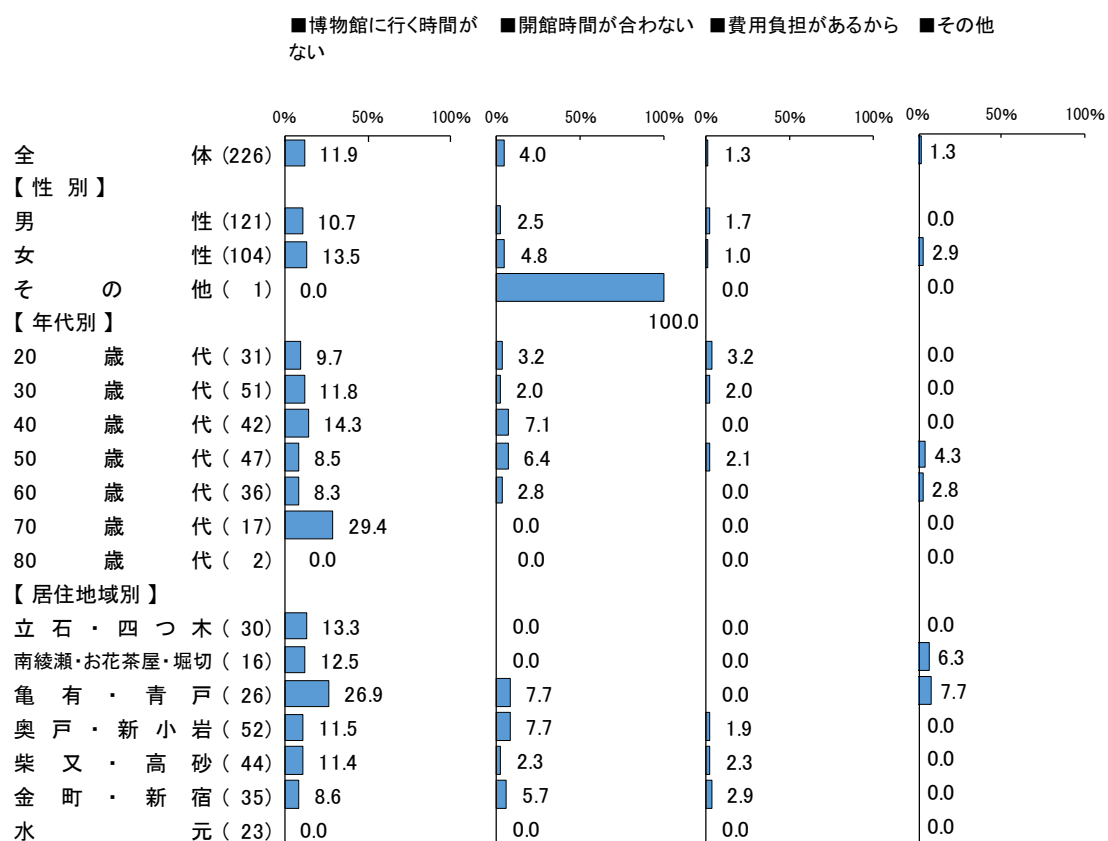
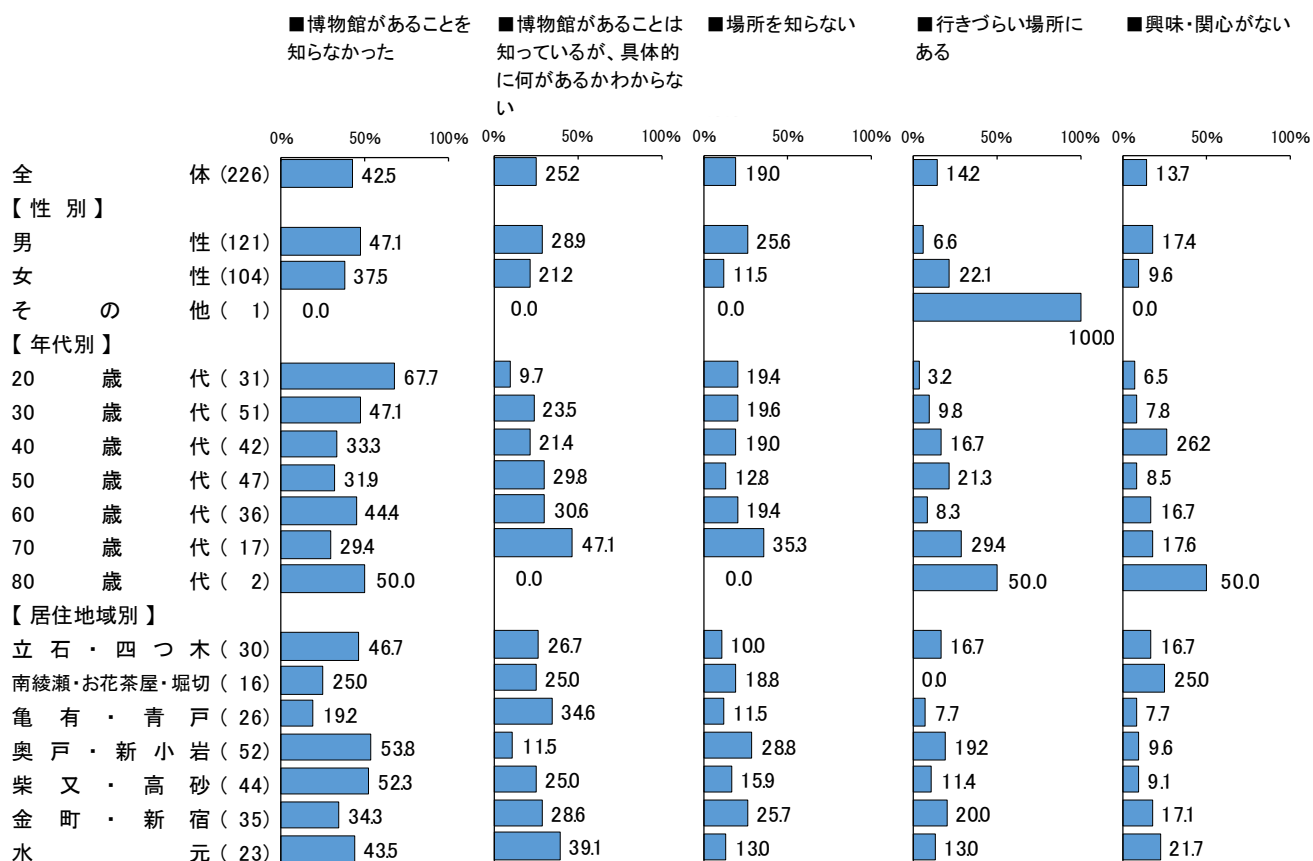
年代別でみると、「博物館があることを知らなかった」は、20 歳代で 6 割以上と高くなっている。また、「場所を知らない」は、70 歳代を除く全ての年代で 2 割未満となっている。

「その他」の内容としては、「そのうち行ってみよう、という気持ちと時間はあるが未だに実現していない。以前プラネタリウムを調べたがスケジュールと合わない」、「知っているが、わざわざ行くまでのモチベーションがない」、「行ってみたいとは思っている」などがある。

図表-55 郷土と天文の博物館に来館したことがない理由（全体）



図表-56 郷土と天文の博物館に来館したことがない理由
(全体・性別・年代別・居住地域別)



(29) 博物館がイベントや講座を実施していることの認知度

問 29 博物館では、展示やプラネタリウムの投影のほかに、イベントや講座を通して体験学習を行っています。

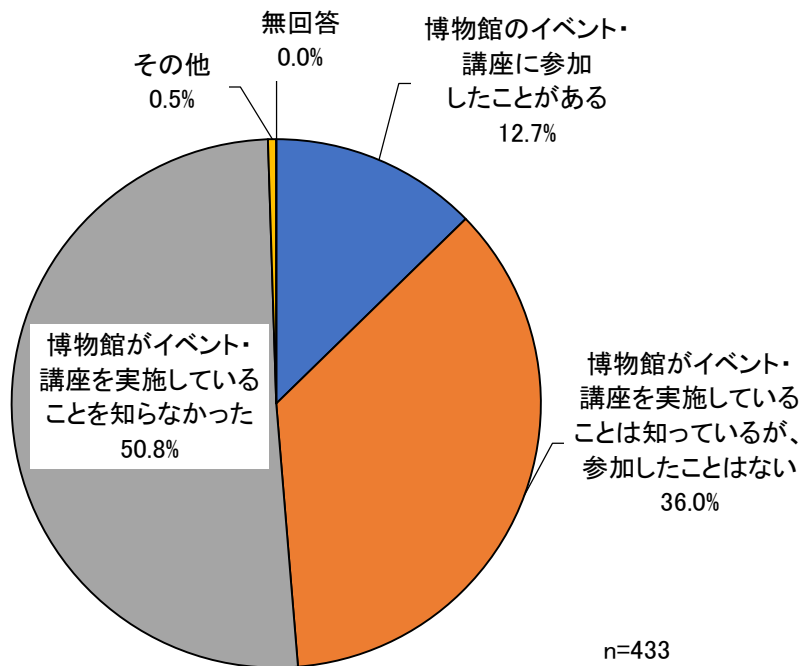
博物館がイベントや講座を実施していることをご存知ですか。(1つ選択)

博物館がイベントや講座を実施していることの認知度については、「博物館がイベント・講座を実施していることを知らなかった」が50.8%で最も高く、次いで「博物館がイベント・講座を実施していることは知っているが、参加したことはない」が36.0%、「博物館のイベント・講座に参加したことがある」が12.7%となっている。

年代別でみると、「博物館がイベント・講座を実施していることを知らなかった」は、30歳代以下と80歳代で6割以上となっている。また、「博物館のイベント・講座に参加したことがある」は、全ての年代で2割未満となっている。

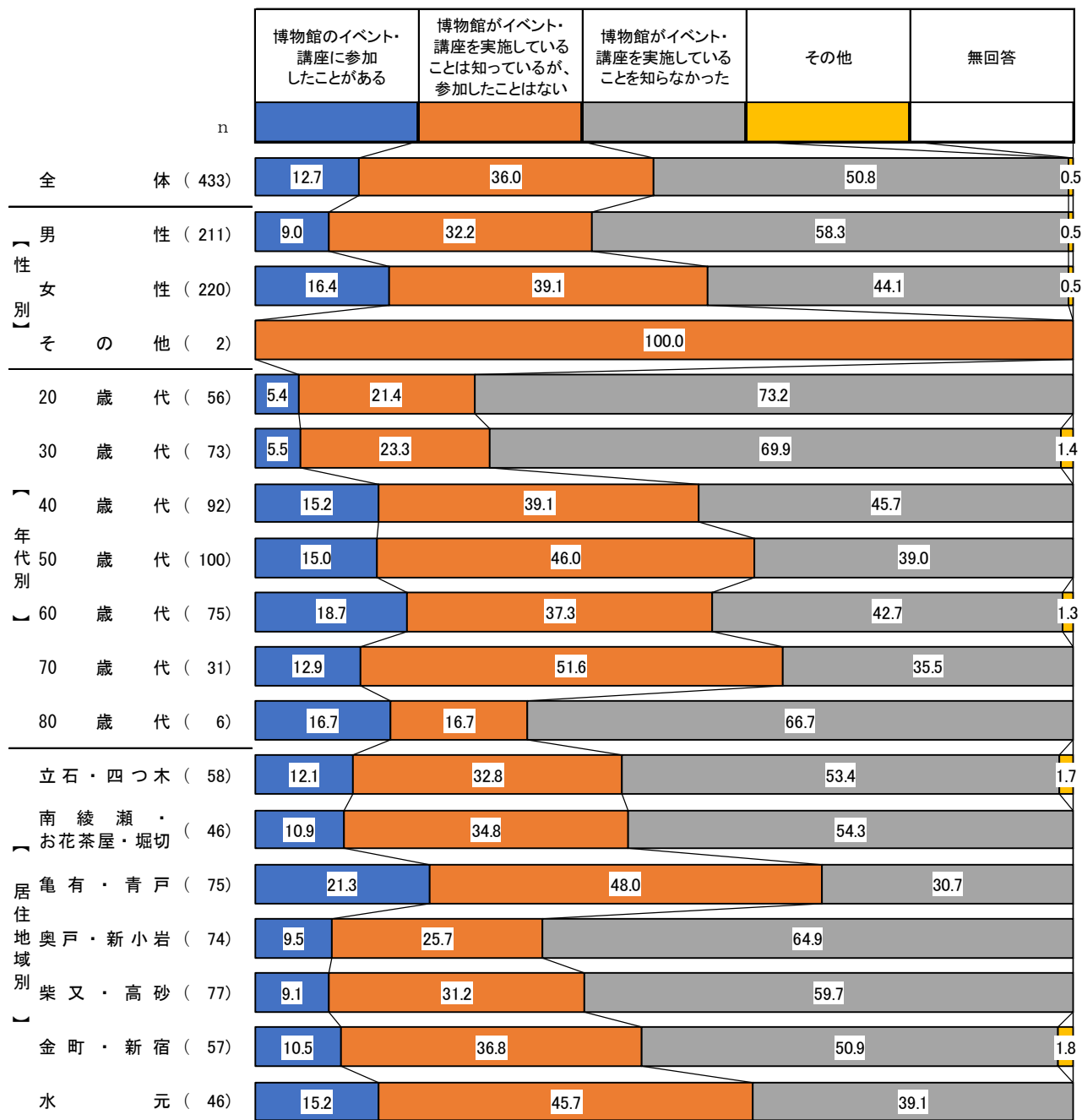
「その他」の内容としては、「博物館自体を知らなかった」、「博物館やめて、子供の居場所に変更したほうが良い」がある。

図表-57 博物館がイベントや講座を実施していることの認知度（全体）



図表一58 博物館がイベントや講座を実施していることの認知度
(全体・性別・年代別・居住地域別)

(%)



(30) 博物館でのボランティア活動の認知度

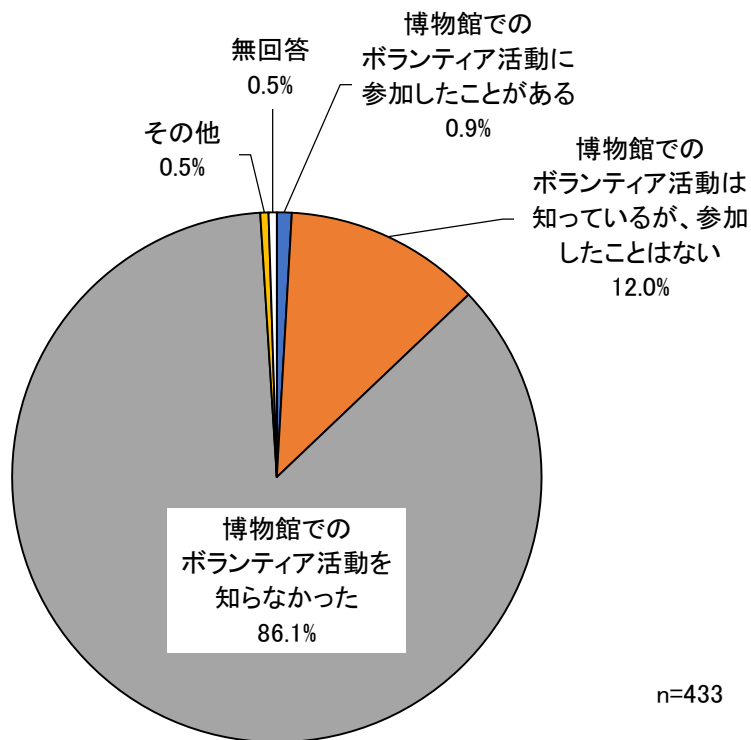
問 30 博物館では、イベントや講座の一部をボランティアと協働で実施しています。
博物館でのボランティア活動をご存知ですか。(1つ選択)

博物館でのボランティア活動の認知度については、「博物館でのボランティア活動を知らなかった」が86.1%で最も高く、次いで「博物館でのボランティア活動は知っているが、参加したことはない」が12.0%、「博物館でのボランティア活動に参加したことがある」が0.9%となっている。

年代別で見ると、「博物館でのボランティア活動を知らなかった」は、全ての年代で8割以上となっている。一方、「博物館でのボランティア活動に参加したことがある」は、全ての年代で1割未満となっている。

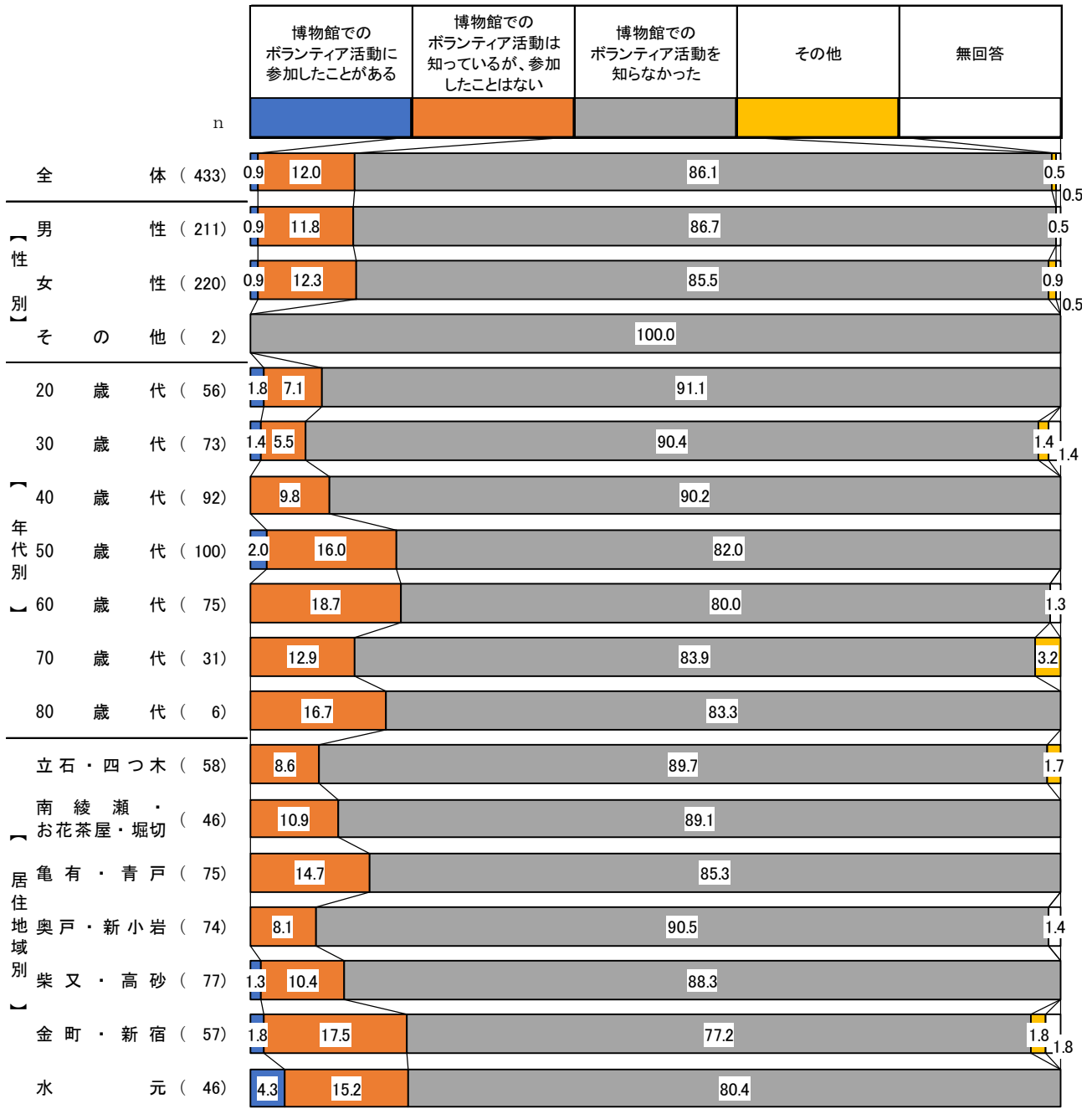
「その他」の内容としては、「博物館自体を知らなかった」がある。

図表-59 博物館でのボランティア活動の認知度（全体）



図表-60 博物館でのボランティア活動の認知度
(全体・性別・年代別・居住地域別)

(%)



(31) 博物館のホームページから得たことがある情報は何か

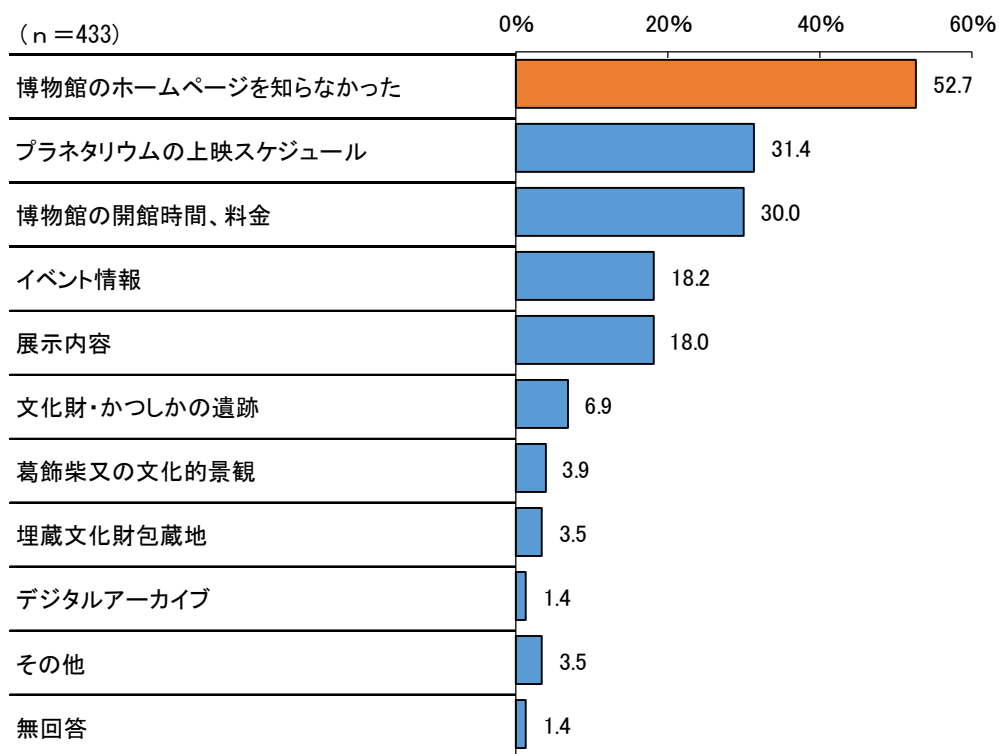
問 31 博物館では、博物館公式のホームページから様々な情報を発信しています。
博物館のホームページから得たことがある情報は何ですか。(あてはまるものすべて選択)

博物館のホームページから得たことがある情報は何かについては、「博物館のホームページを知らなかった」が52.7%で最も高く、次いで「プラネタリウムの上映スケジュール」が31.4%、「博物館の開館時間、料金」が30.0%となっている。

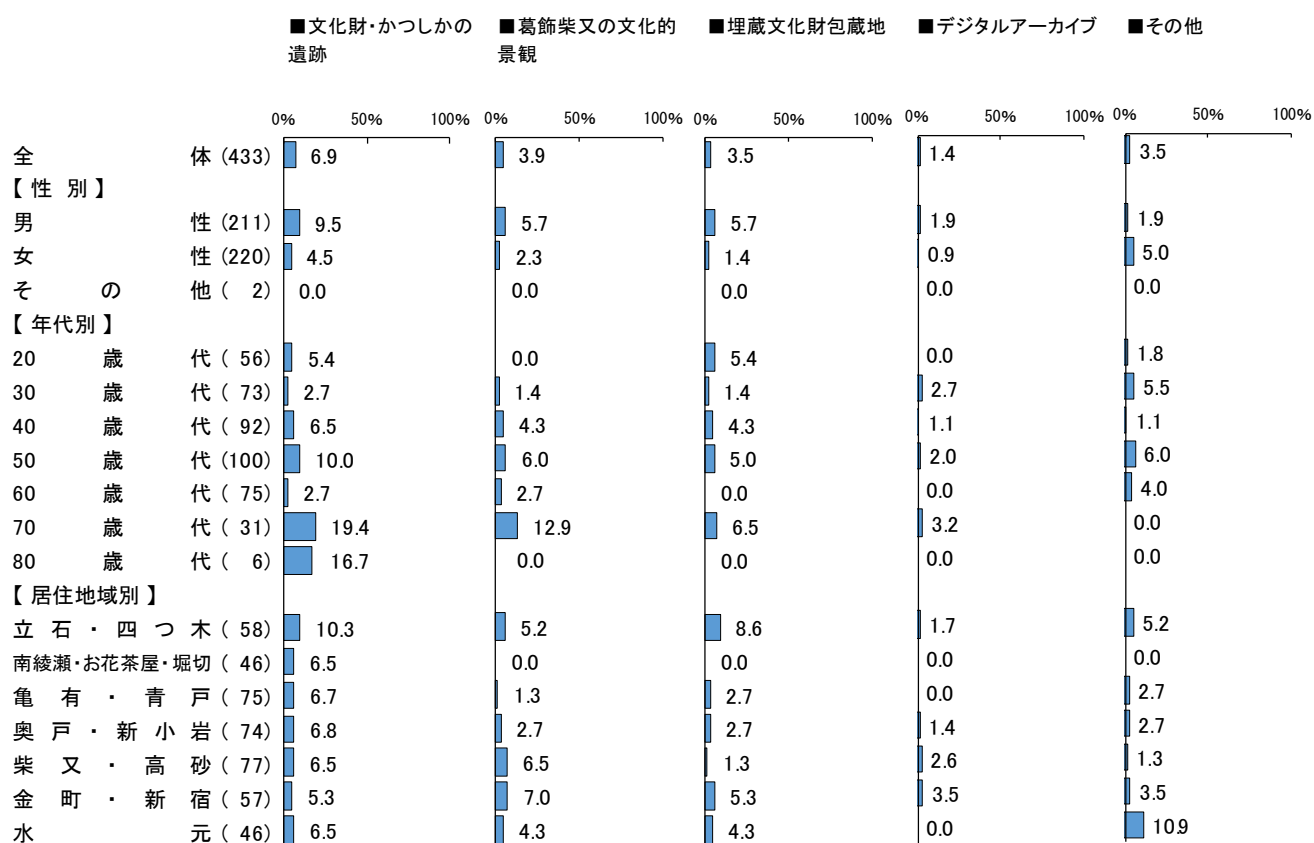
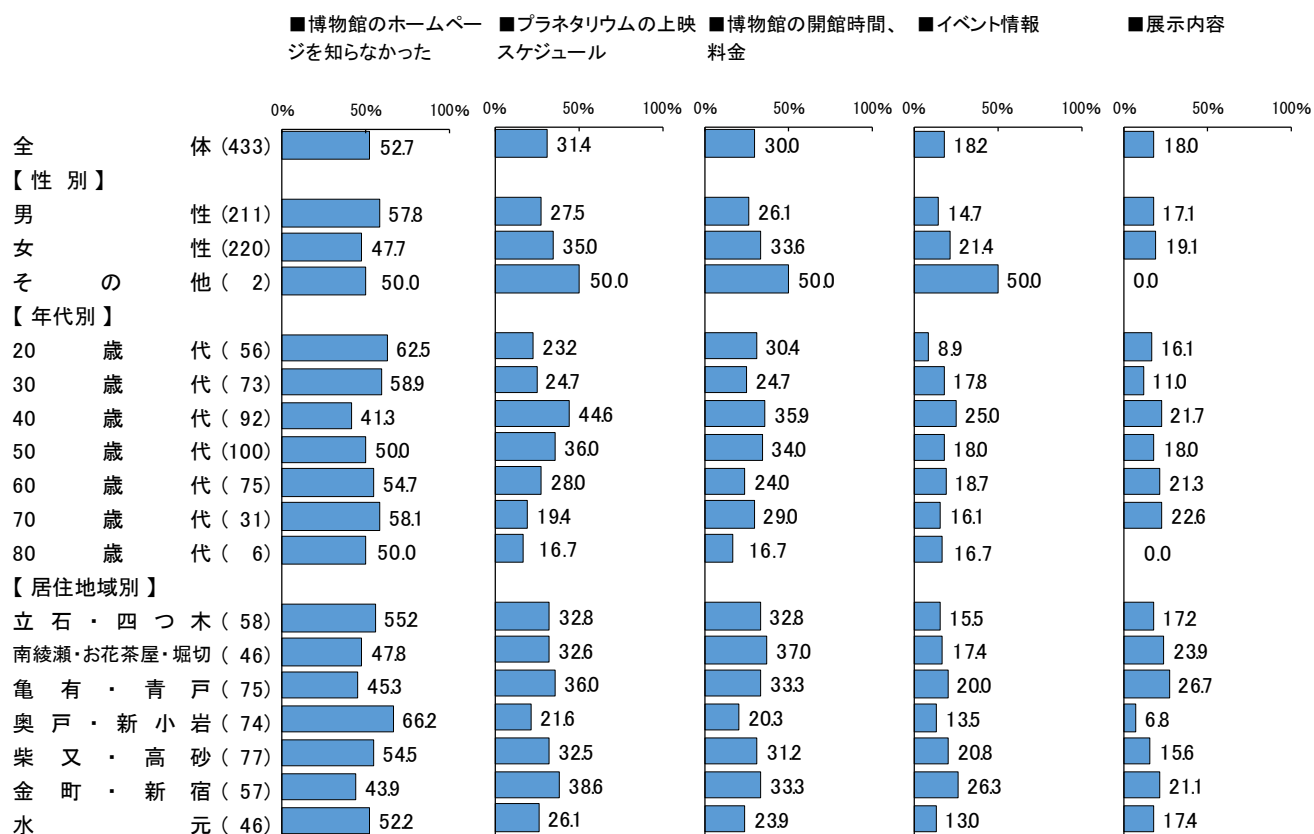
年代別でみると、「博物館のホームページを知らなかった」は、40歳代を除く全ての年代で5割以上となっている。また、「プラネタリウムの上映スケジュール」は、40歳代で4割以上と高くなっている。

「その他」の内容としては、「アクセス」、「見たことがない、分からない」、「HPがあるとは思っているが、見る機会(必要性)がなかった」などがある。

図表-61 博物館のホームページから得たことがある情報は何か（全体）



図表-62 博物館のホームページから得たことがある情報は何か
(全体・性別・年代別・居住地域別)



(32-1)「博物館」のイメージについて

問 32-1 「博物館」にどのようなイメージを持っていますか。(自由記述)

【主なご意見】

(学びの場)

- ・歴史や地理など自分の知らない事を学べる場所
- ・自然科学の知識が習得できる
- ・地誌学に親しみやすく触れる場
- ・安く楽しくいろいろな知識を得られる場所
- ・老若にかかわらず興味深く、おおいに学びの場であると思います。お子さんや時間のある元気なシニアだけでなく、車イスユーザーの方が、より来館しやすくなればいいのでしょうか。また、例えば区内の東京理科大学の学生さんたちに何かで参画を願ってみましてもと。実践しておられる折は失礼。
- ・冒険、探究心を目覚めさせ、新たな発見に出会い、文化、歴史や科学に関する学習によって自己の世界観を広げるワクワク空間
- ・知識を得られ素敵な時間を過ごす事ができる場所
- ・新しい知識を得られる場所、実際に体験できるコーナーなどが設けられており学習の場にもなっている。
- ・大人も子供も知識を深めるために身近な存在でイベントを増やして広くアピールした方がいいと思います
- ・大人へその物に関して分かりやすく説明し、子供には興味を持ってもらうように運営する場所
- ・テーマに沿った展示がしてあり、それを見学して、知識を得たり、歴史に想いをはせる場所
- ・天候に左右されず楽しめるので時期を気にせずいけるレジャー施設。知的好奇心を高められる
- ・子供と遊び(学習)に行くイメージ
- ・自由研究の材料などを集めたり、子供の興味が広がる場所
- ・小学生から中学生の学びの場に適していると思う
- ・実際の展示物を見ながら楽しく学べる場所というイメージ、子供に興味を持って欲しくて通わせたいが、行きにくい場所にあるためまだ行ったことがないです。最寄りの金町駅からシャトルバス的なものがあるとよいです
- ・学校の課外授業で行くイメージ
- ・子どもの頃は好きでよく行きました。色々な博物館めぐりをして、楽しかったし学ぶことも多かった気がします。新たな興味を引き出して、刺激を与えてくれる場所だと思います。
- ・歴史的な展示物などがあり、地域または地球の道筋を知ることが出来る場所

(展示内容等について)

- ・子供がおもちゃコーナーを気に入って遊んでいます。
- ・博物館はいいと思いますが特別な展示があるといいですね。
- ・田植えや星空観察等々、ボランティアを含め、地域密着型の素晴らしい博物館だと思います。
- ・イベントが開催されていて、魅力的です。人数制限があるので、抽選漏れだと、残念！と思う事があります。
- ・見るだけなので小学生には少々物足りない。触れる物などがあると楽しいようです。

- ・文化財・芸術作品の展示
- ・葛飾区の博物館であれば、葛飾区の歴史や風土、住む人たちの記憶について資料・情報を網羅的に収集・保存している場所。
- ・貴重な遺跡や文化遺産を展示する場所
- ・難しく子供は興味を持ちづらい
- ・ある程度子供が大きくならなければ楽しめない。
- ・ある程度のテーマ性を決めてそれに基づいた資料を展示する場所

(雰囲気など)

- ・とても良い施設だと、おもいます。
- ・とても楽しそう！大好きです。
- ・小さな子供が多いイメージ
- ・子連れで楽しめる場所。
- ・暗くて静か
- ・区民の憩いの場
- ・観客は少なく、好きな人がじっくりと見ているイメージ。
- ・落ち着いて観覧ができる。特にプラネタリウムと音楽の調べが気に入っています。
- ・普通に町のプラネタリウムかなという印象。
- ・どんなものか想像しにくい
- ・あまり、馴染みがない
- ・まじめ、面白みにかけている
- ・お堅い、入館料が高い、古臭い
- ・時間があれば行ってみたいところ
- ・興味がなければ行かない場所。
- ・興味はあるが、乳幼児連れでは利用しにくいイメージ。うるさくしてしまう、走り回ってしまう等の理由により。
- ・静かに展示を読んで進むイメージ。子どもが小さいまたは興味があるか分からないと行きにくいイメージ。

(その他)

- ・ともすれば予算が削られ蔑ろにされてしまうが、文化財の保存とそのための人材のために適切な支援が必要な施設
- ・博物館イコール国立博物館のイメージが強く、地元の博物館の存在が薄く感じられます。久しく足を運んでいないので、現在の博物館を今一度、確認したいと思います。
- ・史跡の少ない葛飾区でよく頑張って運営していると思う。
- ・上野の国立には何回か行っているが、葛飾区の博物館には興味を引くものを感じない
- ・コロナの時に感染対策のためにビニール手袋の使用を強制され、さすがに不快に思いました。それ以降は過剰な感染対策をしている場所というイメージになった。
- ・大切だと思うが、学校での行事以外は用途に欠けると思う

問 32-2 「プラネタリウム」にどのようなイメージを持っていますか。(自由記述)

【主なご意見】

(学びの場)

- ・天体と自分が住む場所についてビジュアルで体感的に学べる場所。
- ・宇宙を知る場所。地球について学ぶ場所。古代の人と同じ天体を見ていると思うとワクワクしました。
- ・子供も大人も楽しみながら知識を得る事ができる
- ・こども（幼稚園から小学生）の教育にとてもよい。
- ・恋人と行く場所、宇宙について学ぶ場所

(プラネタリウム番組、展示、星空について)

- ・光害のため星の美しさを感じられない人が改めて星の美しさを感じられるところ。
- ・司会が素敵
- ・星やギリシャ神話について知れる
- ・普段は見られない星や、星にまつわるお話を聞ける場所。季節の星座が夜空にどのように見れるかを教えてくれるので楽しい。
- ・わくわくする。夜空を見るのが待ち遠しくなる。幾つになっても学べる。
- ・星座の解説がされるがそれだけで特段面白くはない
- ・綺麗、子供が天体に興味を持つきっかけになる
- ・勉強になるしエンターテイメント性もある
- ・好き。本当に星を見ているみたい。理科に興味を持ってもらえそう
- ・東京では見られない星を子供が目にした時に感動を覚え、その後は旅先等で見上げる空を楽しむきっかけとなる素晴らしいイメージ。
- ・こどもたちが座ってゆっくりと普段は見る事が出来ない、星を見たり、星座をまなぶことができるスペース。
- ・宇宙旅行しているかのような、現実から離れた世界へ行ける場所
- ・非日常体験、夢を見られる、リラックスできる
- ・勉強よりも、感動と癒しの場所
- ・希有壮大な宇宙空間への想像力の喚起、悠久の時間の再認識
- ・時間の過ぎるのを忘れる！
- ・独特な投影機器 星座の説明 気持ち良い場
- ・こちらのプラネタリウムの機材が話題になっていたことを知っていました。リニューアル後は、まだ見てないので、一度行ってみたいと思います
- ・説明を聴きながら星空を見ることができるところ。アーティスト楽曲の仕様や、リラクゼーションなど、目的によって様々なプログラムがある。
- ・宇宙の大きさを認識し壮大なロマンを感じる空間。実際と空想の世界を感じて創造性を養う。
- ・大人へは星に関して色々な角度から分かりやすく説明し、子供には興味を持ってもらうように運営する場所

(その他)

- 普通の町のプラネタリウム
- スカイツリーやサンシャインシティにもプラネタリウムがあるので身近な存在だが普段行くことはあまりない。
- 区で持っているのは少ないので積極的に広報するべき。
- 大勢の子供たちが学校行事で体験できる施設と思うので他区にもピーアールすべき。
- 葛飾区にあることは、誇りに思うが、どの程度の利用があるのか分からない。
- 行った事はないが、葛飾区にある事は素晴らしいと思う。機会があれば行ってみたい。
- 近所にプラネタリウムがあるのは珍しい事で子供が小学生の頃は宿題や夏休みの課題でよく利用していました。また東京大空襲で葛飾区も被害があった事を博物館で知りました。
- 長年変わらない
- 話では素晴らしい設備のプラネタリウムなので、ぜひとも見学に訪れたい。
- 機会があれば、是非見に行きたいです。
- 地元でプラネタリウムがあるのは知っていますが、入った事がないためイメージがわきにくい
- 区内にプラネタリウムがあり誇らしい！
- 退屈(星座に興味が無いため)
- 静かにしなければならぬため、赤ちゃん連れでは行かれないイメージ。
- 場所が遠い。交通の便が悪い。
- リピーターとそれ以外に分離している。

(33-1) 「博物館」の事業内容に期待することについて

問 33-1 「博物館」の事業内容に期待することは何ですか。(自由記述)

【主なご意見】

(学びの場、イベント)

- ・小さい子供でも興味の持てるようなイベントや展示をしていただけるとまた子供の学ぶ場にもなるかなと思います。
- ・大学とのワークショップなど、展示物や研究についてしれる機会の提供
- ・資料の保存と収集の継続と、そのための予算増加。また、区民や企業が持っている資料や記憶の保存方法についてもアドバイスが欲しい。子どもたちへだけでなく大人にも、地域の歴史の伝達と、博物館の存在意義について納得がいくようにわかりやすく教えて欲しい。
- ・学生の頃行ったきりなので、大人でも行きやすそうな催し物
- ・夏期、自由研究のサポートなどがあれば助かる
- ・自然に関するイベント期待しています。
- ・イベントを多く開催し、身近な場所だと認識してもらいたいと思う。子育て世代のママたちはフリーマーケットなどのイベント大好きです
- ・葛飾区は川に囲まれて非常に良い位置にあるので、実際の観測機会があると言える。できれば流星群がいつ来るので、何処で観測会等をやるとか、広報誌でお知らせするとか、して欲しいです。私は江戸川沿いに住んでいて、流星群を見る機会がありました。その時間帯街灯を消してくれたので、よく見えましたよ。今はそんな事は無いけど、またやってください。
- ・地元の昔のこと（先史時代から江戸時代くらいまでの間で）を研究している方の話を聞きたい。
- ・小中学校への出張授業
- ・中学生の職場体験に利用できるとうれしい。

(展示内容について)

- ・堅苦しくなく楽しく見物できる事。
- ・わかりやすく、知識が豊富になるような場所にしてほしい。
- ・有名な作品などの展示がされること
- ・新浦安駅にある博物館みたいに、体験型のものがあるととっても楽しめる。
- ・定期的にテーマ展示をして欲しい。知識を得られたり、興味を起こしたりと楽しい空間であって欲しい。
- ・医療の勉強をしてるから人体や微生物など、少しマニアックなところまで展示してくれるイベントがあったらいいなと思っています
- ・他の地域にない特色がある展示
- ・普段見ることができない展示がある
- ・展示品の凄さのアピール
- ・区外からも来館したくなるような珍しい展示
- ・マンガ、おもちゃ、月面探査、物流、交通網など果たしてきた役割、実績や次のアプローチの展示。

- ・『残念な生き物』という本は、簡潔で、ユーモアがあり、普段興味のない虫などのページでもつい読んでしまいます。あのような楽しい展示があると良いと思います。
- ・アニメなど取り入れ（行っているかと思いますが）興味深い気持ちにさせていただきますと幸いです
- ・最近行っていないので展示内容がわからないが、子どもが小さい頃に連れて行ったきりであり、大きい子には少し物足りない場所だと思う。時代に合わせて今の子に興味をわくような展示方法になっていけば良いと思う
- ・乳幼児も楽しめる場所や展示を提供してほしい
- ・大人が楽しめる内容。この手の施設は子供向けのものばかりなので
- ・葛飾区で生まれ育った人が郷土の事や歴史を知るには良いと思う。常設だけでなく企画展示も充実していると、区外の人や行った事のある人も何度も足を運ぶと思う。学校でもどんどん活用すべきだが、老人会等でも活用したらいいと思う。（団体受付の事はよくわからないが）
- ・葛飾区内には、古くからの地主や何代も続く豪農が存在しておりますが、過去の歴史についてまとめた記録を、公開してほしい。
- ・葛飾区の過去を知り、今後の未来に何を残し大切にしていける事が必要なのか、またどのような災害が起きやすい場所なのか等を知り、改善する必要や気を付けるべき点に気付く場所であること。行って楽しいと思える場所であること。
- ・古代と現代がどのようにリンクしているか繋がっていると若い人も理解が進むかと思います
- ・江戸時代のかつしかがどのような存在だったか、区民なら誰でも知ってる、くらいの情報を発信してほしい。
- ・戦時中などはどうだったのかも、興味深いです。拘置所の成り立ちも興味あります。
- ・見せ方と解説。この2つの要素で興味の深度に大きく影響すると思う。例えばショーケースに入れ個別展示だと想像の範囲は限定的になってしまうが、時代背景の描写や関連する展示物を総合的に展示することで、世界観に没入する事ができて、創造性が拡大する。そこに、解説が加わることでより一層当時の情景が具体化される。
- ・葛飾区がいつまでも輝いていける様に文化などをいつまでも発信し続けてほしいです。
- ・葛飾区の昔の歴史だけではなく今現在のことも扱ったものにしてほしい
- ・将来の子ども達に知的好奇心を高めてもらい、身近な生活の中から未来につながる企画をして欲しいと思います。

（料金、アピール事項など）

- ・無償化
- ・子どもにいろいろな情報を無料で提供し、可能性を広げてあげられること
- ・利用したことがない区民が多いので積極的にPRして欲しい
- ・多くの人に観てもらおう為に、メディアを活用した広報活動。
- ・営利を追求する事は不可能だが、人が集まるような努力はする事が必要。
- ・イメージキャラクター
- ・新しいことにチャレンジしてほしい

(施設について)

- ・今時のカフェを併設したり、居心地の良い空間があれば、と思います。
- ・食事などもできれば良い。
- ・遊戯場などと違い、儲けが出にくいと思われるが、興味ある人が見に行けるように、維持してほしい。
- ・幼児でも連れていきやすい遊び場のようなものも兼ねて欲しい。
- ・上野とかとは違い、入りにくさがある。子供向け、子供が行くイメージ。もっと大人でも入りやすくしてほしい。
- ・子供も大人も気軽に行くことができ、何度行っても楽しめること。
- ・もっと数が増えたら嬉しい。

(33-2)「プラネタリウム」の事業内容に期待することについて

問 33-2 「プラネタリウム」の事業内容に期待することは何ですか。(自由記述)

【主なご意見】

(学びの場)

- ・子どもへの刺激や学び
- ・利用者が綺麗な星を鑑賞しながら癒しや星についていつまでも学べる様に期待しています。
- ・子どもが宇宙に興味を持てるように、小学校、中学校の授業の一環としての役割。
- ・室内と野外等で対比を子供達にとっていいと思いますので、夏休みとかそういう企画してください。
- ・星の解説だけでなくそれに付随する神話の解説
- ・宇宙科学、天体などが学べると良い
- ・最新の天文学・物理学の解説
- ・現在の宇宙開発の状況や、未来の宇宙の様子を想像するような学習の場作り

(プログラム・イベント等について)

- ・天体観測の予行練習になるようにその時期にあった投影、説明があるとよいです
- ・水中とか、成層圏とか、宇宙との境目あたりとか投影したら区民の皆さん、歓ぶと思います。
- ・天体観測だけでなく知識を得られること、地球について、強いては地球の環境問題などにも言及するくらいの内容であって欲しい
- ・星座の解説以外で星に興味を湧くようなプログラムの開催
- ・子供向けの上映を午後にも行ってほしい
- ・フォトスポットとか若者も楽しめる要素
- ・体験事業
- ・天文の常設展に関しては、文字の説明だけでなく、以前置かれていた天体の動く模型も設置してほしい
- ・子供のプログラムはたくさんあるように感じるので、ヒーリング系の大人も楽しめる内容があれば嬉しい
- ・星が好きで3歳の孫を連れて行きたいけど最後まで静かにしていただけるか心配です。未就学児の少々おしゃべりしても大丈夫なイベントなどあれば行ってみたいです
- ・私たちは低年齢の子どもと見に行く機会がありましたが、中高大学生等だけが見に行ける時間帯を作り、気軽にデート出来るスポットになっても良いと思います。
- ・また、音楽とのコラボを期待します。
- ・火星移住についての情報提供
- ・定期的な作品入れ替え
- ・乳幼児も楽しめるコンテンツ
- ・リラックス効果がある展示
- ・本来の夜空の追求。
- ・様々なテーマコンテンツの上映。最新技術の導入。空間の演出 映像・サウンド、香りの演出など。ヒーリング空間としての利用

- ・高性能のプラネタリウムなので、性能を活かしたイベント。宇宙関連のイベント。プラネタリウムで疑似体験した後に、実際に外で同じことが起こることを体験する
- ・以前ハワイの空をイメージしたイベントをやっていたので、またやって欲しい
- ・区民の誕生日の夜空を無料観覧する企画
- ・最新の天文学の話や、望遠鏡などを使わずに楽しめる最近の天文現象を教えてほしい。
- ・今もやっているが、星空とコンサートみたいなのはいいと思う。今はいろいろな物が投影できるので星空にこだわらない物でもいいと思う。アロマをたいたり、飲み物を飲みながらとか、視覚聴覚だけでなく嗅覚味覚も楽しめるが良い。
- ・自然の星空観測の機会を作るイベントを増やしてほしい
- ・鑑賞時間より移動時間に費やす方が多く足を運びにくいイメージがあるため、プラネタリウム以外にも充実したコンテンツがあると良いと思います。
- ・静かに見たい人向け、子どもや障がい者などが声を出しても見られる人向けなど、回を分けてほしい！
- ・平日の複数メニュー上映

(アピール事項など)

- ・無償化
- ・料金は少し高くても画像が綺麗な状態を期待しています。
- ・認知すればもっと人が来るポテンシャルがあると思う。
- ・区民の老若男女皆が一度は足を運んだ事がある位の認知度にしては？曜日によって無料開放日を作るとか…
- ・地域であるとならないでは大きく違うので、定期的なイベント等でPRする事が大事だと思う。
- ・星の話を通して子供たちに夢を与える。大人でも又、行きたいと思える事。広報などで催し物をどんどん情宣して欲しい。
- ・広報に、プラネタリウムのメニューを記載してほしい。
- ・最新技術を駆使して情報提供があると良いと思います。
- ・孫と行く前に、この機会なので見学に行く予定。流星群とか日蝕月食についても是非とも発信して下さいませ。
- ・記念グッズの増加

(施設について)

- ・1週間に1回は通りますがいつも閉まっているようなイメージです（人があまりいない）。気軽に入りたい気持ちはあります。
- ・普通の椅子タイプだけでなくクッションタイプのようにくつろげる席も用意する
- ・建物がおしゃれだったり、複合施設の中であれば行ってみようと思うかもしれません。
- ・子供だけでも行ける児童館のような施設にして欲しいです。
- ・プラネタリウム自体がなかなか最近はないので、大変貴重な施設だと思います。リアルな星空がなかなか見られないので、人工的なエンターテイメント性の高い物から、リアルな映像の物まで、色々上映して頂きたいです。

- ・全天候の設備を利用して、葛飾の四季をプラネタリウムにいかす。星座に興味ある、子供、親を惹き付ける事業内容
- ・区民が利用しやすい。楽しい
- ・交通を『バス停留所』が近くにあると嬉しい
- ・平日の昼間も放映があると良い。
- ・今後も継続して欲しい

《調査全般を通じて》

令和6年度第2回葛飾区区民モニター調査について、ご意見がありましたらご自由にお書きください。(自由記述)

【主なご意見】

(行政について)

- ・今まで何気なく過ごしていましたが、区の努力がよく分かって来ました。
- ・諸々の情報が認知出来ていないのは、こちら側が取りに行かない事もありますが、何処に取りに行かなければならないかを認識出来ていないことが問題ですね。
- ・知らないことが多くびっくりする。葛飾区の事を知ったり興味を持つきっかけになって良いと思う。
- ・プラネタリウムはもっと宣伝して活用すべきです！学校の授業にも是非使って欲しいです。
- ・いつもありがとうございます、得られた回答をどのように活かしていくのかが重要かと思えます。地域の皆様が愛していける地域になっていくことを期待します。
- ・この調査の結果をまとめ、議論し、結果を反映させるために活動する方々の年代が気になりました。区政への関心が高まっています。

(調査について)

- ・答えやすく良い
- ・まだまだ区にいても知らないことがあります。調査を通じて関心を持っていきたいと思えます。
- ・子供がいないので、子供に関するアンケートは回答しづらかったです。
- ・何も知らない事ばかりでモニター調査で知る事ができました。広報かつしか以外に今後はHPも確認しようとおもいます。
- ・締切1週間前あたりで回答がない場合は、再度メール等を頂けると助かります。
- ・サクサクと進めやすかった
- ・ランダムに選出した500名の調査と聞いています。応募した方は高齢者が多いのではないかと推察します。その点を踏まえてのご判断を期待しております。
- ・知らない事が多いので答えが噛み合わないような気がする。
- ・調査結果をどのように活かして行くのかを可能な限りフィードバックしていただきたい。
- ・博物館もプラネタリウムもまず映像か何か資料を見せてからの質問にしたらどうでしょうか？
- ・案内が届いた時は驚いたが、良い取り組みだと思う。たくさんの人に実施して、小さな事にも耳を傾けてほしい。
- ・子供についての質問は、子供のいない私には関係ないかと思いましたが、質問を読んで行くうちに、子供がいる、いないに関わらず、地域で子供のことを考えて行く必要があるのだなあと思いました。ただ金銭的な支援をするのではなく、地域でできることを考えて参加できるような場所や事柄があればいいなあと思いました。
- ・最初入り方が分からなくて時間がかかってしまいました
- ・記述する所が文字が小さい
- ・日々、考える事がないので自分の気持ちや考えを再確認や気づきができました

- どんな回答をするか、考え込む質問が多かった。回答はしたもの、上手に言語化できなかった。
- 地元が好きなので、こうやって参加できることがとても楽しいです。そして当事者意識が出るので葛飾への関心が高まります。
- スマホ依存症にならないで、別の方法などで回答出来るようにはなりませんか？
- 区民が意見を述べる機会はないので、楽しいです
- 私は50代ですが若い人がもっと興味の湧くような広報やアピールをしたほうが良いと思います。
- 集計が難しいのかもしれないが、モニター調査は全ての区民が行った方が良い。
- モニターの回答がみれると良い
- なぜそれを選択したのか、背景が分かるような質問があった方が、調査結果を分析しやすいのでは、と思った

令和6年度
第2回葛飾区区民モニターアンケート調査報告書

令和6年（2024年）9月発行
葛飾区総務部すぐやる課すぐやる係
東京都葛飾区立石5-13-1
電話 03-3695-1111（代表）